

期待される銀行
ご奉仕する

十六銀行

新立 明治10年
本店 岐阜市

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一 部 35円

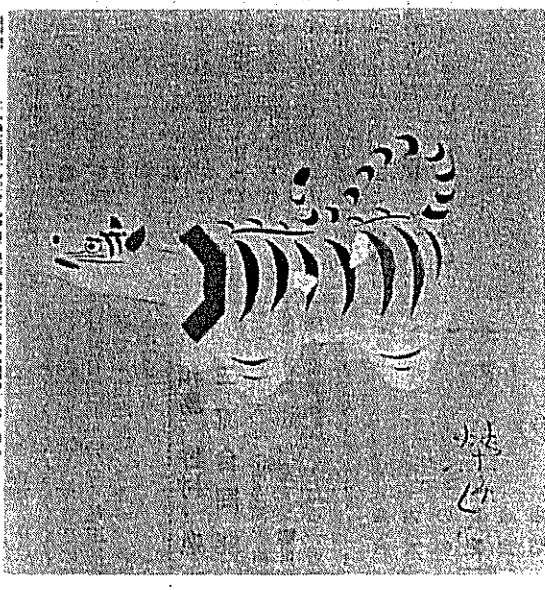
県・市に義捐金 託

能楽協会名古屋支部

社団法人能楽協会名古屋支部では、旧うら二日、昭和四十八年度の支部関係行事の掉尾を飾る演能として、熱田神宮能楽殿で歳末助け合い義捐金募集会を開催、各流能楽師の奉仕と同好者の暖かい協力と支援により盛会であった。

名古屋支部では、この收支決算の三十万八千六百円と、中部能楽師協会基金から二万円を加え、合わせて三十二万八千六百円として支部代表が愛知県民生部、名古屋市民生局にそれぞれ十六万四千三百円ずつを寄託した。

名古屋支部の歳末助け合い能は今回で五回目、愛知県、名古屋市からそれぞれ感謝状が能楽協会名古屋支部におくられている。



面 二 井 栄 逸

本年のご協力を期待

能楽協会名古屋支部
藤田支部長談

ことしはトウ年、中部能楽界においても昭和四十九年は活潑な演能が期待されるが、能楽協会名古屋支部藤田六郎支部長は、年頭にあって次のようにあいさつしている。

「昨年は、名古屋支部、中部能楽師会として、熱田神宮奉納能、薪能、大衆能、歳末助け合い義捐能に取り組み、滞りなく催すことができたことを感謝する。とくに新能はきわめて盛況でまことに同慶の至りである。

本年は前進の年として、いっそ

謹賀新年

熱田神宮能楽殿

謹賀新年

熱田神宮 宮司 篠田康雄
権宮司 長谷晴男

う斯道のために努力する所存である。能楽愛好の方々にもご支援とご協力をおねがいしたい。」

を難鳥が教わるのが早く一週間のより二週間で覚えられます。実に不思議です。

難鳥は専門家が山へ行き、果を叩し、差し紙で飼育し、親鳥の声を聞きながら、雛鳥が教わるのが早く一週間のより二週間で覚えられます。実に不思議です。

第一節(午前10時開演)
金剛流能「清経」(小書披露之出題)シテ金剛殿、ツレ豊島三千春、ワキ高安滋郎
喜多流能「鞍馬天狗」(小書白頭)シテ友枝宮久夫、ワキ福王茂十郎
和泉流能「井抗」野村万之丞、野村又三郎、野村貞良
第二節(午後四時開演)
観世流能「安宅」(小書勸進帳延年之舞)シテ観世正昭、ワキ江崎金治郎
宝生流能「井筒」(小書物語)シテ宝生英雄、ワキ久保田千三郎
金春流能「藤戸」(小書後之田)シテ金春信高、ワキ高安滋郎
大藏流能「金藤左衛門」善竹忠一郎、安東伸元

大阪芸術賞金賞受賞
大槻秀夫師「滅捨」
四十八年十一月三日大槻清韻会別会で演ぜられた大槻秀夫師の「滅捨」に大阪文化祭芸術賞金賞が授与された。

なお同師は四十四年にも「定家」にて同じく金賞を受賞している。

学生能には特別割引
熱田神宮能楽殿の使用
熱田神宮能楽殿では、学生能の演能にあたり、能楽殿の使用料を本年から半額とすることになった。このことは、本紙の同人座談会(本紙⑥面)でも語られているが、能楽殿運営委員会委員長長谷晴男氏は「斯道のため、若い人たちの演能、鑑賞の機会を助成することができれば非常に意義あることである」と述べている。

名古屋観世会

観世元正

中日文化センター特別教室
観照会
昭門会
観世元昭

熱田神宮能楽殿運営委員会

委員長 熱田神宮権宮司 長谷晴男
皇学館大学教授 岡地幸雄

委員 熱田神宮権宮司 岡地幸雄
熱田神宮権宮司 嵯峨井守
熱田神宮権宮司 柴田初太郎
シテ方 観世流 殿島修二
シテ方 観世流 内藤泰二
シテ方 宝生流 山田仁三郎
シテ方 金剛流 山田仁三郎
ワキ方 高安流 高安滋郎
笛方 藤田流 藤田六郎兵衛
小鼓方 幸清流 福井啓次郎
大鼓方 石井流 河村総一郎
太鼓方 観世流 鬼頭八郎
狂言方 和泉流 井上松次郎
月見ヶ丘開発 高橋半次郎
株式会社社長 桐本陸良
岡谷不動産 桐本陸良
株式会社顧問 桐本陸良
茶道 松尾流 松尾宗吾

大槻清韻会

大槻秀夫
大槻文蔵

大阪市東区上町二番地

名古屋 観世九皇会

観世武喜之
観世武雄

梅若六郎
片山博太郎

井上嘉久

増田一雄
塚本秀雄
有賀滋子
長谷川章
高木美智子
加藤保彦
青木武弘
吉田妙

京都府北区紫野下馬田町六

大槻清韻会

大槻秀夫
大槻文蔵

大阪市東区上町二番地

観世九皇会

観世武喜之
観世武雄

梅若六郎
片山博太郎

井上嘉久

増田一雄
塚本秀雄
有賀滋子
長谷川章
高木美智子
加藤保彦
青木武弘
吉田妙

京都府北区紫野下馬田町六

去の回想だけに生きていくのでは
ない。したがって娘をそうした過
去を思い出させる役割だけではな
く、新しい現在の彼に出会って、ど
うにか、新しい現在を知りたが
り、

印象に残った。病いの母への心配
は、表面にはでてこない。しかし
そうさせるワキとの関係は、舞台
ではあまり明瞭ではなかった。墨
では、山間へ旅行せられ、

りました。その演の教育に就いて
この明瞭の原理に依り名鳥の啼き
方を難鳥に仕込む方法に就いて参
考になる事を御話致し度いと存じ
ます。山間へ旅行せられ、

暗い部屋を設けて頂き度いと思
う次第であります。
明は飛び上り、暗は落付く事に
なります。故能も今少し舞台を暗く
しては如何と存じます。

片山慶次郎
京都府北区山下花ノ木町二
千603
電話 四九二一五三〇番

大 江 又 三 郎
京都市東山区本町廿丁目
電〇七五(五六一)〇六二番

梅 若 六 郎
京都市東山区美町九
吉田 義 正 方

梅 若 三 郎
梅 若 紀 夫
梅 若 万 晴

橋 研 能 会
橋 香 会

藤 井 久 雄
藤 井 徳 三
藤 井 樂 人

掬 水 会
柴 田 初 太 郎
柴 田 収 武

片 山 慶 次 郎

大 江 又 三 郎

観 世 武 喜 之
観 世 武 雄

梅 若 六 郎

井 上 嘉 久

増 田 一 雄
塚 本 秀 雄
有 賀 滋 子
長 谷 川 章
高 木 美 智 子
加 藤 保 彦
青 木 武 弘
吉 田 妙

京 都 府 北 区 紫 野 下 馬 田 町 六

大 阪 市 東 区 上 町 二 番 地

名 古 屋 市 千 種 区 今 池 町 二 九 九
電 話 〇 五 二 七 三 一 一 四 一 八 三

能紀行

(36)

あらたまの

絵と文 二井栄逸

あらたまの、年たちかえる、夜明けの光茫とも昭和四十九年がはらばらと明け渡った。若さを呼びかえす若水。聖なる世界を区画するしめ柵。常緑の生命の象徴である門松。この古代的な祭儀を私達は、いつの年もすなおに新しく清浄な気持ちでとり行うのである。そうすることによって、年の改まるたびに何もかもが清められ魂も新しく復活し、豊かに年輪を重ねてゆけるような気がするのである。

消費の美徳から節約の美徳へ。これはこうなるのが当然なのだ。すべてのものにはそれ相応のいのちが宿る。そのいのちは大事に使ってやらねばならぬ。これまでであらまの物にめぐまれ、つい贅沢になり物を粗末にしてきたことは否定出来ない。

使い捨ての物がふえ、世は消費を美徳とする風潮におうわれ出したが、石油危機という警鐘は、人を本来の節約への美徳に立ち返らせた。そして、有限のエネルギー源から無限のエネルギー源への開発も急ピッチになった。物が充ち分る時こそ、其の一つ一つの使命といのちを大事に考え、あまのものは備蓄をすべきだったのである。それは自然のめぐみに対する感謝のしるしなのである。そして忘れ勝ちである大事なことを、我々が活動している時も、ねむる時も常に自然に守られ、生かされているという事実を、せめて正月だけでも、静かに想い起すべきだと思う。生かされている喜びを知るとは又、生かす喜びを知ることであるから。

私は幼い時から花はさきを持ちつて多くの花を切ってきたし、これからもどんく切つて花のいのちをうばつてゆくであろう。花を愛するが故に花のいのちをうばわなければならぬのは私の宿命であるかも知れない。ふと自然をむしばむのは実はこの私ではないのかしら、と、思ったりする。もの



想

二

三井の能
二日の義捐金
募集金を最後
に幕を閉じ、

能楽の友も雑誌として早くも八周年を迎えた。ついでこの間のように思えるのだが、本号は既に八十号となった。創刊の生みの親と

の生命を大事にしない、とは、父からよく教えられた事であるが花を愛するが故に、その花をより以上に美しく、明るく、歌わせてやりたい、踊らせてやりたい気持ちで、さきになる。しかし、そのことが多くの人達の情操の陶冶に役立ちたり、生活にうらおいをもたらすのだった。花は私に切られるのを喜んでくれるのではないかと自分勝手に考えた。わびすけ梅、柳、福寿草、千両やぶこやし、松竹梅等、正月の花は今年もあいかわらずそのみづみづしい姿そのまゝに花壇から運ばれてくる。初生けをする花のおみな達は、やはり能のおみな達のように清らかで美しく、日本の心をたよらすのであった。

〔さし画は小面〕

水盤にそそがれる水は、賀茂川の清流から導き入れられる清涼殿の御清水(みかわみず)のように清冽でなければならぬ。能と花、能の心、花のこころは、究極で一つになってしまおうし、其の幻影を追いつづ、私は、意欲をやしつづける。

そして、能のおみな達は、或る時はつゞまじやかに、或る時ははげしく、私をゆきさぶり、幽玄、ものあわれ、神、枯淡、涙、わび等、ありとあらゆる日本の美を教えてくれるのである。そんなことで私の描く絵は、或いは常識を超えて飛躍するかも知れない。それだけ能は奥深く、幻想的で、宇宙のはてまで飛翔する不思議な力をもっているからである。

会と催し

○能楽協会名古屋支部の創立式は三日午前十時から熱田神宮能楽殿で「四海波」を連吟、新春を寿いだ。

和島、野村、泉
三流合同能

和島富太郎(喜多流)野村又三郎(和泉流)泉嘉夫(観世流)三師の合同能は、さたる一月二十七日。

日熱田神宮能楽殿で催されるが、この合同能は今回で五周年を迎えることになり、その意義は高く評価されている。今回は、特に五周年を記念して番組編成に意をそそぎ理解しやすく、しかも質の高さを併せもつた名曲をそろえて公演される。(番組⑥面)

〔改名〕大鼓方喜野流・飯島六之丞氏(金沢市香林坊二の八の八)は飯島六乃輔と改名された。

演能カレンダー

(熱田神宮 能楽殿)

1月	2月	3月	4月
15日(祝) 故大興十三師追善名古屋清韻会能 (来聴歓迎) 20日(日) 宝生会定式能(有料) (番組④面掲載) 27日(日) 喜多流・和泉流・観世流三流合同能(有料) (番組⑥面掲載)	10日(日) 観世会定式能(有料) (番組④面掲載) 11日(祝) 大蔵流狂言名古屋会 (来聴歓迎) 17日(日) 梅猶会能(有料) (番組④面掲載) 24日(日) 青陽会能(有料) (番組⑥面掲載)	3日(日) 九皇会春の大会 10日(日) 観世会春の大会 21日(日) 龍吟正会 24日(日) 久田親正会 30日(土) 三養連合会	7日(日) やるまい会能 14日(日) 観世会定式能 21日(日) 猶盛義彦 28日(日) 大興十三師追善能 29日(日) 幸友会春の会 (演能変更の際はご了解下さい)

賀正 誠交会 奥 善 助 東京都世田谷区三軒茶屋三二一〇一三三 電話(〇三)四三二二二六三七番	名古屋橋岡会 事務所 名古屋昭和区曙町二丁目六 加藤 良久 方	大西信久 大西智久 大阪能楽会館	上田観正会能楽堂 上田 照也	財団法人 鎌倉能舞台 中 森 品 三 中 森 貫 太 〒248 鎌倉市長谷三二五五十三 電話(〇四六七)五五五七	武田詠楽会 武田 小 兵 衛 武田 欣 司 武田 邦 弘	梅猶会 梅 若 盛 義 梅 若 猶 彦	名古屋淡交会 橋岡 久 共	毎日婦人文化センター 謡曲教室 風韻会 殿島修二	猶恵会 熊沢恵美子 名古屋千種区高針大廻間 西二社団地 一四一五〇三	嘉誼会 加藤総兵衛 名古屋千種区青柳町五ノ一五 電話(七四二)四六七五番	邦謡会 梅田 邦 久	野口 緑 久 東京都港区西麻布四一八二二八	竹翠会 若松宏守 (〒662) 西宮市平松町四一九 電話(〇七八)二三一〇六〇一	大垣浦声会 樽古場 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦田 保 利	壺泉会 泉 嘉 夫 名古屋昭和区山里町 南山大学 八三二一三二一五 電話八三二一三二一五 西宮市甲園園目神山一の七七八	竹韻会 杉村 竹 翠 名古屋千種区藤ヶ丘八三三 電話七七一五〇三九番	玉鑿会 京都市左京区 永観堂西町二〇 洗心会 南条秀雄 華心会 奥村富久子 電 075-771-0767	此水会 高野瀬 透 水 藤 元 三 水 雲 三	田村正諷会 大坂市東区東成町一五一五七 電話(七〇三)五一五七番 徳島 正 韻 会	金剛流豊星会 豊嶋 弥 左 衛 門 豊嶋 三 十 三
--	---------------------------------------	------------------------	-------------------	--	---------------------------------------	---------------------------	------------------	--------------------------------	--	--	---------------	--------------------------	--	--	--	---	---	-------------------------------	--	----------------------------------

昭和四十九年度 第一回 観世会定式能

昭和四十九年二月十日(日)午前十一時始
熱田 神宮 能楽殿

翁 親世 元正 三番皮 井上松次郎
佐藤 太俊 千歳 和泉 保之和
久田 秀雄 親世 元昭 観世 清和

鶴 亀 高安 勝久 河村 総一郎
西村 欽也 幸野 中正和
飯富 雅介 福井 良久 藤田 六郎兵衛

福の神 狂 佐藤 秀雄 岡田 光枝
梅田 邦久 地謡 加藤 兵衛
山本 勝一 杉村 竹翠 藤井 久治

花 籠 山本 博之 吉田 定男
後藤 孝一郎 水藤 元三
殿島 修二 藤野 増一
地謡 藤井 四郎

舟舟 河村 真之助 高安 勝久
親世 喜之 飯富 雅介
井上 礼之助 福井 啓次郎
地謡 長谷川 武章
青木 末吉 山本 邦久

附祝言 柴田 收武 地謡 長谷川 武章
山本 博之 真柄 米次 梅田 邦久

主権 名古屋観世会
十一月十日(第五回)
葛城 大和舞 片山 博太郎
景 清 観世親之丞

昭和四十九年度予定番組
四月十四日(第二回)
梅若 万三郎
梅若 万三郎
梅若 万三郎

阿熊 野 梅若 六郎
九月八日(第四回)
親世 元正

井筒 親世 元正

青陽会 二月二十四日(日)正午始
熱田 神宮 能楽殿

梅猶会能

二月十七日(日)午前十一時始
熱田 神宮 能楽殿

菊地 重郷 西村 欽也 吉田 定男
柳原 富司 寛 三男

難波 殿島 修二 久田 秀雄

東 北 佐藤 太俊 河村 延二

杜 若 杉村 竹翠 岡田 朗

熊 坂 網之段 杉村 竹翠 岡田 朗

山 梅若 修一 梅若 盛義
白 飯富 雅介 福井 啓次郎
藤田 昭彦

班 熊沢 恵美子 高安 勝久 河村 総一郎
高安 勝久 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛

因幡堂 井上 礼之助 佐藤 卯三郎

山 梅若 修一 梅若 盛義
白 飯富 雅介 福井 啓次郎
藤田 昭彦

1月・2月放送予定
NHKラジオ第一放送(毎週土曜日午後6時5分)

1月 19日(土) 親世流 「自然居士」 山階信弘ほか
26日(土) 親世流 「望月」 大槻秀夫ほか

2月 2日(土) 金春流 「放下備」 桜間金太郎ほか
9日(土) 宝生流 「花月」 三川泉ほか
16日(土) 親世流 「隅田川」 親世親之丞ほか



喜多流 山本 才
名古屋千種区山崎町二丁目二番
名古屋大学 官舎

林 鉄 郎

麦 の 会

長 田 宜 驍
衣 斐 正

和 谷 亀 二 郎

宝 生 弥 一

岡 村 保 道
三重県度会郡玉城町田丸三三五

脇 方 高 安 流
谷 田 宗 二 朗
東京都北区衣笠街道野町31-7
電話(四六三)四八七五番

福寿草咲くやこの花七十四

高 安 流 白 水 会
和 泉 太 郎

喜多流謡曲 福岡周斎

豊 島 十 郎
東京都品川区三葉二丁目八十二番
電話(七八六)四〇九二番

川崎市多摩区生田二〇三七

京 都 高 安 会
岡 治 郎 右 衛 門

大 阪 喜 多 会
和 島 富 太 郎
宝塚市宝梅一丁目十二番
電話(七九七)一八六三〇

福 王 茂 十 郎
大坂市東区平野町一丁目一五番
西宮市名次町六ノ二

幸 圓 次 郎
東京都中野区中央四丁目七一
電話(三八一)九四一三番

幸 義 太 郎
東京都中野区丸山二丁目二四番
都立丸山アパート一号楼三二〇号
電話(三三七)五六七二番

大 倉 正 十 郎
源 次 郎

山 忠 三 郎
吹田市山手町一丁目二二番
電話(〇六)三三二八番



前 川 善 雄
京都市右京区御室多福町一ノ六

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その16)

規律と緊張

これと同じようなことではありますが、よほど以前に名古屋で鷹治郎という役者が、獄中の渡辺華山に扮して、多くの囚人はみんな寝ているところで往事を述べるといふのを見たことがあります。

その物語は、しぐさが約一時間に渉ったひとりで舞台で、寝たふりをしている囚人どもはさだめし退屈なことであろうと感じました。その夜、その鷹治郎と同じ旅宿にあって自分は、備宿してみると、隣室の同僚の室で盛んに罵る声が聞こえます。聞くともなしに耳をすまして聞いていると事実はこの日の演劇中、舞台上で囚徒に扮した門弟どもの誰かが小音で雑談を交わしたりまたある者は真に寝入ってしまったので叱られているところなのでした。その小音を「かいつまんでいうか」とお前たちは舞台をなんと心得ているか」といことを主眼として、「なるほどおれ」といことを主眼として、時間もかかるのだから、ねむくもなうし、つらくもあらうが、しかし考えてみるおれひとりでは芝居は打てない。たとえなんの仕ぐさもなく寝ているとしても、それがあればこそ場面も整うので、お前たちも芝居をしているのではないか。寝たものだからとて本当に寝てお前を叩いて芝居になると思うか。ましてベチャベチャ喋っているなどはもっての外だ」といのです。なんでもないと思えばそれまでですがさすがうまいことをいって感じさせられました。

(大槻世・昭和二年七月号)

地方の人・東京の人

地方の方がたは、能を見るにしろ、謡を聞くにしろ、一流二流どころの人びとに接する機会が少ないという観念もあるためかその観賞の態度がいかに熱心で、見たり聞いたり、また稽古されるときも、その印象をいつまでも忘れまいということに努力しておられることは事実です。宗家はこういう型を演った、だれだれはこんなふうに通った。この節はこう扱ったというふうには、考察がいかに細密なところまでゆきわたっている。はなはだしきに至つては先代はこうやったなどと、十数年前のことまでもチャンと記憶されていて、昔のことを語り、われわれの芸と比較されるものもある。

かくとすると、東京の人にはそこまでの熱心家がないということにも聞かせるが、決してそういう意味ではない。比較的これらのことが、地方の人びとには可能性がみえるということをお話するので、それは全く事実であると断言することができよう。こういう傾向の起るのには、東京では少なくとも月数回の催しもあり、いろいろの人に接するし、いつでも見られもし、聞かれもする。また疑問でもあればすぐに師匠へかけて、質されもするという便宜もあるから、自然あまりそう明瞭に頭に印象しておく必要もなく、おのずと粗雑にもなり、無関心であるかのように観賞されるのであろうか。(つづく)

青陽会 二月二十四日(日) 正午始 熱田神宮能楽殿

東北 服部 紗枝 生駒美代子
熊野 加藤 保彦 長谷川 章
高砂 加賀 敏彦 高橋 敏一
鞍馬天狗 高橋 敏一
花月 前野 郁子 高安 滋郎 亀山 盛一 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛
見 生駒美代子 地謡 高橋 敏一 武蔵 塚本 秀雄
網之段 河村 錠二

天鼓 上田 照也 西村 欽也 河村 錠二 柳原 富司 池田 三男
後見 前野 郁子 塚本 秀雄 加賀 敏彦 佐藤 太俊 久田 秀雄
主 後 中 日 新 陽 会

磁石 佐藤 友彦 井上松次郎
狂言 大野 弘之 柴田 初太郎
五之段 久田 秀雄
狂言 井上松次郎
狂言 井上松次郎

社 若 西村 欽也 山口 定男 鬼助 幸夫 鬼頭 幸信 柴田 初太郎 地謡 長谷川 章 河村 錠二 塚本 秀雄 藤田 六郎兵衛

指定席券(年額) 一三、〇〇〇円
自由席券(年額) 八、五〇〇円
会員申し込み受付
名古屋観世会所属楽師
又は 熱田神宮能楽殿

NHK (1月)
19日(土) 1
26日(土) 1
(2月)
2日(土) 1
9日(土) 1
16日(土) 1
NHK (1月)
20日(日) 1
27日(日) 1
(2月)
3日(日) 1
10日(日) 1
17日(日) 1
NHK (祝)
1月15日(祝) 1
2月11日(祝) 1

長生会 鬼頭喜太郎 鬼頭好信	山本 孝 大阪府豊能郡東能勢村大字吉川一五ノ一二五とさわ台住宅二五三	山本 敬一郎 大阪府泉南郡阪南町貝掛一〇ノ九一南海町地西三ノ九	飯島 六乃輔 〒920 金沢市香林坊二ノ八ノ八 電話(六三)六一四三四〇	田鍋 洋一 名古屋市中千種区大久手町4-10	亀井 俊一 保忠雄 実	幸友会 福井 啓次郎 柳原 富司 福井 良久 柳原 富司	桂 会 岐阜市松屋町 後藤方	寛 鈺一 京都府京都市中京区御室町一ノ六	吉田 定男 京都府京都市中京区御室町一ノ六	観水会 池野 崎太郎 茂郎	助川 竜夫 東京都豊島区南長崎六ノ五ノ四	山口 義郎 東京都豊島区南長崎六ノ五ノ四	大藏狂言会 大藏 彌太郎 基 義嗣 〒154 東京都世田谷区池尻三ノ九ノ二三 電話(〇三)四一三三 五九六八番	朝日文化センター 雛子 教室 東京都豊島区南長崎六ノ五ノ四 電話(八三)三三八〇七一番	野村 又三郎 狂言やるまい会 野村 又三郎	野村 万蔵 東京都豊島区南長崎六ノ五ノ四	名古屋和泉会 狂言共同社 名古屋市瑞穂区玉水町二ノ六四 電話(八三)〇三六四番	三宅 藤九郎 三宅 右近 和泉 保之	大倉 源次郎 西宮市名次町六ノ一三 幸 西宮市名次町一ノ三三 西宮市松園町一ノ三三
----------------------	---------------------------------------	------------------------------------	---	---------------------------	----------------	---------------------------------	-------------------	-------------------------	--------------------------	------------------	-------------------------	-------------------------	---	---	-----------------------------	-------------------------	---	--------------------------	--

中部能楽界 49年を語る

〔編集同人座談会〕

編輯同人
柴田初太郎 高安 滋郎
殿島 修二 箕三 男
杉村 竹翠 佐藤卯三郎
内藤 泰二 野村又三郎
二井 栄造 加野昭二郎

昭和四十九年の熱田神宮能楽殿の演能について
A 親世会、宝生会の定式能はじめ、ほとんど毎日演能がまわっている。
B 一、六月では、一月に喜多親世、和泉三流合同能、二月十七日梅嶺会能、二十四日青陽会能四月大槻十三郎十三回急追善能新能は八月三日、大衆能は九月一日に予定されている。
C そのほか、親世喜之師の門下で、師範になっていられる方が能を舞う機会として、年三回ぐらい九草会の稽古能が計画されている。
E 梅若盛義師がそういう計画です。故猶義門下の方が演ずるといふことですね。すでに早春二月の梅嶺会では、梅地重輝師の「田村」熊沢美子師が「班女」それに梅若盛義師の「山姥」の三番能です。
A 有料ですか
E 有料です。

F 師範で能を舞う機会が少ないという方に、非常に良いことですね。舞われる本人にも勉強になるし、こうした機会があれば助みもできる。
G 有料能の場合、観たい人がどこで会員券を買うのかという問い合わせが多い。名古屋市内のブレイガイドで扱えるようにはならないでしょうか。
B 徐々にそういうようになるでしょうが、現在の状況ではむづかしい。まず「不能」ですね。
C ブレイガイドでも売れるようなひろがりが必要だと思ふ。
G 狂言界としては
H ことしは、朝日狂言会(七月十四日)和泉狂言会(十一月二十三日)が恒例のとおり催される。やるまい会は春四月七日、秋十月十日に開催される。
A 四月の大槻十三郎追善能は「座島」小書馬流し、それと「半蔵」小書立花供養がです。この立

花供養は名古屋ではこれまで出ていない。大阪から花を持ってくる。池坊では花をいけることを「立花」という。半部の立花供養につかわれる花は池坊の方がいけるというわけですね。
G 年々盛大になってきた新能について
D 昨年第八回はお天気にも恵まれ、終了後に豪雨でした。
A まず何と云っても曲目を考へてほしいね。
B 昨年は、マイク効果もよかったですね。以前にはマイク、照明が悪かったという声を聞き、熱田神宮ともよく話し合せて装置した。
E 舞台をもつと滑らかに歩けるようにしてほしいですね。
A 望まれてはいるのですが、板材も整えなければならぬし、保管する場所も必要となる。
F 観客のなかではじめて能をみたのが新能という方が多いですね。名古屋市内だけでなく県下各地、県外からも多く来てみえる。
H 熱田神宮で、提灯を整え新能のムードをもり上げられていることも実に効果的だ。
D 京都では、この新能が市の行事になっている。
E ことしは第九回目というところは名古屋なりに伝統がつくられていますね。
A 第一回、第二回は若宮八幡

社、第三回以後熱田神宮です。六回演じてきたわけです。
C 新能にせよ、大衆能にせよ名古屋市民が能楽にふれるよい機会ですね。
A 熱田神宮能楽殿も明年の昭和五十年には創立二十周年を迎えることになったことも記録されるべきでしょう。
E 最近湊川神社にできました能楽殿で、中学生、高校生を対象に継続して、いろいろな能狂言を鑑賞させ、古典能である能楽を若い人に認識し、理解してもらおう努力をされていられる話を聞きましたが、なかなか大変なことでしょう。使用料なども「学割」にしたいですね。
C 若い人の関心は非常に高まっていますね。最近の能楽殿の備しをみていても……
D 毎年、内藤泰二先生が夏に午前中だけでなやまつていられるようですが大変よいことですね。
E 学生能の場合、能楽殿の使用料は考慮されるのですか。
B いままではなかったのですが、いろいろな学生の要望があり、話しているのですが、開散なとき平日などは「学割」で催しをやつて頂くというところは考へてもよいですね。剰余金を出すというのが目的ではないです。学生連盟の方は運営のために自腹を切つて経費を出しているようです。ある女子大学生ですが「私は連盟の役員になつたらお小遣いがたくさんあつて仕様がよい」という話を聞いていますが、本当に手紙一枚出すのにも身銭を切つて出す、ひまさいをして広告や依頼にまわるのは自分持ちなんですね、だから少し基金をもつて運営できるようにしたい。基金は少いが次の世代

に基金を渡していくというように運営費の一部ぐらいは残るようにしていきなさいと思う。
A 当然考へられていいことですね。
B 中部能楽界として、お互いに研さんしてさらに雲域のうえで高度なものにしていく努力を重ねていきたい。
D 量だけでなく、質の充実を考へていくべきでしょう。
F 愛好者もそれを望んでいる。能楽の友もことしは創刊八周年になる。さらに斯界の期待にこたえるよう努力したい。

山本博之師逝去
親世流シテ方山本博之師は、旧暦十五日、心不全のため逝去された。享年七十八歳。
告別式は長男勝一氏が喪主となり二十一日大阪市東区徳井町一丁目二〇、山本能楽堂で行なわれた。氏は、日本能楽会会員、大阪親世会相談役、吹州公演にも参加、大阪文化祭賞、府民劇場賞、知事賞などを受賞。
謹んでご冥福を祈る。

随想談 片 (その十五)

明暗物語 柴田初太郎

現在の社会は何故このようにな本には生産出来ぬ石油を多量に輸入せなければ生活出来ないのではありませんか。誠に不審に堪えませぬ前号でも申し上げましたが私の青年時代はランプの光で勉強しました。今の十燭光位ならば充分でした。現在は少しく明る過ぎまして夜と昼と取違ひ位に相成りました。私の様な老人には何故このように贅沢に暮さなければならぬ理由さえない不明であります。凡ての考へ事、殊に悟りの道は

の落付が出来ず腹脹の開閉には不向で御座います。私は日本の学校に神堂の如き光線の教室を設けて心の教育を施したらば落付ある青年を作るに役立つ事を信じております。現在の如き明るい所では心の教育には不適当である確信して居ります。
橋岡久太郎師は、謡は百番集は大嫌いで和本の大きな字の本が大好きでありました。良くお考え下さい。日本人は昔より私の言う事振へ道入ったかと申します。決して

友社
本町2-20
上本464
7 9 8 4
1 3 6 3 9 3
円内円
4 0 0 0
年 5 3 5

精神文化 高揚の年 15日 名古屋清韻会能

昭和四十八年は国の内外の情況「芝能としての「能楽」は、いたず

御料理 あつた 蓬菜軒
本 店 熱田区神戸町三四 電話(01)868618
神宮東門店 熱田区新坂町一 電話(01)5598(代表)

流元 剛行 金発 流本 世宗 親宗
檜書店
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291)2488-9
〒604 京都市中京区二条通数屋町東入 電話(231)35503
電話(231)19903
電話(231)113

名古屋市北区杉栄町3ノ54 (カムカム劇場前)
奥田歯科診療所
奥田 継一
電話(081)4554・7720番

迎合する名は文化の発展を期す。古格を覆り通して「能楽」のなかに大衆がその良さを求めていくことこそ大切である。新しい年はこのことがさらに求められてく

名古屋清韻会能
昭和四十九年一月十五日(祭)午前十時開演
熱田神宮能楽殿

城 割烹・小料理
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労研地下ビル) 電話 731-1128

餅女よき物名

あなたに心をこめておくりする……
富士道の婚礼道具
家具の富士道
本社 名古屋市中区栄3丁目34番40号
TEL代表 (262) 5547
エントランス 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

エンゲージリング ウェディングリング インシヤル材料彫刻



ジュニアコーナー

名古屋で1番 地下鉄で便利な店

山田宝石

本山駅 ☎762-2434

Jewelry Adviser 山田豊二

駐車場完備 駐車場はビル裏側 専用エレベーターに用立てています

能 樂 の 友

発行 能 樂 の 友 社

名古屋千種区吹上本町2-20 (郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円

一 部 35円

題字は熱田神宮 藤田富司筆

演能カレンダー (熱田神宮 能楽殿)

- (2月)**
- 10日(日) 観世会定式能 (有料)
 - 11日(祝) 大蔵流狂言なごや会
 - 17日(日) 梅猶会能 (有料) (番組①面掲載)
 - 24日(日) 青陽会能 (有料) (番組①面掲載)
- (3月)**
- 3日(日) 九阜会春の大会 (番組②面掲載)
 - 10日(日) 観世会春の大会 (番組②面掲載)
 - 21日(日) 龍吟会
 - 24日(祝) 久田親正会
 - 30日(土) 三菱連合会
- (4月)**
- 7日(日) やるまい会
 - 14日(日) 観世会定式能
 - 21日(日) 龍吟会
 - 28日(日) 大槻十三師十三回忌追善能
 - 29日(祝) 幸友会春の会
- (5月)**
- 3日(祝) 観世会流友大会
 - 5日(日) 巽会
 - 6日(休) 壺泉会大月大会
 - 12日(日) 邦福会大定期能
 - 18日(土) 九鳳会
 - 19日(日) 鳴会
 - 26日(日) やるまい会
- (演能変更の際はご了承下さい)

中部能界の新風

梅猶会、九阜会の定期能

ことしの中部能界は、観世会定式能(五回)宝生会定式能(三回)中部金剛会(九月)をはじめ各流、各派の別会、同門会などの大会が予定されているが、一月には、若手能のメンバーによる名古屋初公演があり、さらに梅猶会定期能の公演、観世九阜会の定期能公演など新風を吹きこむ企画が盛り込まれている。

梅猶会定期能(二月十七日)は、能三番立てで、「田村」シテ菊池重輝師「班女」熊沢恵美子師、「山姥」梅若盛義師による公演であるが、故梅若盛義師の遺訓をつぐ名古屋梅猶会として中部能界所属の師範が日々研鑽の結果を高く問うものであり、その積極面は高く評価されてやう。

また、観世の師による名古屋観世九阜会では、五月十八日(土)七月二十七日(土)九月二十八日(土)の三回にわたり九阜会定期能を開催する。この公演はことしから始めて行なわれるもので、観世師門下の地元各師範が演能にとり組むという新しい企画である。こうした発表の機会がつけられつつあるというところは、能楽師にとり、現代思潮の動向と軌を一にしてとくに能楽愛好者の拡大の時代こそ強く求められるべきことである。現に、芸どころといわれる地元名古屋の舞踊関係者でも、あらためて能への関心が高まっている。

この意味で、ことしの能界がいつそう充実した演能でかざられることを期待したいものである。

各地だよ

大阪式能

大阪式能は二月九日大阪能楽会館で開演。

「翁」大西信久「難波」羯鼓出之依・大槻秀夫「田村」金春晃実「龍野」辰巳孝「小鍛冶」和島富太郎、狂言「宝の隠」善竹幸四郎「文山立」善竹忠一郎「棒縛」善竹孝夫

第21回サンケイ親世能

二月二十四日大阪・サンケイホールで開演。

班女・笹之伝 梅若 六郎
船弁慶・重き前後之誓 観世 元昭

梅猶会定期能

二月十七日(日)午前十一時始

熱田神宮能楽殿

菊池重輝 西村 欽也 吉田 定男 寛 三男
後見 梅若 盛義 地謡 森田 味智代 佐藤 朗太
井戸 良造 井戸 光之助 河村 証二

難波 占キリ 殿島 修二
歌北クセ 久田 秀雄
東若キリ 河村 証二
杜之段 杉村 竹翠 地謡 井戸 良造
網坂 岡田 朝詠 井戸 和男
熊能楽 岡田 朝詠 井戸 和男

熊沢恵美子 高安 滋郎 河村 証二 藤田 六郎兵衛
高安 勝久 後藤 孝一郎
後見 梅若 盛義 地謡 森田 味智代 大槻 賢次郎
井上 生香 地謡 池内 光之助 久田 秀雄
梅若 盛義 地謡 久田 秀雄

因幡堂 井上礼之助 佐藤 卯三郎
梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦
梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦
梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦

梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦
梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦
梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦

梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦
梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦
梅若 盛義 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 昭彦

特別席(指定) 三、〇〇〇円
自由席 二、〇〇〇円

主催 名古屋梅猶会
後援 中日新聞

青陽会定期能

二月二十四日(日)正午始

熱田神宮能楽殿

熊野 加藤 敏彦
高砂 加賀 敏彦
鞍馬天狗 高橋 敏彦

前野 郁子 龜山 盛一 藤田 六郎兵衛
高安 滋郎 後藤 孝一郎
後見 佐藤 美代子 地謡 服部 紗枝
生駒 太俊 地謡 服部 紗枝
佐藤 太俊 地謡 服部 紗枝

柴田 取武 吉田 定男 助川 竜夫
若西村 欽也 山口 亮 鬼頭 季信
後見 高橋 敏彦 地謡 加賀 敏彦 佐藤 美代子
柴田 初太郎 地謡 長谷川 俊彦 河村 証二

笹之段 佐藤 太俊
玉之段 久田 秀雄
磁石 佐藤 友彦 井上松次郎
大野 弘之 藤田 昭彦

上田 照也 河村 証二
西村 欽也 柳原 富司忠
後見 前野 郁子 地謡 加賀 敏彦
塚本 秀雄 地謡 加賀 敏彦
後見 前野 郁子 地謡 加賀 敏彦

後見 前野 郁子 地謡 加賀 敏彦
塚本 秀雄 地謡 加賀 敏彦
後見 前野 郁子 地謡 加賀 敏彦

主催 青陽会
後援 中日新聞

そのことがよかつた。このことは役に化けていく演者と知りつつ、どうにも欲望にうちまきまきされてしまっている人間と先回りして尻をしかける賢者がある。

うみると、これから始まる能舞台が枠組にはまつて、式三番も船弁慶も遠くから、ながめるような気がして来た。それは人間の舞台である。

本店 熱田区神戸町三四 電話(671)8686-8
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

生きた目は視力測定機で正確に測定し、最新のレンズを組み合わせ、あなたの目の状態に合わせた最適な眼鏡をお勧めします。



眼鏡屋

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その17)

私どもは舞台上立つ以上、その責任と苦勞といふことのあるは申すまでもないが、演ずることについては、いわゆる芸術的努力の伴われた、内容の充実したものでなければ真の趣は表われては来ない。これが一

演者としては、観賞家のいかに、観衆の多寡などによって、表情や態度を誇張したり、めまぐるしい技巧を弄したりするなどのことは、もとよりあり得べきことではない、またもちろんそうあつてはならぬことである。

がしかし、責任とか苦勞とかいふことは、感情の問題で支配されるということは一の理屈であるといえるなら、冷やかな理性の上から詐らざるを白をすれば、幾千百の観衆を前にしたからといつても、別に苦勞であるとか、恐ろしいとかの考えはない。これに反して、観客は少なく、隅から隅まで別段鋭敏な眼が光つていないとはいへ、比較的古老を控えた地方の舞台などでは、一人でも二人でも真に底光りのする眼が存在すると思ふとき、決して油断のできるものでもなければ、またそれを呑みかかるといふこともできないものではない。

こういうと、とりかたによつては矛盾撞着とも聞こえるかもしれぬが、よく考察するとその点に気付かれるであらう。

(大槻世・昭和二年十一月号)

末節の変遷

ちょっと見ただけでは気が付かないところが、いつの間にか変わってゆく。たとえ

先代金剛殿氏未亡人律さんは二月九日老衰のため逝去。八十五歳。別荘は山形県金剛山、金剛能楽堂。

宅で執り行なわれた。

金剛律さん逝去

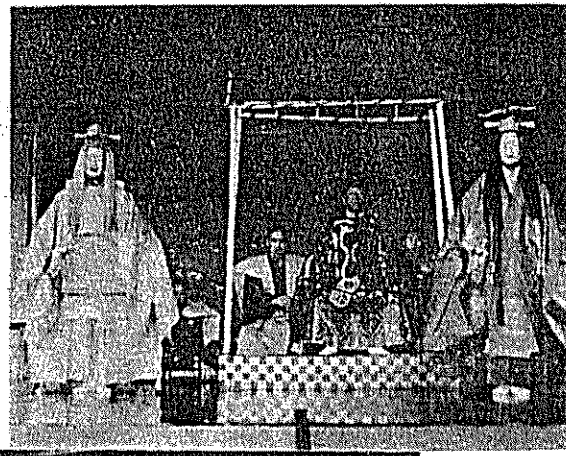
先代金剛殿氏未亡人律さんは二月九日老衰のため逝去。八十五歳。別荘は山形県金剛山、金剛能楽堂。

それをやや違ふが、胴着や着付の箱の標元は、今日ではキョウと隆元まで詰めて合わせるが、私どもの子供時代には、もっとゆつたりと合わせたものである。

女物の足許なども、当流では現在は爪先を完全にそろえて、両踵と両爪先の間に全く空虚のないのを女物の足としてゐるが、昔はそうではなかった。先代清藤師などもいまのようにはしなかった。写真を見てもわかる。これはおそらく故梅若実翁あたりの創案で、写実から来たものであろう。ここまで写実的にするの良否は別問題として、あまりピタリと足を揃えると、演奏者の構えが崩れる恐れがある。

こういうふうに、知らず知らず変遷してゆくうちに、看過すべきものとしからざるものがある。識者はそれを厳重に審判して採否を決しないと、知らないうちに、能楽というものがとんでもないところに行つてしまふかもしれない。騙でも同じことだと思ふ。

(大槻世・昭和五年五月号)



鶴 龜 渡辺節子さん(左) 金丸洋子さん(右) (49.1.15 名古屋清韻会能)



巴 奥村久枝さん (49.1.15 名古屋清韻会能)



葛城 武内美世子さん (49.1.7 学生能)



三人片輪 氏氏氏 彦助太郎 利東久太 藤崎久太 伊崎岡也 唾頭いざり (48.11.11 也留舞会)



伊勢土産 中北宇多子さん (48.11.11 也留舞会)



山伏兄弟 氏氏氏 郎三保舞 四庄納也 江田也 淵津加也 伏山泉 (48.11.11)

演能の記録

求場 岩田 広枝 松原 澄子
北 鹿取 文字
沖 宗久 幸子
森 幸子
西村 敬也
後藤 敏一
藤田 昭彦

附祝言	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
主催	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
後援	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
中	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
日	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
袖	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
聞	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
新	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允
会	山 姥キリ	土蜘蛛	長田 匡一	大島 政允

名古屋昭和区前山町一ノ三三 河村舞台
電話(七六一)四八二番

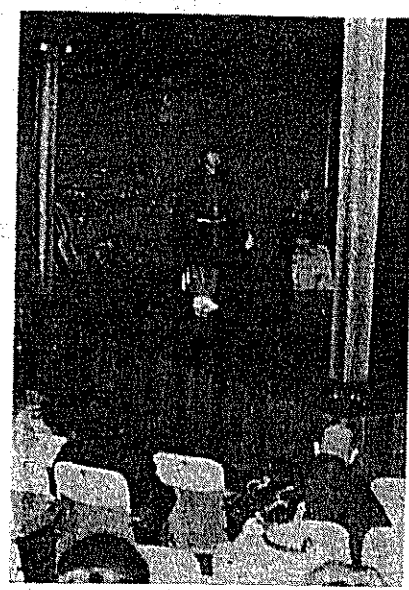
2 NHKラジオ
(2月) 観世
(16日) 観世
(23日) 多世
(3月) 喜宝生
(1日) 喜宝生
(8日) NHK FM
(15日) 遊興も生
(22日) 観世
(29日) 観世
(4月) NHK教育
(1日) シンキ・森
(8日) シンキ・森
(15日) シンキ・森
(22日) シンキ・森

ことしの学生能

高安滋郎

例年の学生能は、能二、三番にあとは舞臺子や、仕舞、独吟等て一日をつないでいた。

しかし今年の学生能は、各大学より能を出す希望が多く、とうとう五番立ての、大した学生能になってしまった。この企画に対し本年の連盟会長の名大飯田真三君の努力と取組めのうまかつた点は、全く敬服に値する。各大学が能を出すには、どうしても役者不



学生能「敦盛」

足の点で大いに悩まされたと思ふ。初番に「西王母」を出した女短は脇にOL? Gを引張り出した。

しかし引張り出された境田里美さん（在学中に既にワキの経験者である）その他のOG連中も、誠にも立派に後輩の期待に応えてやっていた。誠にうらわしい状況であった。これも後藤孝一郎師、吉川周子さ

ん、川島兵助氏の尽力の大きい点を感謝したい。

二番目には、相大が四大と短大とが合同協力して「敦盛」を出した。

これの指導には小坂の柳原師が色々と陰の力となって努力された事と大きな力となり、大会で一番と思われる出来映えであった。ワキを勤めた早田紀子さんは、小生が指導したが、彼女の真面目さと、又能に對する真剣さと言

か、情熱にこちらが引き寄せられる様な結果であった。長身の彼女が儼然と現われた時、見物席であの儼然は男か、女か（これは失礼）と評が出て、彼女の儼然に大いに関心がもたれたのは、彼女の臨の佳さと、稽古に忠実であった結果と考えられる。

次に名大観世会が出来て十周年と、本格的な三番目を出さうと云うことで、「葛城」を出した。前シテを勤めた成瀬君は、先年経政のワキを勤める時に、小生の指導により立派にワキ役を果たした云うならば学生能界ではプロに近い経験者であるだけに、稽古の時も拙宅に来て、今年初めでワキを勤めた武内美也子さんと拙宅で稽古をし、いろいろと小生の愚見を聞いて呉れたが、仲々しっかりとした三番目物らしい雰囲気を出して居た点などまず成功であった。

このワキの武内さんの山伏姿を見た東屋の言に先生のワキを見て居るより可愛く、女の子の山伏姿の方が見て居るといふとのさえずりも出た程であった。

呉女大の玉島も辰巳師を初め、始終稽古に行つて居られる戸田和師や、衣斐、竹内師達の要望に応じて、早稲田出来た。この能の脇には、誠にも嬉しかった。

切能には豊大のメンバーで、丹弁を出された。この脇を小生が勤めた。実を云うと申合せの時にこれは果して能として諸氏に見えて貰える能になるかと案じ、相当強く悩まされた。アドバンスを派な出来映えであった。

今年の学生能が盛大に、しかも堂々と立派に成功したのは、陰において何時もいろいろと指導を頂いている、金剛の豊高師、観世の柴田師、宝生の辰巳師、金春の金春三師、そのほか難子方の諸師に深甚の謝意を表すると共に、殊に今年玉島のワキ出演の学生さんのもて忙しの中をお弟子さんの為わさぐさ、名古屋迄お出向頂いた宝生開師にも紙上を借りて厚く御礼申上げると同時に、今後のご指導をお願いして私の学生能記を終らせさせて頂きます。

（瑞穂区・日生）

読者通信欄

戦前より次のようなレコード（SP版）を所有しておりますが、もしお望みの方があれば譲ります。あまり古いので現在市販のもののようにきれいに聞かぬものもありません。価格はおまかせします。

△録木（観世左近）九枚全曲 日東音器▽後寛（観世元滋）六枚全曲 日東音器▽松風（観世左近）九枚全曲 タイヘイレコード
△熊野（観世鉄之丞）一枚ポリド
△山田（梅若六郎）一枚ポリド
△山田（梅若六郎）一枚ポリド
△山田（梅若六郎）一枚ポリド
△山田（梅若六郎）一枚ポリド
△山田（梅若六郎）一枚ポリド
△山田（梅若六郎）一枚ポリド
△山田（梅若六郎）一枚ポリド

観能雑感

合同能 五周年記念公演 (二月二十七日) 西谷隆

「景清」(和島富太郎師)は、まさしく猛将七兵衛景清そのもの。崑のある大口で骨太く風格があった。細いも重く、よく抑えのきいた調子であり、かえってそこに盲目で乞食であるという現実の暗さに向かつて内部から激しく突き上がった力が見事に表現されていた。彼は老いても衰えてもおらず今も自己の運命と闘っている。その緊張感、ツレ(松井彬師)の娘と再会することによって消えることなく鋭くいて、再会も彼の暗さを強める一コマにすぎないようであった。

この景清は、若い彼を羨して過去の回想だけに生きていたのでは無い。したがって娘もそうした過去を想い出させる役割だけではなく、新しい現在の彼は山崎、と

立ち帰って行く。そのツレには、哀れさはなく、軽さがあった。それがまた舞台を父と子の温つぱい語にさせず、よかつた。

語りの場面で、床几にかけて「平家」を物語る舞台の景清に、「景清」を語る能以前の盲人芸能者のイメージを重ね合わせることでできるの見方もある。しかしかこの日の舞台は、遠い過去の哀しい再演ではなく、これも現在の悲劇的な景清であった。

「熊野」(泉嘉夫師)には、村雨留、墨次之伝の小書がついた。演者にはそれぞれ個性があつて、この日のシテには、こうした幽玄の曲が適しているのだから。空、桜の花が咲き乱れ、いつしか妖艶なものがたちこめてくるような情緒に浸っていた。この熊野は小娘ではない。

村雨の降り出し、さつとワキ正に向けられた能面の表情は、強く印象に残った。病いの母への心配、表面にはでてこない。しかしそうさるワキとの関係は、舞台ではあまり明瞭ではなかつた。舞

読み上げる。涙にくれるシテに對して、ワキを盛としてのうけとめ方はあれでよいのであろうか。

随想 片断 (その十六)

柴田初太郎

早春でありますので鶯の話を一節申し述べます。

私の十八、九歳より二十五歳位の時の名古屋は、大凡人口が二十万人の都市でありました。その頃には鶯の愛好者が相当ありました。それはどの長閑な世間で、そして近所も現在の親戚同様で正五九月には御日待を組合同年で年回同会合し、現在の様な隣家の人情も存せぬ世の中とは雲泥の相違でありました。

この時代には鶯が相当流行しました。鶯、目白、駒鳥等の鶯の愛好者が名古屋だけで五十人以上百人位あつたかと存じます。市内松山町、小川町の寺院を拝借して毎年鶯に鶯大会が行われておりました。その鶯の教育に就いてこの明暗の原理に依り名鳥の啼き方を鶯鳥に仕込む方法に就いて参考になる事を知りた度いと存じます。山崎、と

合があると思ひます。現在自然に鳴く鶯の啼き声は鶯と唱へ「ホーホー」と啼いておられます。これは教育をせぬ自然の啼き声で人工によって鶯を養育して優美な啼き声に飼育した鶯とは全然鳴き方が異つておられます。

往時鶯の同好者の苦心により啼き音を教えた名鳥は、誰もほれず音の不思議な啼き声で飼育者の苦心がみどり、長閑な笑聲で飼育者を喜ばせました。その方法が私に今説明申し上げようとする明暗の参考となり得ますので、なるべく簡単に説明させていただきます。

名鳥は名古屋に二羽位より居りせんでした。名鳥は最初苦心して笛で教えたのです。親鳥の啼き音を鶯鳥が教わるのが早く一週間より二週間で覚えられます。実に不思議です。

鶯鳥は専門家が出へ行き、果を押し、産卵して飼育し、親鳥の声を

全に覚えさせます。これは教育籠箱という長方形の箱に親鳥の啼き音を聞かせます。

この教育籠箱と申す籠箱は、小さな籠を容れる長方形の箱でその箱は明暗自由になり、光線を探る隙子が前に三枚あり、明暗が自由です。その教育籠箱へ鶯鳥を容れ、名鳥親鳥の啼き音を聞いて鶯鳥が親鳥の啼き音を覚えるのです。この際鶯鳥が油木を飛び、運動しておられますと覚えさせぬので、籠箱に耳を当て、少し暗くすると籠箱に運動せぬ様になります。これは箱の隙子の明りを探る隙子が三枚位あるので調節して暗くすると鶯鳥は運動せなくなる為親鳥の啼き音を覚えるのです。鶯鳥の運動して居る間は親鳥の啼き声を覚えぬ事になります。明るい所では落付かないのです。

心を落付かせる為には一寸薄暗い所を落付かせます。茶箱、蒲団等、心を落つかせるために薄暗い光線が必要なる理由が了解下さつたと存じます。

舞、鶯の稽古も少し暗くして心の落付が肝要に存じます。百番集では一寸暗みにく位の所がよろしい。大型の稽古本は修業には適当と心得ます。高木師の教育の原理を応用して百番集の字では、如何と存じます。

心の教育は神堂の啼き、頭の教育と事務は明るい所と明は頭、暗は心と信じます。教育に明暗は最も深い関係にあります。考ふる心の学問は暗い教室が有効と信じます。吉田松陰の松下村塾が暗暗のなかで明治の志士の教育をされたのもなるほど感じました。

私は七間町に生れ、大東亜戦迄住みました。昭和三年、四年頃裏庭に六畳敷の部屋をつくりました。三万硝子で一方床の間で明るい部屋でした。新築を祝いに橋岡先生をお招き申しました。明るく美しい部屋を造りました。この部屋は明る過ぎ、事務を取るには適当ですが、思索に不適当です。と室へ入られ早申されましたのでなるほど感じました。これも明暗に関係がありますので参考迄に附記しておきます。

現代の人に不向と考へました。けれども、小鳥でさえ親鳥の啼き声を覚えるには落付のある一寸暗い場所が自然の要求である所を知り学校には必ず思索に適する薄暗い部屋を設けて頂きたいと思ふ次第であります。

明は飛び上り、暗は落付く事になりませう故能も今少し舞台を暗くして如何と存じます。

友社
〒2-20
4) 9 8 4
3 6 3 9 3
400 円
500 円
35 円

能楽協会名古屋支部
寄託
第19回、重要無形文化財「中日五流能」は、きたる三月三十一日(日)名古屋・愛知文化講堂で催されます。

中日五流能
3月31日文化講堂
第19回、重要無形文化財「中日五流能」は、きたる三月三十一日(日)名古屋・愛知文化講堂で催されます。

観世仙会
鎮之丞

鎮之丞
仙会

幽花会
片山慶次郎

幽花会
片山慶次郎

欧風料理 とんかつ

虎亭

名古屋千種区大久手町4-11 TEL.731-3680

小料理と樽酒 ●ご会席にもご利用下さい●

安田屋

名古屋・東新町東北側
電話 (931) 0916 番

流元 金剛 流元
流元 金剛 流元

櫓書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話 (291) 2488-9
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 振替 東京 3552
電話 (231) 1990 振替 京都 113

鮮魚 魚節 伊

豊橋市魚町18 電話 (52) 5256
豊橋也留舞会連絡所 (山本浅太郎方)

楽しいお買い物はマツザカヤ



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田富司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区吹上本町2-20

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 400円

郵送の場合 1年 500円

一 部 35円

演能カレンダー

(熱田神宮 能楽殿)

[3月]

- 10日(日) 観照会 春の大会
- 21日(祝) 龍吟会
- 24日(日) 久田観正会 春季大会 (番組①面掲載)
- 30日(土) 三菱連合会

[4月]

- 7日(日) やるまい会 狂言会 (番組①面掲載) (有料)
- 14日(日) 観世会 定式能 (番組②面掲載) (有料)
- 21日(日) 猿 嵐 会 (番組②面掲載)
- 28日(日) 大槻十三師十三回忌追善能 (有料)
- 29日(祝) 幸友会 春の会

[5月]

- 3日(祝) 観世流流友大会
- 5日(日) 巽 壺 会 大会
- 6日(日) 壺 泉 会 大会
- 12日(日) 邦 邦 会 大会
- 18日(土) 九 鳳 会 大会
- 19日(日) 鳳 鳴 会 大会
- 26日(日) 也 留 舞 会 大会

[6月]

- 1日(土) 一編会・叶石会 大会 (有料)
 - 2日(日) 青陽会 定期能 (有料)
 - 5日(水) 熱田祭 奉納能 (有料)
 - 9日(日) 観世会 定式能 (有料)
 - 15日(土) 宝生流 学生能 (有料)
 - 16日(日) 宝生会 定式能 (有料)
- (演能変更の節はご了承下さい)

伊勢神宮奉納能

金春流流 ともに能2番

伊勢神宮は、昨年式年遷宮の行事がいとなまれ、能楽関係の奉納の催しが相ついで行なわれたが、今春の神楽奉納は四月五日(金)金春流能、四月六日(土)喜多流、ついで四月七日(日)大槻清韻会が奉納する。

金春流では昨年の式年遷宮の行事をもって本年度は奉納は一時中止されるとの動きがあったが、地元関係者の熱意により継続して催された。

宝生英雄師を団長とする宝生流能楽団は、日本の文化紹介を目的とする国際交流基金の要請にこたえ、外務省、在印大使館の後援、インド政府、各州政府の受入れによって、さる一月二十五日羽田を発ち、ボンベイ・ホミー・パーバ・オーディトリウムで二回公演、マドラス・ミニジック・アカデミーで二日間公演、ニューデリー・カマニ・ホールで二日間公演、二月八日帰国した。

演能は「経政」「被鼓」「狂言」「瓜盗人」

一行は、シテ方十二人、ツキ方舞子方、狂言方など八人計二十人で、国際親善に大きな役目を果たした。

名古屋観世会の各師社中による連合として、名古屋観世会後援のもとに、昨年はじめて観世流流友大会が催され、同好交流の機会として期待されているが、ことしは五月三日熱田神宮能楽殿で第二回流友大会が行なわれる。

出演は各社中による素謡、独吟仕舞など、日ごろの精進を発表する場として、現在出演のとりまともが行なわれている。

インド各地で公演

宝生流能楽団帰国

第二回観世流流友大会

5月3日 能楽殿

龍吟会 雛子会

三月二十一日(祝) 熱田神宮 能楽殿

鬼頭季信師古稀祝賀 番囃子「翁」番囃子「東北」「園栖」ほか 舞囃子二十数番

久田観正会 春季大会

三月二十四日(日) 午前九時三十分始 熱田神宮 能楽殿

鉄輪	名市観正会	村上千鶴子	矢島静子	杉浦繁子	加藤有里	吉川宇良子
小督	舞囃子	後藤路子	松山幸親	玉葛	丸壽美子	葛籠
井筒	独吟	今井良直	大江山	神谷貞子	後藤はるゑ	松井ちえの
高砂	八段之舞	吉川宇良子	班女	今尾正治	船弁慶	鈴木金子
阿彌	独鼓	久田舜一郎	福井啓次郎	木村忠夫	藤巻佐賀喜	勸進帳
安宅	能	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎
安達原	大陽寿美子	高安	西村欽也	久田舜一郎	鬼頭喜太郎	寛三男
熊清	仕舞	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎
野經	仕舞	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎
野伊藤	仕舞	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎
野正子	仕舞	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎
野弱法師	仕舞	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎
野錦子	仕舞	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎	野村又三郎

「観世流「楊貴妃」には、もっとも」と期待していた。三番目物は「楊貴妃」の序の舞いでも在りしが、それにしても単調であった。

「観世流「楊貴妃」には、もっとも」と期待していた。三番目物は「楊貴妃」の序の舞いでも在りしが、それにしても単調であった。

「観世流「楊貴妃」には、もっとも」と期待していた。三番目物は「楊貴妃」の序の舞いでも在りしが、それにしても単調であった。

謡曲 株式会社 欧風とん

狂言組 第十五回公演 四月七日(日)一時始 熱田神宮 能楽殿

鼻取相撲 茂山忠三郎 山本則直

水汲 野村万蔵 野村万之介

神舞 河村総一郎 鬼頭喜太郎

瓜盗人 茂山千之丞 山本東次郎

寝音曲 野村又三郎 井上松次郎

彌山伏 山本東次郎 山本則直

主催 やるまい会 後援 中日新聞

券取扱所 昭和区南山町十二の七 野村方 狂言やるまい会 電話(八三三)八〇七一

入場券 A席(指定席)一、五〇〇円 B席(自由席)一、三〇〇円 学生(階上席)六〇〇円

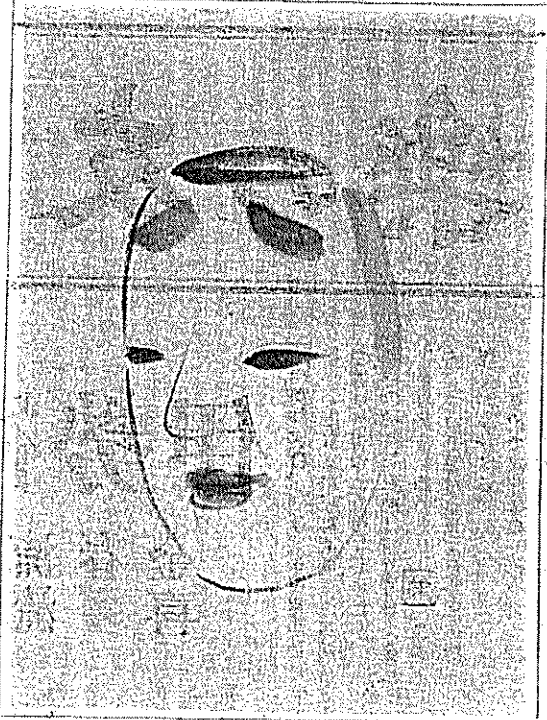
能紀行

(38)

青葉の笛

絵と文 二井栄逸

熊谷と教盛の一騎打ち、早春の谷の戦い、熊谷は新中の...



と内甲を見れば、十五、六ばかりの英少年なので思いなやみ、いづこの御子なるぞ、と、問えば、故太政入道の弟、修理大夫経盛の末の子なりと、名のるのをきき、熊谷は、はらりと涙を流し、源氏の武士は近くまでおしよせているから、とてものがれる御身ではない、御菩提は丁重に用い申すと、首を落したのであった。腰には名作青葉の笛が錦の袋にいれてさしあつた。

草刈の吹く笛なれば青葉の笛とおもひ給へ。住吉の浦ならむには高麗笛ともいうべからむ。されどこゝは須磨の浦なれば塩焼く娘の焚きさしともおもひ給へ」と言つておのゝ家路にむかつて帰つてい...

観世九阜会 定期能番組

前号既報のとおり、観世九阜会による名古屋観世九阜会では、本年より各地各師範による定期能を催すことになったが、このほど番組が決定した。

能「百鬼」シテ吉田妙、子方河村真之助 能「通小町」シテ観世高之、ツレ小島芳雄

第七回名古屋狂言小劇場公演 四月二十五日 名演会館で名古屋大生会・狂言共同社主催による名古屋狂言小劇場は、中区東新町・名演会館小劇場で催され...

福井 福井能楽堂は、昨年十一月落成したが、これを機会に四十九年度から定期能が催されることになった。

各地だより

福井能楽堂の定期能

観世会定式能 四十九年度第二回

四月十四日(日)午後一時始 熱田神宮能楽殿

Table listing performers and roles for the festival, including names like 竹生島, 屋島, 杜若, etc.

名古屋猶謡会番組

四月二十一日(日)午前十時始 熱田神宮能楽殿

Table for NHK radio and TV broadcast schedules for March and April, including program names and times.

高集

この際にあたって、われわれ楽師どもあつても、能を見ることができないとい

4月の「狂言会」解説

観能の手ひき... 観能の手ひきは、観能の心を相手に伝えるための重要な要素である。

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その18)

この道に当たって、われわれ楽師どもは、いまでもなく芸の研究と鍛錬とに一層忠実であらねばならぬ。能や謡が広くなつたからとて、ひやみに子弟を取ることばかりを考え、自分の生活にのみ没頭するよふなことでは、かえって芸を乱し、識者の笑いを買い、ついに浪花節程度のものにならぬともいえない。

われわれ楽師が芸に対する態度が真剣でありさえすれば、われわれに学ぶところのお弟子も、たといお素人たりとも、みなその風を学んで、まじめな研究者となり、熱心な同好家となるに相違ないと思う。

いたずらに軽薄なお追従をいつたり、へたな附随(たいこもち)のような態度をとつて、一人でもお弟子を多くしようというよふ人は、わが観世流には、絶無であるべきを期したいと思うのである。

私はそういう心掛けをもつてお弟子に臨み、芸に対してはつのもりであるけれども、生来の鈍物であるから、芸においても一向皆さんの期待にそうもできず、またお素人に対しては以上のような考えをもつてお弟子に接しては、あるいは世渡りの上手な人たちに比べての非難はあるかもしれないけれども、そうした非難ならば甘んじて受けたらと思う。

次に申上げたいのは、今日非常に盛んになつて来た一般の観能欲を、このままに看過されていくことで、私はそれを遺憾に思うのである。

今日の観能会は会員組織で、月並能は常に満員の好況であるから、単に現在の会そのものから見れば、非常に結構なことである。

第三には、月一回五番の能では、後進者が舞台に立つ機会がほとんどなくなる。後進者という個人は、後進そのものの身を立ってやるといふ個人の生活関係を全然離れてみても、流儀の後継者であつて、将来の名人も大家もみなその中から出るのであるが、舞台に立つ機会がないとすれば、よらうか。いいかえれば大家、名家の輩出を禁止するともいえる。

それでは会の組織をどういう風にすればよいか。その点は私は立ち場も進歩から今日まで別に考えたこともない。それは流儀の行政的事務にあたる方がたが、十分に研究してほしいと思う。

(大槻世・大正十二年四月号)

時の要求

私たちの子供のころから思うと、斯界もほとんど隔世の感があるといつてよからう。謡でも能でも非常に盛んになった。能楽というものが広くなつて来たのである。

したがつて二十数年前までは、能楽といふものはごく一部分の、しかも限られた人々によつて維持もされ、嗜まれて来たのであるが、近年はその範囲が非常に拡大されて来て、昨今ではこれを民衆的に押し広めよう、などという人さえ出ている。

会と催し

廣田後援会
四月七日 金剛能楽堂で
金剛流廣田一師、広田三師の広田後援会では、四月七日(日)第十四回後援会能を金剛能楽堂で開催する。

名古屋猶習大会
梅若盛義師
は、四月二十一日、熱田神宮能楽殿で春の大会を開催する。

高野瀨師尊奉祝賀
此水会素謡会
観世流高野瀨師の此水会では、三月二十日、同師の奉祝賀素謡会を東区飯田町・円勝寺で開催した。

久田観正会春季大会
観世流・久田観正会(久田秀雄師)は、三月二十四日春季大会を開催、能「安達原」「土蜘蛛」の二番(番組①面掲載)。

京都

能「求奴」(シテ広田三) 半能「石橋」(シテ広田三) 午後一時開演。

高野瀨師尊奉祝賀
此水会素謡会
観世流高野瀨師の此水会では、三月二十日、同師の奉祝賀素謡会を東区飯田町・円勝寺で開催した。

「神歌」 小川貞三、加野昭二郎 連吟「高砂」高野瀨、高野瀨恵 三「高野瀨まつ、素謡」一「瓶」鈴木

野弘之、佐藤秀雄、狂言小謡「水汲」

野弘之、佐藤秀雄、狂言小謡「水汲」 佐藤三郎、佐藤秀雄、小謡「鳴子」野村又三郎、井上松次郎、狂言「千鳥」佐藤友彦、井上礼之助、大槻世、大正十二年四月号。

東京中日スポーツ
中日新聞本社
名古屋市中区三の九丁目6番1号 TEL 大代表201-8811
中日新聞東京本社
東京都港区南2丁目3番地 TEL 大代表471-2211

4月の「狂言会」解説

鼻取相撲 (大蔵流)
ある大名、太郎冠者を呼び出し、新しい奉公人を抱えたいから、海まで来てお目見せたい。太郎冠者が連れて来た男は、弓、袴、鷹、其、双六、馬など、自分のできる芸を並べたので、一番得意なもの相撲を取ることだと言います。大名は、相撲が見たいと思ふのですが、相手がいません。止むを得ず自分が相手になると、鼻取りという奇妙な手で簡単に負けられないように工夫をして、もう一番取ろうと挑戦します。大名の大らかさが見どころです。

水汲 (和泉流)
寺の門前に住む若い女が、野中の清水へ来て、洗いの物をしていて、狂言の女役は頭に白い布をまいた独特な扮装です。そこへ新発意(しんぱち・見習い)のことが茶をいれるために水を汲みに来ました。かねてから思ひをかける女のこのことで、新発意は

瓜盗人 (大蔵流)
耕作人が瓜畑を見廻ると、昨夜、瓜畑棒の入った袋があるのを見て、案山子を作っておきます。そのあとに来たのは、昨夜の瓜畑棒、出来心ながら昨日の成功に味をしめ、暗い畑をこぎ廻って瓜を盗みます。しかし根が臆病者なので、案山子と間違えて大騒ぎ。その次の夜、腹を立てた耕作人が

寝音曲 (和泉流)
前の晩太郎冠者の謡の声を聞いた主人は、太郎冠者を呼び出し、謡を謡えと命じます。しかしこれに例になつて謡も謡わされてはたまらぬと、太郎冠者は考え、酒のまねば謡えぬとか、寝ていなくては謡えぬとか、逃げようかとか、主人が条件を何でも叶えてやるので、太郎冠者はしぶしぶ謡い出しますが、その内、夢中になつて、寝ながら謡うのを、つい忘れてしまふ。たつぷりと謡の技巧を聞かせる難役。

祈宜山伏 (大蔵流)
諸國の旦那廻りをしてる伊勢神宮の祈宜が、ある茶屋で休んで羽黒山の山伏。祈宜を見つけたのが、いやらせをしてやろうと、自分の肩箱を持って、鐘を鳴らして、祈宜に入つた茶屋の主人は、自分の家にある大黒天の仏像を持ち出し、祈宜と山伏が祈宜をして、大黒の影向のあつた方を勝ちにしようとして、提案します。二人は折り出しますが...

随想 名古屋観世謡昔噺

柴田初太郎
私の十七、八才の頃は、名古屋の謡は殆ど京都式の謡でありました。名古屋観世流の古老松浦羽洲師の肝煎りで、宗家より武田宗治郎師が名古屋へ正式に派遣せられましたのが大正二年と存じております。私は其の時は病気で転地療養中でしたので、武田師に入門は一ヶ年遅れて入門致しました。

稽古場は柴田徳四郎氏の御宅で、五年続き、同氏宅が家庭の事情で稽古出来なくなりましたので、東区の私の菩提寺普賢寺で三日間私と寝食を共にして御稽古致したような次第で、名古屋も京都風の謡が全然東京風の謡に変化しましたのであります。それ故名古屋では京都式謡と東京式謡とが二派に別れて統一の出来るまでに

二、三年以上もかゝりました。京都式の謡は強時に上音と中音に音階が分れておりました。井上嘉介師は乱曲の時は音階を京都式に調つておられました。其の後先代観世流の師の御名稽古により、名古屋も全部東京風の謡に相成りました。

その当時の会話をみますと(抄録) 大正三年一月二十日
一、先生午前六時徳島着二付、柴田、青木、榎橋出迎ウ
一、先生午後徳島氏ヲ訪問。
一、会員二十五名トナル。
一、左記各番を練習
同年一月二十三日
一、稽古終り会員一同新年会
一、先生午後八時夜行ニテ帰京
同年八月

【宝生流】全曲を収めた携帯用謡本

旅の友

旅行に観能に謡会に
本(全一冊) 価 20,000円 (〒170円)
合天(三冊) 揃 22,000円 (〒170円)
分売 各 8,000円 (〒140円)

わんや書店 東京千代田区田代町三丁目一丁目(553) 8171 東京都中央区銀座三丁目一丁目(571) 0511

竹韻会素謡会

3月24日加納楽風庵で
竹韻会(杉村竹翠師)では、三月二十四日、昭和区流川町の加納楽風庵で春季素謡会を開催する。

「神歌」稲垣道雄、大西鐘八郎
「節」加藤三奈、鷲坂美子、神田佳代子、「藤戸」宮部保良、野口清、奥村泰広、「阿漕」戸松利作、松本頭一はか十番、独吟、仕舞、舞、舞、舞。

野弘之、佐藤秀雄、狂言小謡「水汲」 十月五日(土) 第二
なつ十一月十日には福井県芸術祭参加各流合同能楽大会が行なわれる。

須知 立子 梅若 修一
加藤 三子 梅若 善高
相馬 せん 井戸 良造
梅若 盛彦 井上 麗子
梅若 万紀夫

NHKラジオ
(3月) 宝生 観世
16日(土) 宝生 観世
23日(土) 宝生 観世
30日(土) 宝生 観世
(4月) 宝生 観世
6日(土) 宝生 観世
13日(土) 宝生 観世
20日(土) 宝生 観世
NHK・FM
(3月) 母子 観世
24日(日) 観世 喜多
31日(日) 観世 喜多
(4月) 恋恋 観世
7日(日) 観世 喜多
14日(日) 観世 喜多
21日(日) 宝生 観世
3月21日 観世 喜多

演能の記録



シテ 妹尾 久氏
カメ 羽田 雅子さん
ツル 小林 富美子さん
(48・11・23 名古屋邦謡会能)



船弁慶 前後之替
前 浅井 栄子さん
(48・11・23 名古屋邦謡会能)



逆髪 関谷 薫さん
蟬丸 今枝 行夫氏
(48・11・23 名古屋邦謡会能)

読者通信欄

柴田先生の

明暗物語によせて

「能楽の友第八十六号」(二月号)に掲載の柴田先生の「明暗物語」に感動いたしました。先生の過去の体験を判りやすく、いかに能舞台の照明に意を注がれているかを深く感じた次第です。

「明暗物語」を拝読致しまして、浅き筆で一応お許し下さい。尚名古屋の能界のために柴田先生はじめ諸先生のご活躍、ご努力を心よりお願い申し上げます。(守山・佐野直治)

宝生流謡本定価改正

宝生流謡本発行元、わんや書店では三月十六日から、宝生流謡本・囃子本などの定価を改訂する(カッコ内は現定価)特製一番本六八〇円(四九〇円)▽同八二〇円(六二〇円)▽同九五〇円(七二〇円)▽同(蘭曲)三、〇〇〇円(二、二〇〇円)その他も同様値上げされる。

観世流謡本定価改正

観世流謡本発行元、松書店では三月二十一日から謡本の定価を改訂する。

観能雑感

合同能 五周年 記念公演 (二月二十七日)

西谷 隆

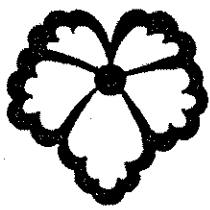
「釣狐」(野村又三郎師)の舞台にはいくぶん堅さがあつた。しかし狐の突拍子もない仕度で、ひとつとつとぐれていった。狐なぞ全く知らないこともあろう、狐自体に興味があつた。しだいに生々してきたヤツは、うまく息をはずして熱田の森に走りこんだ。舌狐ではない、若い悪戯もの。それでよいと思つた。

観世会定式能

(二月十日)

「翁」鳥帽子をつけ改まった演者たちが舞台上に勢揃いする。シテ(観世元正師)が正面に向つて平伏する。能はそのあとからおもむろにはじまるようであつた。はじめは観客への挨拶かと思つた。それに答えて観客も拍手なりを送つてもよきやうであつた。どうもこれは観客への挨拶ではないらしい。もう舞台は、はじめまつての儀式というから、演者たちは神にのみ捧げているのであろう。そのうみと、これから始まる能舞台が枠組にはまつて、式三番も船弁慶も遠くから、ながめるような気がして来た。それは人間の舞台上で

「翁」鳥帽子をつけ改まった演者たちが舞台上に勢揃いする。シテ(観世元正師)が正面に向つて平伏する。能はそのあとからおもむろにはじまるようであつた。はじめは観客への挨拶かと思つた。それに答えて観客も拍手なりを送つてもよきやうであつた。どうもこれは観客への挨拶ではないらしい。もう舞台は、はじめまつての儀式というから、演者たちは神にのみ捧げているのであろう。そのうみと、これから始まる能舞台が枠組にはまつて、式三番も船弁慶も遠くから、ながめるような気がして来た。それは人間の舞台上で



料理 あつた 蓬菜軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(071)868618
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(071)5598(代表)

各流舞扇司

扇子の十松屋

福井老舗

京都・烏丸三条 電話(075)2540

城 割烹・小料理
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労地下ビル) 電話 731-1128



メガネの日進堂

名古屋市西区上島町57(円頓寺本町) 451 TEL 551-1036・5962

中部能界の新風

演能案内

第十七期第三回 青陽会

梅猶会定期能

二月二十四日(日)正午始

友社
本町2-20
4) 984
36393
400円
500円
35円

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋守 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能樂の友

発行 能樂の友社
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
郵便部 35円

虚心な有り方が、安心を生み、舞
台のどんな隙も観客席の騒がし
でさえ口惜しいと感じさせるほど
に、舞台の一刻一刻を大切にす
る。... (西谷隆)

定期能・追善能盛ん

4、5月の熱田能樂殿

熱田神宮能樂殿での四月、五月の演能は、ゴールデンウィークを
中心に多彩に催される。
四月にはやるまい狂言会(七日)
にはじまり、十四日は第二回観世
会定式能「千手」(梅若万紀夫、
梅若万三郎)「鶴御」(橋岡久共)
各師が来演、二十一日の名古屋舞
踊会、梅若萬義師逝去から三回
忌に当たり、盛義師の指導により
精進してきた名古屋舞踊会の会員
による発表会、能「熊野」(シテ
杉田合子、ツレ寺岡佑子はじめ素
麗、舞躰子、仕舞など二十数番。
二十八日の大観十三師十三回忌

追善能は、清韻会主催。名古屋で
は観世流としてはじめての立花供
養の小唄つき「半箱」はじめ「屋
島」「望月」の能三番、舞躰子は梅
若六郎師の「卒都婆小町」一調
「女郎花」など力のこもった番
組。また福井啓次郎師主宰の幸友
会春の大会は二十九日。
五月は三日に観世流流友大会、
この流友大会は昨年にひきつづく
催しで、今回は知水会、喜福会、
松路会、邦福会、此水会、秀嶺会
鶴恵会、風韻会、竹韻会の各社中
が出演、とくにことしは、舞躰子
も加えられ、流友交流の催しとし
て期待されよう。
五日は宝生流・名古屋演能の大会。
能「小袖留我」「巴」「弱
法師」の三番立て、ほか狂言、一
調、舞躰子、仕舞、連吟など二十
数番。

名古屋能樂三役会 結成

斯道の興隆めざして

名古屋能樂界の臨方、囃子方、
狂言方によって、このほど「名古屋
能樂三役会」が結成された。
同会は、三役の伝統と秩序を維持し、
技芸の向上、斯道の興隆をはかる
もので、各役、各流から幹
事が選出される。

名古屋能樂三役会規程

- 第一条 本会は名古屋能樂三役
会と称す
第二条 この会の事務所は名古屋
市熱田区新宮坂町一、熱田神
宮能樂殿内に置く
第三条 本会は名古屋能樂界の
三役の伝統と秩序を維持し、も
って技芸の向上、斯道の興隆を
計るを目的とする
第四条 本会は前条の目的達成
の為、左の事業を行なう
一、会員の教養、ならびに技芸
の向上、研究、練磨に關する
講習及び講演会、研究発表
会等の開催

- 第五条 本会の会員は能樂協會
名古屋支部に所属する臨方、囃
子方、狂言方を以て構成する
第六条 本会の会員は年額金壹
千円也の基本会費を負担するも
のとする
第七条 本会の会員は次の事由
に依つてその資格を喪失する
一、退会(死亡)
二、失踪宣告、禁治産及び準禁
治産の宣告
一、除名(会員としての体面を
汚損し、幹事会に於て不適
当と認定したる場合)
第八条 本会の運営の為、左の
役員を置く
一、幹事長 一名(幹事中より
互選する)
一、幹事 若干名(各役、各流
より一名宛)
第九条 幹事の任期は一カ年と
す

女性「夕顔」へと誘われてゆく幻
想が、情深いこの曲の舞台であ
り、立ち向かつてはばかしく、
しかしこの日は「立花供養」の
演能で、観客は立花の姿を
(西谷隆)

演能案内

名古屋猶諷会番組

Table listing performers and plays for the Nagoya Yūkyō Kai program.

演能	演者	役名
藤戸	中村 実	浅野三郎
弱法師	須知 立子	梅若 修一
遊行柳	加藤メネ子	梅若 善高
隅田川	梅若 盛彦	梅若 善高
松	鈴木 八寿	後藤孝一郎
木賊	奥田 敏子	河村総一郎
熊野	高安 勝久	福井啓次郎
野	後見 梅若万紀夫	池田光重
野	高安 勝久	福井啓次郎
實盛	菊池 敏子	後藤孝一郎
三輪	鈴木喜久子	河村総一郎
熊坂	小倉 陽子	河村総一郎
野守	梅若 盛彦	後藤孝一郎

Table listing performers and plays for the Nagoya Yūkyō Kai program.

演能	演者	役名
泉	泉 泰孝	山本 三男
通小町	杉村 竹翠	吉田 定男
雨	柴田初太郎	野村又三郎
卒都婆小町	梅若 六郎	福井啓次郎
都	高安 勝久	河村総一郎
不腹立	井上松次郎	佐藤 秀雄
融	水藤 元三	吉田 定男
望月	高安 勝久	後藤孝一郎
追加	水田 秀雄	山本 三男

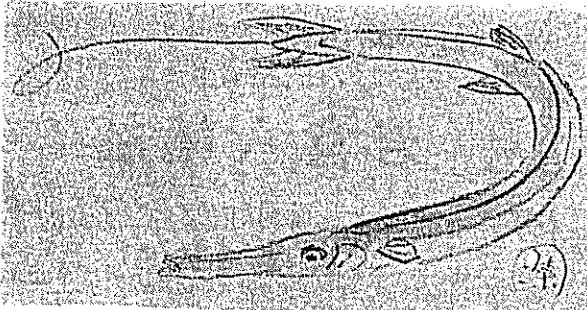
あなた
富
四月二十八日(日)十時始
熱田神宮能樂殿

高集



高集... 師匠の方ではその人びとの持長をみて、それを立派に育て上げてくれるのである。

伊勢の海、清きなまぎさのたまたま... 私達の幼い頃の伊勢の海は美しかった。殊に阿漕が浦は松原が遠くまでつゞき、砂浜が広く、殊のほか波がきれいであった。



漕が浦としてよみがえってくる。この阿漕が浦には、昔、平治という孝行者の漁夫がいて、病母の為に密漁し、そのとがによって、お仕置きになつたという悲しい説話が伝えられている。

能 紀 行

絵と文 二井栄逸

屋に頼んでおいたら持ってきたくれましたよと、いつか、矢柄を持ってきたのであつた。うなぎの干もののようなものだときいて、なるほど細長く、五十センチ程の細長い魚であつた。上あご下あごとも長くつき出して

のさきっぱにはほんとうに小さい口がついている。何をたべているのか知らないがせいぜい海藻をつつくのが関の山だろう、と思う位。体の色は薄赤く、半透明の感じで見ればギョロリとしている。もうひとつ交っているのは、尾の中間から細いアンテナのようなものが三センチ程スラリとのびているのである。家の者は、変つたさかなネ、体もゴム製品みたいにと、気味悪がった。

能の阿漕には、平治が阿漕という名前が登場する。死後、現世の罪業になやみましまさぬと心と姿を演出する曲は色々あるが、この曲はその阿漕の状をさわめて酷烈に演出し、前後共に凄惨な気を含ませさせている。その点、藤戸や鳥頭にくらべて、少しの遜色もない。中入前になると、大空がひくくたれと、夕べの夕煙にかすんで漁火が点々と明滅し、霧の晴れた港に、漁翁が投入した網の網をくりかえしくりかえし手繰る。すると俄に疾風が吹きすさび、漁火も消え、何物とも分らない異様な叫びが波間にきこえるあたりは、鬼気が迫る想いである。

豊春会春の能

21日、京都金剛能楽堂で金剛流豊春会(豊嶋三千春師)は、四月二十一日(日)京都・金剛能楽堂で豊春会春の能を開催する。

観世会 流友大会 (第二回)

五月三日(祭) 午前九時始 熱田 神宮 能楽殿

Table listing participants for the Kanzei Kaigi Ryūyū Taikai (2nd Round) on May 3rd. Columns include names like 東北, 富士太鼓, 小袖曾我, 通小町, 葵上, 藤戸, 卷絹, 杜若, 清経, 山熊, 足立, 義雄, and their respective roles and affiliations.

異会 大会 番組

五月五日(日) 午前九時半始 熱田 神宮 能楽殿

Table listing participants for the Ikaikai Taikai Program on May 5th. Columns include names like 安達原, 百丸, 熊野, 八島, 胡蝶, 玉井, 能巴, 狂言, 流, 鳳鳴, 山熊, 足立, 義雄, and their respective roles and affiliations.

鳳鳴 大会

五月十九日(日) 午前九時始 熱田 神宮 能楽殿

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その19)

のとおりにとらえられて言っているようには考へが違ふ。そのための師匠であるから師匠の方ではその人びとの特長をみて、それを立派に育て上げてくれるのである。

十人寄れば何事も十色で、人によって調子の調子もそれぞれ相違がある。よい調子の人もあろう、華やかな調子の人もあろう、沈んだ調子の人もあろう、また音量のタツプりある人もあり、声の小さく細い人もある。調子を稽古するに、その持つて生まれた声調を十分鍛錬すればよいものを、なんでも師匠に似せなければならぬという考えから、調子の悪い師匠のまねを、よい調子の人がわざわざまねて、結局悪い調子にして得意がっているような人が、広い師界には数多あるのである。

十人十色の調子

師匠は調子のよいお弟子には、できるだけそのよい調子をそのまま生かして磨き上げようとするし、調子の悪い人は、それをできるだけよい調子に導くことに苦心している。

それであるから、お弟子は自然調が師匠に似るのはやむを得ないが、みずから進んで師匠に似せるべきものではない。いったん師匠を選んでそれについて以上は、自分の芸の行く先を師匠に一任しておくのが、芸道を修業する人のもっとも安全なよいやり方である。

上達の捷路

師匠に似せるな

自分の師匠の芸風をまねるようには、これは、あながち悪いことでもないが、これが極端になって、万事万端が模倣という弊に陥りやすく、ために師匠の悪い癖までも特長かんのようになり得て、それをまねて得々としているものも少なくないのはまことに滑稽の至りである。多くの人の中には、あるいは師匠に似なければならぬものは、あるいは師匠に似なければならぬもの

人間国宝に幸宣佳氏

幸流小鼓方の名手

文化財保護審議会は、三月二十日、能楽小鼓方、幸宣佳(ごう・のぶよし)氏(七八)を人間国宝に指定するよう文部大臣に答申した。

文部省は、この答申にもとづいて近く新指定を告示する。

今回人間国宝に指定されるのは能楽界の幸宣佳氏、長明十四世村屋六左衛門氏(七三)日吉小三氏(八六)うるし塗技術であるきゅう漆の赤地友哉氏(六八)の四氏。

幸宣佳氏は幸流小鼓方、人間國

面と能装束展

徳川美術館(名古屋市中区徳川町二)では、三月二十一日から四月二十一日まで、「面と能装束展」を開催している。

能面、狂言面など約五十点及び唐織、厚板、縫箔、扇斗目、狩衣、長相、法被、側次、草帯など約五十点展覧。

午前十時～午後四時(月曜休館)

4月・5月放送予定

- NHKラジオ第一放送 (毎週土曜日午後6時5分)
- (4月) 13日(土) 宝生流「女郎花」松本 恵雄ほか
20日(土) 観世流「定家」観世 寿夫ほか
27日(土) 観世流「東北」梅若万三郎ほか
- (5月) 4日(土) 下懸宝生流「雲雀山」宝生弥一ほか
11日(土) 観世流「天鼓」梅若泰之ほか
- NHK・FM 毎週日曜日 (午前7時15分)
- (4月) 悲恋ものシリーズ
14日(日) 観世流「定家」観世 寿夫
21日(日) 宝生流「女郎花」松本 恵雄
28日(日) 観世流「錦木」武田太加志
- (5月) 和泉式部シリーズ
5日(日) 観世流「東北」梅若万三郎
12日(日) 宝生流「警願寺」大坪十喜雄
- 4月29日 教育TV 金春流「小鍛冶」桜間金太郎ほか

明びが波間にささるあたりは、鬼気が迫る想いである。後段は鳥頭のカケリにもまさる魚を追い入れる特殊の働き、執心な奥深い興趣をもった大曲で、金魚の湯を揚げたかきうすれば、それは、

なお、「江口」の小書評選返シ(ヒュウジョウガエシ)は、重厚

調子は師が固める

ところで調子というものは、間も師もむずかしく、位も心持も、またカナづかいなども容易でないことは、いまさら言うまでもないけれども、お素人がたがももっとも研究を積んでからならぬことは声調である。

その声調というものの修業は、師匠の指導にまづよりはかたない。音量のタツプりある人で、平常は大きな声で語り人が、日によっては声が出ないことがある。大きい声の人、小さい声の人、いづれにしろ自分ひとりでは調子で、どの調子、どの程度までの声調で語ればよいか迷って分からぬものである。その調子の程度を教えてくれるものは師匠で、師匠はその人の生来の声調をみて、それに適当したちようどのところの調子で、そのお弟子の調子を固めてくれるのである。

たとえば、いくらでも大きく大きな声の出るときでも、ある程度まで縮めて出させないとか、声の出ないときは無理に引出すとか、その人のちよりの調子で常にその人の調子をこしらえ、キチンと固めることに努めるのである。

それであるから師匠についている人の芸はズンズンと進歩するし、ろくな師匠につかず、勝手な調子をまぐれ当たりを出している人は何年経っていったらとて、その調子はきまらず、したがって調子にならないというはそこである。この点において師匠が必要なので、芸の修業はお素人といえどもやはり叩きこまなければ物にならないのである。

(つづく)

名古屋観世九奉会

定期(初回) 五月十八日(土曜日)午後一時始

名古屋観世九奉会 (入場随意) 事務所 愛知郡東郷町和合ケ丘三二二一五 戸田秀雄 方

神歌	長谷川 章 千歳 青木 武弘
小袖曾我	河村総一郎 藤田 昭彦
瘦松	井上礼之助 佐藤 友彦
杜若	西村 敏也 鬼頭喜太郎 三男
養老	吉田 妙 船井慶切 小島 芳雄
田村	高木美知子 船井慶切 小島 芳雄
有賀 滋子	吉田 定男 鬼頭 季信
高安 滋郎	柳原富司忠
井上松次郎	

名古屋観世九奉会 (午後五時三十分頃終了)

鳴門会

五月十九日(日) 午前九時始

熱田 神宮 能楽殿

神歌	関戸 操子 千歳 武田 志房
花筐	小島 義一 浅井 一元 八賀 和彦
俊寛	成程 間下 藤平 村上 幸男 松井 弘
遊柳	河村真之介 高橋 幸三 河村真之介 近藤 俊三 加藤 山松 野々山正彦 木村 善一 一柳 正直
道成寺	河村真之介 近藤 俊三 加藤 山松 野々山正彦 木村 善一 一柳 正直
木成	河村真之介 近藤 俊三 加藤 山松 野々山正彦 木村 善一 一柳 正直
遊柳	河村真之介 近藤 俊三 加藤 山松 野々山正彦 木村 善一 一柳 正直
道成寺	河村真之介 近藤 俊三 加藤 山松 野々山正彦 木村 善一 一柳 正直
木成	河村真之介 近藤 俊三 加藤 山松 野々山正彦 木村 善一 一柳 正直

名古屋観世九奉会

二回目番組 七月二十七日(土) 三回目終回番組 九月二十八日(土)

能通小町	吉田 妙 高木美知子
能百	吉田 妙 高木美知子
能通小町	吉田 妙 高木美知子
能百	吉田 妙 高木美知子
能通小町	吉田 妙 高木美知子
能百	吉田 妙 高木美知子
能通小町	吉田 妙 高木美知子
能百	吉田 妙 高木美知子
能通小町	吉田 妙 高木美知子
能百	吉田 妙 高木美知子

故大槻十三師をしのぶ

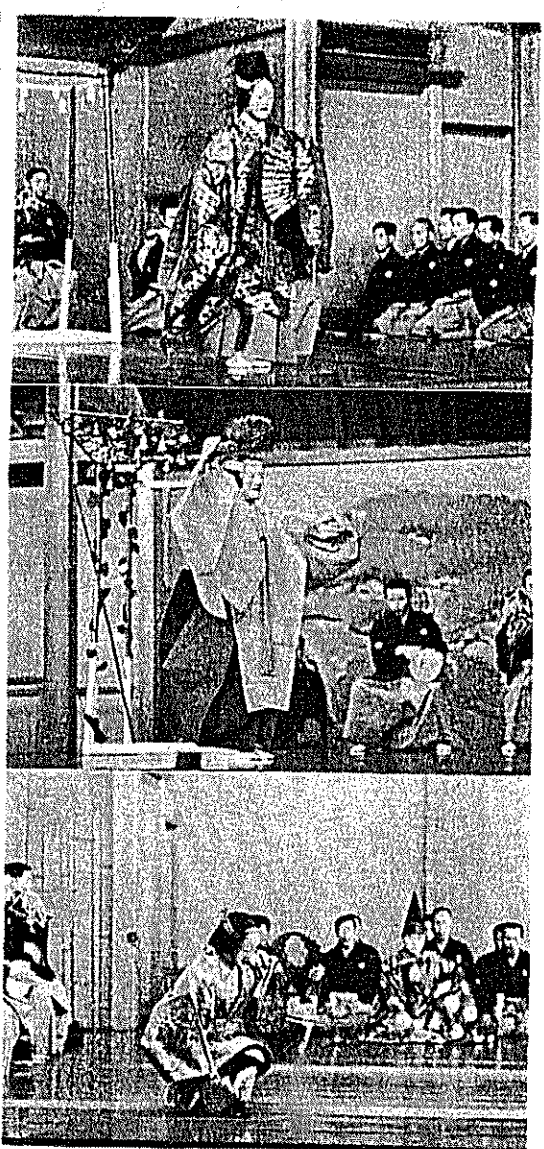
4月28日 大槻清韻会

観世流大槻十三師は、昭和三十三年一月十四日、京都観世会初会館で「田村」の能を舞いながら倒れそのまゝ不帰の客となった。本紙に連載中の「大槻十三遺稿集」は師の遺著であり、その葬儀は観世流初めての流葬であった。これは故人の十三回忌にあたり、大阪、東京、名古屋、福岡で追善能が催される。

名古屋での追善能は能三番(番組①面掲載)であるが、とくに大槻秀夫師による立花供養の小書つき「半部」は、名古屋では観世流として初めての所演である。

立花(りっか)は、いうまでもなく池坊によって室町時代から織豊時代に完成したものである。今回舞台正先に出される立花は、大阪から池坊一門が来名、四方正面のたてばなで、その格調が能「半部」の詩的情趣をひときわ高めよ

演能の記録



三 北河節子さん (48.10.28 邦福会能)
半 丸井寿子さん (48.10.28 邦福会能)
葵 上梓之田 田川富士子さん (48.10.28 邦福会能)

注目にされるのは、梅若六郎師による舞臺子「卒都婆小町」。老女物として芸術院会員の同師による至芸に期待されよう。さらに、一調「女郎花」を大倉流宗家大倉長十郎師の小鼓で殿島修二師が謡う。一調は、小鼓が大鼓の手をも打って謡と小鼓とがつかず離れず一体となり面白くさせるもので正式の演奏の場合は能一番にも匹敵するほど大切に扱われるものである。

(加野)

伊勢神楽祭奉納 金春流と喜多流

(前号既報) 伊勢神宮春奉納祭奉納第二十一回金春流奉納能(四月五日)は、金春流宗家金春信高師、本田光洋師が主催、八声會、名古屋金春會が賛助して開催。

能「羽法師」シテ高橋汎ワキ高安澄郎、寛三男、福井啓次郎、寛三、林鉄郎、能「室君」シテ金春欣三、ツレ中田幸子、西村英男、藤本利三郎、福井啓次郎、河村総一郎、熊小鏡治、小書白頭、シテ山口亮、河村総一郎、川口義郎、麻野幸重、ワキ西村欽也、ツレ高安勝久、藤本利三郎、山口亮、寛三、後見字仁田吉助、本間佐藤秀雄、後見字仁田吉助、本間佐藤秀雄。

喜多流保道会による奉納能(四月六日)は能「湯谷」小書三段之舞、シテ池山幸、ツレ西村喜代ワキ高安澄郎、ワキツレ高安勝久、藤本利三郎、福井啓次郎、河村総一郎、熊小鏡治、小書白頭、シテ観世流大江門下、三日目は喜多流で奉納。当地からワキ高安澄郎師が出動する。能「経政」藤戸「隅田川」など。

安芸・坂島神社の桃花祭奉納能は四月十六日から同神社能舞台で三日間行なわれる。

初日は地元の喜多流、二日目は観世流大江門下、三日目は喜多流で奉納。当地からワキ高安澄郎師が出動する。能「経政」藤戸「隅田川」など。

観能雑感

中日五流能

(三月三十一日)
愛知文化講堂
西谷 隆

劇場能では、席によってちがうだろうが演者の細かい呼吸が伝わってこない。そのため演者と一体となって楽しむ味わいに欠けて、どうもしっくりゆかない。劇場では、能の固有な時間と広がりを感じることが難しいようだ。贅沢をいへばこの難しさを能楽堂でみたものである。舞台と観客席との内面的な結びついた緊張感が熱気を帯びることないから、それは席によってちがうのではなさそうだが、この日みた第一部でも舞台を外側からながめることが多く「清経」では終始舞台を守っているツレの心情、そのツレとシテとのかわりも十分みてとれなかったし「揚貴妃」の序の舞でも在りし

劇場能では、席によってちがうだろうが演者の細かい呼吸が伝わってこない。そのため演者と一体となって楽しむ味わいに欠けて、どうもしっくりゆかない。劇場では、能の固有な時間と広がりを感じることが難しいようだ。贅沢をいへばこの難しさを能楽堂でみたものである。舞台と観客席との内面的な結びついた緊張感が熱気を帯びることないから、それは席によってちがうのではなさそうだが、この日みた第一部でも舞台を外側からながめることが多く「清経」では終始舞台を守っているツレの心情、そのツレとシテとのかわりも十分みてとれなかったし「揚貴妃」の序の舞でも在りし

演能カレンダー		(熱田神宮 能楽殿)	
4月	14日(日) 観世会定式能 (有料)	18日(日) 大槻十三師十三回忌追善能 (有料)	(番組①面掲載)
5月	3日(祝) 観世流流友大会 (番組②面掲載)	5日(日) 巽会 (番組②面掲載)	
6月	1日(土) 一編會・叶石会大会	2日(日) 青陽会定期能 (有料)	
7月	7日(日) 淡交会大会	14日(日) 朝日狂言会	

(演能変更の節はご了解下さい)

友社
町2-20
984
16393
400円
500円
35円

内能番

流中村富次、宇治田吉助の諸師が参加する。

演能案内

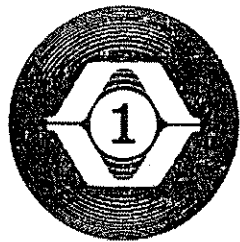
小屋 島 大畑 慶子 船井 慶丸 戸前 勝平

謡曲本専門販売
株式会社 東文堂書店
名古屋市中区栄3-28-26 (松坂屋1丁南)
電話 (052) 241-1059

観世流・金剛流
宗家本発行元
檜書店
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9
接替 東京 3552
電話 (231) 1990
接替 京都 113
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

欧風料理
とんかつ
名古屋市千種区大久手町4-11 TEL 731-3680

割烹・小料理
城
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労研地下ビル)
電話 731-1128



現代をみつめる眼
東海テレビ

能 樂 の 友

発行 能 樂 の 友 社

名古屋市千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
— 部 35円

題字は熱田神宮 榎田宮司筆

熱田神宮大祭奉納能 能「枕慈童」「東北」

6月5日 熱田神宮 能樂殿で

熱田神宮例大祭・熱田祭はきたる六月五日行なわれるが、熱田神宮、能樂協会名古屋支部、名古屋能樂会の主催で、恒例の奉納能が当日午後一時から熱田神宮能樂殿で催される。

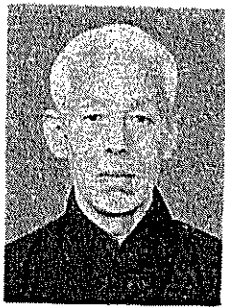
能組は次のおりで、宝生流能「枕慈童」観世流能「東北」の二番はじめ五流による舞稚子、仕舞



中日文化賞を受賞 笛方藤田流 藤田六郎兵衛氏

の授賞式は五月十五日中日新聞本社で行なわれる。
中日文化賞は、昭和二十二年制定され今年で二十七回目。
藤田氏は、現在能樂協会名古屋支部長、日本能樂会会員、熱田神宮能樂殿運営委員会委員、熱田神宮能樂殿完成に奔走。中部能樂界の重鎮として力を尽くしている。
藤田流十代目家元、六十五歳。

観世流鬼頭八郎氏叙勲 太鼓方 瑞宝章を受章



生れ、住所愛知県中島郡平和町大字六輪字三ヶ月三十八番地の二。
鬼頭八郎氏は、能樂の囃子方(観世流太鼓方)鬼頭家の三代目として生まれ、幼少のころより太鼓演奏者として従事、演奏に六十年の生涯をかけた。生来の素質に加え強固な信念、研究心により流風を堅持し、自己の芸術を大成させた。さらに、世相の変化により後継者の不足する折から、後継者育成の養成会の指導に当るなど、率直的に後進を育成し、宗家補佐の任を果たしてきた。昭和四十二年四月社団法人日本能樂会会員(重要無形文化財能樂保持者)に推挙され中部地区のみならず、関西方面にまで大曲の客演に出張、

新緑の季節によさわしい春の生存者叙勲が四月二十九日付で発表され、教育、地方自治、産業、社会福祉などそれぞれの分野で尽くしてきた人たちが顕彰された。中部能樂界では、無形文化財能樂保持者として、観世流太鼓方・鬼頭八郎氏が勲五等瑞宝章を受章、能樂発展に寄与した功績がたたえられた。
氏は、明治三十四年二月十九日

能樂発展に寄与した功績は大きい。
また公職では町会議員、選挙管理委員を歴任、地元発展に貢献している。ちなみに先代鬼頭八郎氏は、太鼓方の名手として知られ、観世流シテ方鬼頭五郎氏、笛方鬼頭季信氏とは兄弟。長男鬼頭八郎氏(重要無形文化財能樂保持者)は中部能樂界に活躍しており孫の好信氏も修業中で能樂一家である。
(能樂囃子演奏歴は④面掲載)

金剛流では、このほど伊勢・椿大神社に伝わる古能「鉦女」(うずめ)を復曲し、百年ぶりにゆかりの伊勢一宮・猿田彦太本宮椿大神社(鈴鹿市)で四月九日シテ金剛殿ワキ岡治郎右衛門で上演した。
(詳細次号)

邦謡会春の会 (第一部)

五月十二日(日)九時始

熱田神宮 能樂殿

井藤三福雄 二村 撰三

水野美代子 木村ひで 曾我 澄子 有輪田鶴子

文 象 仕 舞 三口 謙介 岩田 樹之 安藤 勝朗 別所 道雄

隅田川 河合雄一郎 野田 博子 溝口 乙子

千手 西本富久枝 後藤孝一郎 寛 三男 吉田 定男 藤田 昭彦

松 風 横井 敬子 後藤孝一郎 寛 三男 藤田 昭彦

船弁慶 坂野 富子 後藤孝一郎 寛 三男 藤田 昭彦

求 塚 浅野加寿子 永田 登久 池田 一雄 吉田 啓次郎 寛 三男 藤田 昭彦

高 砂 奥村 輝子 吉田 啓次郎 寛 三男 藤田 昭彦

遊行柳 坂野 喜子 後藤孝一郎 寛 三男 藤田 昭彦

猩々 桜木 幸子 福井啓次郎 寛 三男 藤田 昭彦

卒都婆小町 橋本 淑子 今枝 行夫 佐十郎

入場無料

梅田邦久後援会

第二回公演能 (第二部)

五月十二日(日)二時三十分始

熱田神宮 能樂殿

梅田 邦久 高安 勝久 寛 三男 吉田 啓次郎 後藤孝一郎 寛 三男

船ふな 佐藤 友彦 大野 弘之

本 店 熱田区神戸町三四 電話(67) 8 6 8 6 8
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(68) 5 5 9 8 (代表)

医療 仁
分林 保三 片山慶次郎 鬼頭喜太郎 藤田 昭彦 吉田 定男 福井啓次郎 藤田 昭彦 橋本 義道 小島 一英 青木 祥二 丸山 慶次郎 後見 小林 保三 地詔 橋本 義道 實川 保向 紀 柳山 慶次郎 邦久

要招待券

招待券は邦謡会々員・能樂殿・能樂の友社へ(御申出下されば差上げます)

名古屋観世九阜会

定期能 (初回) 五月十八日(土曜日)午後一時始

熱田神宮 能樂殿

長谷川 幸 千歳 青木 武弘

神 歌 香 組 河村 謙一郎 藤田 昭彦

小袖曾我 加藤 喜久 小島 一英 丸山 慶次郎 後藤孝一郎 寛 三男 藤田 昭彦

瘦 松 井上礼之助 佐藤 友彦

社 若 西村 敏也 寛 三男 藤田 昭彦

養 老 吉田 妙 賀 茂 佐々木 勝輝

田 村 高木美知子 船弁慶 小島 芳雄

有賀 滋子 高安 勝久 吉田 定男 鬼頭 季信

鐵 輪 井上松次郎 柳原 司忠 助川 龍夫

附 祝 言 460 名古屋市中区池田町八〇(後藤方)

主催 事務所 名古屋市中区池田町八〇(後藤方)

後援会席 (三回分御一名) 五、〇〇〇円
一般会席 (三回分御一名) 三、〇〇〇円

二回目番組 七月二十七日(土) 三回目終回番組 九月二十八日(土)
能 通 小 町 萬 吉田 妙 能 半 藤 高木美知子
能 紅 葉 狩 能 世 武雄

演能の記録

清

恋之音取 (49・3・10 名古屋観望会)



熊野 (49・4・21 名古屋観望会)



調は師匠に似せなくてもよいもの、かえって似せないで自分の生まれつきの声調を基として鍛練すればよいことがわかったこと

謡修業の階段

師匠の選びかた、これはかなりむずかしい

師匠に従え

一番、二番という調子で、一生懸命に師匠のまねをしながら大きな声で謡うように心がけてゆきますと、大抵の人なら、十番ぐらいいろううちに、謡曲についての一とおりのことはわかって来て、今度は自然に節回しなども自分の巧者でやってゆけるようになるものです。(つづく)

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その20)

重要なカナ扱

近ごろはお素人のうちでも流行につれて五音か十音も稽古がすむと、もはや、謡の位がどうかとか、曲の心持はどうかとか言われるようになってきたが、これはよほど研究してからのこと、なまはんかかわかたつともいなど、位や心持を表現するといふのは、いやみタツプリでとても聞かれないものがあがる。

人ありといわれるほどの立派な師匠につけば申分ないに違いないが、そこにはまた経済上の問題、あるいは地方などでなかなか容易なことではありませぬ。で、私はいつもこういうことを考えています。謡曲を習うのについて、横道に外れるということ、邪道にはいるということが一番嫌うべきことなから、師匠自身も横道に横すべつてゆくのを防いでゆくことの出来るだけの心得のある人を師匠として選べばよいのでは、というものは、師匠と一体よく初めのころというものは、節回しの巧拙とか、器用な謡振りとかがいようなどについて注意をなすは、あまりやがましくいわず、ごく大まかに正しく謡わせようにするにすればよいので、師匠も出来るだけ大きな声を出すよう心がければよいのです。地声でもなんでもかまいません。たゞせいはいばい大きな声を出して、よく師匠のまねをするようにしてゆくのです。そうしてゆくうちに、自然と大きな声を出そうとなすと意識せずとも大きな声が出ており、節もいつとはなしに尋常になつてゆくものです。

観世流友会大会

5月3日 龍楽殿で開催
観世流友会主催の第二回
流友会大会は、五月三日午
前九時から熱田神宮龍楽殿
で開催された。

Table listing names and roles for various events. Columns include names like 賀茂, 青陽会, 観世流, and roles like 主催, 後援, 協賛. Includes dates like 六月二日 and 六月九日.

Table for NHK radio broadcasts. Columns include dates (e.g., 11日, 18日), program names (e.g., 観世流「天鼓」), and performers (e.g., 梅若泰之ほか).

Table for the 49th Annual General Meeting of the Kanzei-ryu Friends Association. Columns include names of participants and roles, such as 梅田邦久, 高安滋郎, and 河村総一郎.

友社
〒2-20
4) 9 8 4
3 6 3 9 3
400 円
500 円
35 円

観能雑感

観世会定式能

熱田神宮能楽殿
(四月十四日)

「千手」脇座で床几にかけたツレ重衡の梅若万三郎師。師がそうしているだけで遠慮や批判の目を忘れ、安心して舞台上に集中してゆくことができた。師にはそうした力があるのである。しかし力強さや厳格さによってではない。つましく、まばたきもせず一点をみつめ、それでいて舞台の隅々、観客席までも見通し見守っているかのようである。

明治三十四年二月十九日 観世流
大鼓方の鬼頭家に出生
明治四十五年六月 初舞台「熊坂」
により能楽子演奏を開始
大正十年四月(現在) 観世流太
鼓宗家の推薦にて能楽協会会員
となる
昭和六年 宝生流秘曲「綾鼓」シ
テ故野口兼資(芸術院会員)
昭和十二年七月 宗家より実父を
継いで三代目中野地区芸道取締
を委嘱される
昭和十二年 重習「道成寺」シテ
観世流之
昭和十六年 大曲「求塚」シテ先
代金剛殿
昭和十八年 一子相伝「金札」一
調故観世華雪(芸術院会員)
昭和十九年 「羽衣」舞込シテ故
喜多六平太(文化勲章、人間国
宝受賞者、芸術院会員)

それは芸を越え、批判を越えた
平素生きている時間を惜しむ心で
ある。舞台がそうしたので成り
立つとき、観客は単に感動させら
れるのではなく共に生き、その舞
台をいつまでも持続させたいと思
うだろう。

鬼頭八郎氏の 能楽囃子演奏歴

昭和二十年 大曲「求塚」シテ故
野口兼資(芸術院会員)
昭和二十二年 秘曲「一子相伝」姨
捨「調故大槻十三」
昭和二十五年 宝生流秘曲「綾
鼓」シテ宝生九郎(宝生流十七
世宗家芸術院会員)
昭和二十八年 秘曲「一子相伝」姨
捨「シテ故橋岡久太郎(芸術院
会員)
昭和三十年三月(現在) 社団法人
能楽協会名古屋支部常務議員と
なり中野地区能楽発展につとめ
ている
昭和三十三年九月 昭和三十三年
九月より毎年九月に伊勢神宮秋
季神楽祭に参納、大宮司より感
謝状を受ける
昭和三十四年四月 新城市にて皇
太子殿下御成婚奉祝記念囃子会
を開催、新城市長より感謝状を
受ける
昭和三十五年三月 鳳来町にて皇
太子殿下御成婚奉祝記念囃子会
を開催、鳳来町長より感謝状を
受ける
昭和三十五年 重習「道成寺」シ
テ梅若六郎(芸術院会員)
昭和三十八年 重習「道成寺」シ
テ金剛殿(金剛流宗家)
昭和三十八年 大曲「恋重荷」シ
テ観世鉄之丞
昭和三十八年 大曲「碓」シテ梅
若六郎(芸術院会員)
昭和三十八年三月三十一日
昭和四十二年四月二十一日(現在)
宝生英雄
昭和四十二年四月二十一日(現在)
社団法人日本能楽协会会员(重要
無形文化財能楽保持者)となる
昭和四十三年九月 秘曲「一子相伝
「朝長横法」故小寺金七披露に
ついて宗家の副後見の為京都に
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張

この日の「千手」は当日配られ
た注意書のように、拍手喝采をも
って終らせてしまふには惜しい舞
台であった。
シテ千手ノ前の万紀夫師も明快
な謡を聞かせてくれた。なにより
も行儀よく万三郎師に導かれるよ
うにひとつひとつの仕舞をもつて
舞台を貴重なものに仕上げている。
自らの芸よりも舞台を大切に
していることがよくみてとれた。
とくにこれといった見せ場はな
いのだが、こうして積み重ねられ
てゆく時間は「明け渡る空」の面
づかひまで、ツレの謡、受けて渡
す見事な地謡(上田照也・野村四
郎師)に運ばれて(ただシテ・ツ
レ・ワキの連吟は謡いがちがうの
かしくりしなかつたが)春の雨
降る愛憎の夜的情緒を深めてい
た。
シテには遊女の艶めかしさに欠
け、次代を背負う情熱で舞台に
立ち向かつていってほしい。

昭和四十一年 重習「望月」シテ
宝生英雄
昭和四十二年四月二十一日(現在)
社団法人日本能楽协会会员(重要
無形文化財能楽保持者)となる
昭和四十三年九月 秘曲「一子相伝
「朝長横法」故小寺金七披露に
ついて宗家の副後見の為京都に
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張

能 会 清 韻

大槻十三・十三 回忌追善能

(四月二十八日)

「半部」(大槻秀夫師)より観
能。一夏の間に一室にこもつての修
行も終りに近く、花の供養をする
僧、その僧の目に思いがけず写っ
た夕顔のイメージからこの曲は始
まる。生い茂る夏草にまじり、頼
りなく半部からみつく夕顔は仏
に供えるような花ではない。夕べ
の間に白くボツカリと咲いて朝に
は萎んでしまうこの花は人目につ
かぬ庶民のはかない花である。こ
のイメージから源氏物語の薄幸の
女性「夕顔」へと誘われてゆく幻
想が、情趣深いこの曲の舞台であ
る。
しかしこの日は「立花供養」の

昭和四十一年 重習「望月」シテ
宝生英雄
昭和四十二年四月二十一日(現在)
社団法人日本能楽协会会员(重要
無形文化財能楽保持者)となる
昭和四十三年九月 秘曲「一子相伝
「朝長横法」故小寺金七披露に
ついて宗家の副後見の為京都に
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張

んとすえられ、曲の終りまでその
ままであつた。そのために夕顔の
イメージは全く消されてしまった
ようだが、それがなんと邪魔であ
つた。
橋懸りの松におかれた半部の
夕顔と松を中心とする立花との対
比があるのだろうが、大きすぎ
る。また壮大な雲林院の情景を思
い描くには、それが直接目に入り
すぎる。
そしてなによりも、立花のため
に舞台からたそがれどきの情趣が
消えてしまったのはつまらなかつ
た。立花に遠慮して舞台左半分
で舞われる序ノ舞も正面からは、み
え隠れするといったものでなく、
なんのために立花なのかわからな
かつた。何らかの工夫がほしいも
のである。
シテの舞いはそんなわけで印象
に残らず、囃子方、地謡とも充実
してはいたが、はがゆい思いが
はかられていた。
「望月」では演者がそれぞれ個
性的で劇的な効果を高めてくれた
ワキの高安滋郎師は、間狂言の茂
山千五郎師のリアルで迫力のある
演技とうまく調子があって賞賛が

昭和四十一年 重習「望月」シテ
宝生英雄
昭和四十二年四月二十一日(現在)
社団法人日本能楽协会会员(重要
無形文化財能楽保持者)となる
昭和四十三年九月 秘曲「一子相伝
「朝長横法」故小寺金七披露に
ついて宗家の副後見の為京都に
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張
昭和四十六年 大曲「碓」シテ観
世元正(観世流二十五世宗家)
昭和四十六年 一子相伝「碓」シ
テ喜多実(喜多流十五世宗家)
昭和四十八年四月十五日 脇方一
子相伝「張良」シテ観世鉄之丞
出張

端正な姿と謡で舞台を引き締め、
子方(上田公威)は元氣いっぱい
堂々と羯鼓の舞いをみせてくれ
た。シテ(大槻文蔵師)は、やは
り舞いに秀れている。難しい長袴
の獅子舞は、舞いだけでなく劇的
緊張もあつて見せ場であつた。シ
テは以前も見てきた時よりも
間がとれてきている。ただ謡には
もっと自然な呼吸とリズムがほし
い気がした。
はじめて聞く一調「女郎花」。
加えて大倉流の興味深い手がある
というが、なかなか聞きとれるも
のではなかつた。印象では、ひと
つひとつ確かめるようで冷たくつ
きはなす大倉長十郎の鼓に殿島修
二師の謡はいくぶん緊張気味で
いつものびやかに欠けていた
ようであるが、鼓との難しい呼吸
がはかられていた。
舞囃子「卒都婆小町」梅若六郎
師。常の舞囃子と位がちがいが、そ
のまま能になるような、目を閉じ
た老小町の狂いの舞いであつた。
(百谷 隆)

山田仁三郎氏逝去
金剛流職分・山田仁三郎師は、
四月十八日午後一時十五分、心不
全のため名古屋市千種区稲舟通一
ノ三三の自宅で逝去。享年八十八
告別式は二十日午後一時から
二時まで千種区稲舟高針大廻間
伝光院で執り行なわれた。喪主長
男久雄氏。
故山田仁三郎師は、金剛流の長
老であり、中部金剛会会長として
多年能楽界の発展に力を尽くし、
能楽協会名古屋支部常務議員を歴任
熱田神宮能楽殿運営委員会委員を
つとめ温厚真摯な芸風で斯界の信
望はきわめて厚いものがあつた。
謹んでご冥福を祈る。


定期能・追善能盛ん

演能案内

名古屋猶諷会番組

あなたに心をこめておくりする……

富士道の婚礼道具



家具の富士道

本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
TEL 代表 (262) 5547
工場 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

〔宝生流〕全曲を収めた携帯用謡本

旅の友

旅行に観能に謡会に
天・地・人(三冊)揃 22,000円 (¥170円)
分売 各 8,000円 (¥140円)

東京都千代田区神田神保町3-9-9
電話 (263) 6771 **わんや書店** 東京都中央区銀座8-7-1
電話 (571) 0513


都心に近代的で高雅な 地下2階 地上10階
ビジネスとリビングに最適の 分譲・賃貸

中央マンションへ

名古屋市中区錦3丁目13番5号
中央地所株式会社
電話 (961) 3271 (代)

大槻十三・十三回忌
追善能
四月二十八日(日)十時始
熱田神宮能楽殿

願いは あたたかい心のつながり



対話がはずむ
東海銀行

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一 部 35円

題字は熱田神宮 藤田宮司筆

第九回 名古屋新能

8月3日 熱田神宮神苑で

能「放下僧」「半部」「船弁慶」

盛夏の夕、熱田神宮神苑で行なわれる恒例の「名古屋新能」は、ことし第九回を迎え、きたる八月三日(土)催される。

市民の納涼能楽鑑賞として、名古屋新能がはじまったのは昭和四十一年、当初二回は、若宮八幡社境内で催され、第三回から熱田神宮境内にうつされ、年々とも夏の恒例行事として市民に親しまれてきている。

とくに今回は、能三番立て。(名古屋新能としては、第三回以降毎回二番立てであった)

曲目は、喜多流「放下僧」(シテ長田田丸、観世流「半部」(シテ梅田邦久、宝生流「船弁慶」(シテ衣笠正宜)で、動と静の曲趣の妙が期待される。

なお火入れ式は熱田神宮長谷権宮司によって厳かに行なわれる。

開演は午後五時半、会費は前売券八百円、当日券千円、学生券五百円、入場者には新能記念うちわが進呈される。

主催 能楽協会名古屋支部
中部能楽師会、熱田神宮
後援 名古屋市

- 能 組
- 仕舞 野宮 塚本 秀雄
 - (観) 星島 杉村 竹翠
 - (春) 杜若 前田 茂穂
 - (観) 班女 小島 一英
 - 船弁慶 柴田 収武
 - 離子
- 梅田 邦久 高安 勝久
- 後藤 孝一 藤田 六郎兵衛
- 狂言 井上松次郎 井上礼之助 大野 弘之
- 桶の酒 井上松次郎 井上礼之助 大野 弘之
- (宝生流能)
- 中村 靖弘
 - 衣笠 正宜 高安 勝久
 - 船弁慶 高安 勝久
 - 飯富 雅介
 - 河村 総一郎 池田 茂
 - 福井 良久 寛 三男
 - 間 佐藤 秀雄

熱田神宮大祭奉納能

6月5日 能楽殿で開催

熱田神宮大祭奉納能は、六月五日午後一時から熱田神宮能楽殿で開催された。

主催は熱田神宮、能楽協会名古屋支部、名古屋能楽会、後援愛知県、名古屋市、中部能楽師会。

能・宝生流「枕草子」(シテ竹腰勝一、観世流「東北」(シテ服部紗枝師)の二番、狂言「杭か人か」(佐藤卯三郎、井上松次郎)

離子・喜多流「巻扇」(シテ長田田丸、金剛流「狸々」(シテ百々取治師) 仕舞観世流「放下僧」「征之段」「杜若」「輝丸」金春流「田村」で名古屋能楽会のはと催された。

6月23日 河村丘造師 傘寿祝賀狂言会

名古屋狂言会の高老、河村丘造師の傘寿を祝して、新城狂言同好会を中心に、狂言共同社、玉石会名古屋大生会の共催で、「和泉流狂言会」が六月二十三日熱田神宮能楽殿で開催される。

6月29日 鬼頭八郎 師叙祝賀離子会

観世流太鼓方・鬼頭八郎氏は、

演能カレンダー (熱田神宮 能楽殿)

- 〔6月〕
- 15日(土) 宝生流学生会式能 (有料) (番組①面掲載)
 - 16日(日) 宝生流学生会 (有料) (番組①面掲載)
 - 23日(日) 和泉流狂言会 (有料) (番組①面掲載)
 - 29日(土) 鬼頭八郎師叙祝賀会 (来場歓迎) (番組①面掲載)
 - 30日(日) 観世流学生会 (来場歓迎) (番組②面掲載)
- 〔7月〕
- 7日(日) 淡交会大会 (来場歓迎) (番組②面掲載)
 - 14日(日) 朝日狂言会 (有料)
 - 27日(土) 名古屋観世九事会定期能 (有料)
- 〔8月〕
- 3日(土) 新能 (熱田神宮特設舞台)
 - 18日(日) 宝生流官庁実業団楽会
- 〔9月〕
- 1日(日) 大観世会定式能 (愛知文化講堂) (有料)
 - 8日(日) 観世会秋の会 (有料)
 - 15日(日) 観世会秋の会 (有料)
 - 22日(日) 清水会林愿蔵師追善会 (有料)
 - 23日(祭) 中銀会定期能 (有料)
 - 28日(日) 世陽会定期能 (有料)
 - 29日(日) 青陽会定期能 (有料)
- (演能変更の節はご了解下さい)

演能案内

第十八期・第二回 名古屋宝生会定式能

六月十六日(日) 午後一時始
熱田神宮 能楽殿

- 能 組
- 宝生 英雄
 - 高安 滋郎
 - 吉田 定男
 - 福井 啓次郎
 - 藤田 六郎兵衛

- 狂言
- 後見 渡辺容之助
 - 吉田 俊彦
 - 高田 真六
 - 須賀 美明
 - 近藤 源十
 - 内藤 辰巳
 - 衣笠 正宜
 - 鬼頭 泰二
 - 嘉男

花盗人 佐藤卯三郎 井上松次郎

- 仕舞
- 柏崎 玉井 弘子
 - 葉上 戸田 和子
 - 雲雀山 内藤 泰二
 - 嵐山 衣笠 正宜

竹生島 浜村 桃衣

- 離子
- 倉本 雅
 - 村瀬 郁子
 - 古田 千枝子
 - 須賀 千枝子
 - 葛原 正枝子
 - 足立 桃衣
 - 知澄 子

和泉流狂言会

六月二十三日(日)
熱田神宮 能楽殿

末広がり(大原三郎、佐藤秀雄、山本慶吉) 附子(津田庄三郎、井川澄子) いろは(今枝権雄、今枝権雄) 萩大名(原田三男、松井平、佐野元之助) 口真似(佐藤融、佐藤友彦、佐藤秀雄) 伯母ヶ酒(畑中良雄、権田重忠、文荷) 歌村鴻助 井上礼之助、井上祐(清水(寛見政行、佐藤友彦) 泉山伏(酒井宏、小田正一、水谷利夫) 福之神(伊藤利彦、岡崎久太郎、林東助) 止動方角(大原三郎、天野友一郎、佐藤秀雄 松井平) はか小舞、独吟など。

鬼頭八郎師叙勲 祝賀離子会

六月二十九日(土) 午後一時始
熱田神宮 能楽殿

- 離子
- 老松 観世鉄之丞
 - 羽衣 上田 照也
 - 船弁慶 宝生 英雄

独鼓 宝生 英雄

- 一調 観世 元則

唐船 鈴木 一雄

- 狂言小舞 鬼頭 喜太郎

貝尽し 井上松次郎

主催 長生会
後援 観世元信会
観世流太鼓方職分会

朝日新聞 名古屋新聞

中部能楽師会

能楽の友

観客の皆様へ

能楽鑑賞は、ただの観賞ではなく、能楽の文化を伝えること、また、能楽の魅力を伝えること、そして、能楽の文化を継承すること、が私たちの使命です。

観客の皆様には、能楽の文化を伝えること、また、能楽の魅力を伝えること、そして、能楽の文化を継承すること、が私たちの使命です。

観客の皆様には、能楽の文化を伝えること、また、能楽の魅力を伝えること、そして、能楽の文化を継承すること、が私たちの使命です。



西川光学株式会社

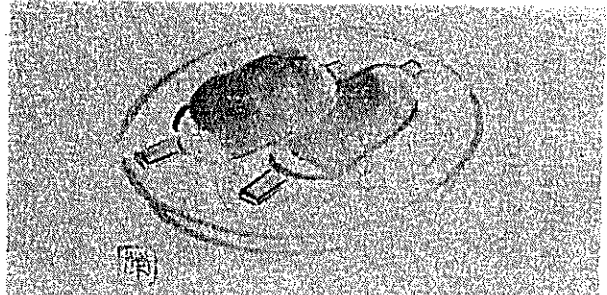
能 紀 行 (41)

五 平 餅 二 井 栄 逸

絵と文 二井栄逸

五月七日、お稽古先の新城で弱法師の能があった。これは、聖徳太子千三百年忌法要の中に能を組入れたという浄泉寺の住職の希望で実現したものである。演者も淡泉寺にゆかりのある人達ばかりで、長田隠師の指導で、安藤武さんがシテをつとめ、ワキは鈴木肇さん、大鼓は鈴木正治さん、小鼓は永田六兵衛さん、笛は中村久芳さんの御執心の面々で、いとも厳密に奉納されたのであった。聖徳太子に縁のある能というので、去年、鈴木さんからも相談を受けたが、天王子の縁起を主題とする弱法師がいいということになり、弱法師を奉納することになったのである。

この日、聖徳太子千三百年忌法要は二日間にあたり、お稽古に行われ、新緑に映える御堂は各層の人達でいっぱいであった。弱法師は、継母の悪言により、家を追われ、悲嘆のあまり盲



目となった少年の俊徳丸の生活をまともに描写して、同情をひこうとするのではなく、遊蕩風な演出し、四辺の世界にさとりを導入し、四辺の景観はことごとく吾が心眼にあり、と、欲する人間共通の生命の深さを描写した能としてみがかれみがかれ名作となっていたのである。

天王寺は、聖徳太子の創建にかゝるもので、先の大戦で堂塔の大部分は焼失したが、幸いにも本堂は残った。その後、再建が行われ現在は、六時礼拝堂、仁王門、五重塔、金堂、鐘樓等が復元した。永仁二年(一二九四年)僧、忍性が建てたという、西門の石の鳥居は、元のまゝ残っている。



弱法師 二井栄逸画

奉納前夜、舞台稽古をすませてから私達は、安藤さんの御厚意で、その夜、河内の園境にまたがる信貴山麓のあたりで、今も静かなたづまのうちに明け暮れしている。

集

持った人もあるにはありますが、お稽古の日は比較的少ないので、大体には、やっぱり師匠を信頼してもらわなければなりません。一番いけないのは、ちゃんと師匠につかずに、少しばかり天狗な友だちな

位の話

山本博之師追善観舞大会

六月三十日(日) 午前十時始

熱田神宮 能楽殿

女 郎 花	山崎 栄治	小林 浩一
天 鼓	近藤みよ子	世之段 田中喜美子
天 鼓	高木 町子	阿 清 上遠野ひな子
木 賊	猪飼 康行	猪飼 康行
卒都婆小町	加納 保一	杉山 鈔光
源氏供養	山本 和子	吉田 定男
羽 衣	青柳イヅエ	吉田 定男
通小町	堀端 末子	河村 隆一郎
熊 坂	山崎 栄治	吉田 定男
小 督	吉田 琴子	吉田 定男
善知鳥	鈴木きくみ	河村 隆一郎
江 口	川久保彰礼	河村 隆一郎
船弁慶	川瀬とよ子	吉田 定男
定 家	村田 京子	東岸 啓士
藤 戸	伊藤 一枝	加藤 歌子
勸進帳	横山篤太郎	伊藤 一枝
夷 盛	荒木豊治郎	寺岡 正治
麻 餅	川瀬 保	伊藤 昌一
番外仕舞	三宅 重光	河村 慎二
追 加	山本 須之	杜 若
山本 勝一	西村 欽也	河村 隆一郎
酌之舞	福井啓次郎	助川 竜夫
主催 名古屋観舞会		助川 三男

連合淡文会夏季大会

七月七日(日) 午前九時始

熱田神宮 能楽殿

素謡 清 經	丹阿弥彰子	松浦喜代一
玉 鬘	北角 けん	梅村 多弥
仕舞 紅葉狩	加藤八千代	敦 盛
独吟 駒之段	古井 将雄	船弁慶 伊藤 篤
連吟 小袖舞我	武田ナナ子	枕之段 藤原 真次
仕舞 通小町	伊藤トシ	中島 貞
独吟 笠之段	早川 良	鼓之流 河合 正次
素謡 蜘蛛	丹阿弥彰子	岡田 成広
仕舞 富士太鼓	原 小夜	庄武志花子
独吟 千手	鳥沢 重男	文堂 恒一郎
素謡 鶴 鯛	伊藤 篤	大鼓 四郎
番外仕舞	加藤 八千代	
追 加	岩 夕	橋岡 久共
山本 勝一	西村 欽也	河村 隆一郎
酌之舞	福井啓次郎	助川 竜夫
主催 名古屋淡文会		助川 三男

朝日狂言会

七月十四日(日) 午後一時始

狐塚

和泉 保之 野村又三郎 佐藤 秀雄

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その21)

謡曲を習うほどの人にとつては、だれにでも必要なことですが、ことさらに初心者には、師匠のまね、どこまでも師匠を信頼して師匠について習ってゆくことを忘れてはなりません。もちろん一人、一人違つたいろいろなクセは持っているものです。ま

持つた人があるにはありますが、その人の比喩的に少ないのですから、大体には、やっぱり師匠を信頼してもらわなければなりません。一番いけないのは、ちゃんと師匠につかずに、少しばかり天狗な友だちなぞから習うことです。この方法をたつて正しく進めることはほとんどないといつてよいくらいです。これはよく田舎のご隠居なぞが、ご隠居同士でやることです。憤りてほしいと思います。

先ごろラジオ放送で謡のお稽古に、「屋島」を六回にわたってお話いたしました。その後、講演中の「位」についていろいろお問合わせの向きもありましたので、ここに補足したものを述べてみたいと思います。

位の話

よく「あのくらい」、「このくらい」と軽く称えますが、位の字を当てますと、この意味では、ちよつと強ひびき過ぎると思ひます。「こんなもの」、「あんなもの」という言葉にも位という意味は含まれておりました。

各地だより

京都新能

六月二、三日の二日間、ことしも新能のトップを切つて京都新能が六月一日、二日の二日間平安神宮で催された。

豊橋狂言鑑賞会

六月二日、豊橋市民文化会館で

豊橋

この豊橋狂言鑑賞会は、豊橋市民文化行事の一環として、豊橋市教委の主催で昨年はじめて催された。ことしは第二回で、狂言方・野村又三郎師らを中心になつて活躍している。

故武田宗治郎師三十三回忌追善能

故武田宗治郎師三十三回忌追善能が六月二十九日(土)三十日(日)の二日間、東京・渋谷・観世能楽堂で催される。

名古屋

三十日(日)熱田神宮能楽殿で故山本博之師追善能を開催する。

連合淡交会大会

名古屋淡交会主催による連合淡交会夏季大会が七月七日熱田神宮能楽殿で催される。



橋宮神事能・復曲「細女」の上演

古能「細女」の上演

伊勢一宮・椿大神社で

前号既報のように、伊勢・一宮椿大神社(三重県鈴鹿市山本町)で古能「細女」(うすめ)が金剛流により復曲され、四月九日上演された。

このとき、神楽舞をされた故事から神楽舞の祖神として崇められている。このため古い時代より同社には天細女命にまつわる古能が伝わっており、詞章だけ残って型付も手付も失われていた。この古能「細女」の復曲には伊勢の社家であった渡会忠介氏(京都伝統芸能懇話会幹事代表)の奔走でシテ金剛流宗家金剛殿師をはじめ、ワキ高安流宗家高安流師、岡治郎右衛門、囃子森田光春、曾和博朗、谷口勝三、前川善雄、関狂言茂山千五郎の諸師により振付けられ、四月九日、復曲上演されたものである。

当日は第一部(仕舞)高砂(重本明江)田村(吉田律子)羽衣(吉水玉)歌占(家田信子)地謡(広田隆一、重本昌三、広田泰三、松野恭徳)。(特別仕舞)内外詣(金剛永謙)

第二部(能楽)細女(シテ金剛殿、ワキ岡治郎右衛門、ワキツレ森明成、中川胡舟、笛森田光春、小鼓曾和博朗、大鼓谷口勝三、太鼓前川善雄、間狂言茂山千五郎、後見・広田隆一、重本昌三、松野恭徳、地謡・今井幾三郎、種田道三、宇高通成)

以上の番組で、この日は椿宮大祭にもあたり全国からの参拝で、船のなかへ神隠れされる。

正加
山本勝一
西村 欽也
河村純一郎
福井啓次郎
助川 竜夫
三男

主催 名古屋観舞会
後援 朝日新聞社
朝日新聞社
名古屋市中区小橋字北山二七五八一―二八
丹阿弥 元方
電話 七九三―八三五五番
合 淡 交 会

主催 名古屋淡交会
名古屋市山本町字北山二七五八一―二八
丹阿弥 元方
電話 七九三―八三五五番
合 淡 交 会

井 塚 和泉 保之
野村又三郎
佐藤 秀雄

主 催 朝日新聞社
主 催 狂言共同社

会 費 指定席 一、二〇〇円
普通席 八〇〇円

取 扱 所 朝日新聞名古屋本社企画部 電話 四八―一三一
中 区 橋 一 丁 目 七 五 井 上 方 電 話 四 一 四 三 〇
各 出 演 楽 師 宅 各 プ レ イ ザ イ ド

(閉会午後四時三十分頃)

友社 本町2-20 4) 1984 36393 400円 500円 35円

納能 東北 殿で

能組 狂言 能楽 佐藤卯三郎 井上松次郎

邦語会春の会 (第一部) 五月十二日(日) 九時始

演能風案 劇内

分林 弘一 片山 博太郎 高安 勝久

青木 祥三郎 分林 保三 片山 慶次郎

旧尾張藩には、御抱え能楽師が五流共あったと存じます。観世流の御抱え能楽師は木下敬賢師が最終の人であります。同じ御抱え能楽師として現在その家柄の続いているのは、藤田家(笛)、福井家(小鼓)高安家(ワキ師)の三家で、他は全部失われております。

木下敬賢師の御抱え能楽師が五流共あったと存じます。観世流の御抱え能楽師は木下敬賢師が最終の人であります。同じ御抱え能楽師として現在その家柄の続いているのは、藤田家(笛)、福井家(小鼓)高安家(ワキ師)の三家で、他は全部失われております。

現在演能とは異なり、朝八、九時より夕刻まで、普通五番、又式能は頭付とて祝言共七番を一日に演能するが普通で、私の翁の扱きは早朝より始め、夕刻迄に終わるのが普通でありました。

現代の御入で「佐」一字をワキ「佑」一字をツレと読む人は少いと思ひます。現代の様な文明が私共人間に幸福とは私共は得ないものであります。



根尾能郷の猿楽 淡墨ザクラの由来 岐阜市から車で北へ二時間余、白山権現の峻嶺を背に根尾川の西岸に深谷を見下す景勝に鎮座する白山神社(岐阜県本巣郡根尾村能郷)には、今の能狂言の前身である猿楽が保存されている。

皇位継承問題のもつれによって大泊頼朝(後の頼朝)に、従兄弟の市辺押盛王は殺害され、御子の徳計王、弘計王は尾張松降荘押盛(現在の一宮市、細田町押盛)に難をさげられた。

また、根尾村にある「淡墨ザクラ」は、樹齢千三百年、樹高二十メートルの幹、幹周十三メートルの巨木でその由来として根尾村教育委員会は次のように記している。

料理 菜軒 6月・7月放送予定 NHKラジオ第一放送 (毎週土曜日午後6時5分) (6月) 15日(土) 観世流「碓氷」観世元正ほか 22日(土) 観世流「飛鳥川」井上嘉久ほか 29日(土) 狂言「薩摩守」山本東次郎ほか

奥田歯科診療所 名古屋市北区杉栄町3/54 (カムカム劇場前) 医療法人 仁愛会 奥田 継 市 電話 (981) 4554・7720番

檜書店 親世流・金剛流 宗家本発元 干101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話 (291) 2488-9 干604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 電話 (231) 3552 1990 113

民芸食事処 まんだら 名古屋市西区浅間町3番地 TEL 524-0168 西みやか TEL 531-5507・6666

城 割烹・小料理 熱田神宮能楽殿喫茶部 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248 喫茶・グリル(栄分地下ビル) 電話 731-1128

集

河村良之助 吉田 妙 西村 欣也 長谷川 章 加藤 保彦 鬼頭 八郎 後藤 一 後藤 二 後藤 三 後藤 四 後藤 五 後藤 六 後藤 七 後藤 八 後藤 九 後藤 十 後藤 十一 後藤 十二 後藤 十三 後藤 十四 後藤 十五 後藤 十六 後藤 十七 後藤 十八 後藤 十九 後藤 二十

能 紀 行 (42)

実 盛 逸 栄 井 二 文 繪



頼政、朝長と共に三修羅として 重くあつかわれていた能に実盛が

ある。修羅能としては、後ヅテに 厨の面を用いる唯一の曲で、平太 類の強さとなり、表面は老武 者の衰えを示しつつ、不撓の雄心を 内にこめた能である。 平家の武將、斎藤別当実盛は、 戰場を馳せるのに、この白髪で は、あの老武者よ、と、敵にあな どられるであろうと、白髪を墨に そめて出陣し、わかやぎ討死した 剛のものであった。

因んで手塚山といわれる。 「……六十に達して戦せば。若 殿ばらに争い先をけんも大人 氣無し。又、老武者とて人々に あなづられんも口惜しかるべ し。巖巖を墨にそめて。若やぎ討 死せんずる由。常々申し候ひし が、まことにそめて候ひけり。 洗わせて御覽候へど、申しも敢 へず首を持ち」義仲は樋口の次 郎兼光に実盛の首を洗わせる。 一御前を立てあたりなる。 この池波の岸にのぞみて、水の 緑も影映る、柳の糸の枝垂れて 気弄れば、風新柳の髪を梳り、 まことに爽快な謡いどころであ るが、この首洗池も丘陵の下に現 存している。今の季節であったら ば、浦や芦の茂った汀(みぎわ) に、かぶとの星のように河骨が黄 色い花をつけて、ひっそりと静ま っているに違いない。 大將軍の直垂を許され、髪をそ めた実盛は討死を覚悟して出陣し たのである。功成り名とげたこの 老將には、何一つ思ひ残すこと もなく藤原の土となったのであろう が唯一つ、望み通りにゆかなか った事があるのではないか。実盛 は、ほんとうは木曾義仲に討たれ ることを望んでいたのである。そ れは、藤原氏の子孫であった実盛 が、源義朝に仕えていた若い頃、 木曾義仲を助けたことがあり、自 分の養子にするつもりで何かと氣 をつけ見守っていたことがあるか らである。実盛はなかく、の人情 家であつたらしい。

その執心の修羅の業。廻り 廻りて又、木曾と組ま んとたくみしを、手塚めに隔 てられし、無念は今もあり。 しかし、自分が実盛だと判れば 義仲は助けるであろう。白髪を墨 にそめていれば実盛とは気が付くま い。白髪にそめた理由はそのため であつたのかも知れない。手塚の 太郎光盛に打たれたことは無念や るかたなく、何となくあわれみを さそう。 × × × × × 五月末、鳥取に能があり、二十 年ぶりに日本海を見た。觀光タク シーを借りきって、砂丘や、海 岸、山の辺の方等見て廻つたが、ゴ ルフ場のように見渡すかぎりの山 々が芝をしきつめたように一面に ツツキウ畑に傾いたのは、この丘も 向うの丘も薄むらさきにけぶつて 素晴らしいんですよ、と、運転手 はいう。 せめてもう一日あれば能のふる さとへも行ったであろうに、と、 残念に思った。山嶽からかいま見 る日本海は、あじさい色に輝き、 海岸線から見る日本海は錯綜背に しつとりと落ちついて見えた。山 陰の海岸には広重の版画そっくり のところがあつて美しい。そして 静かである。東海地方のように交 通網がはられていないため、工場 等も少なく、昔の姿を保つことが 出来たのが今では幸いでいるよ うである。 (絵は実盛)

名古屋 観世九臯会 観世 喜之 観世 武雄	増田 一雄 塚本 秀雄 有賀 滋子 長谷川 章 高木 美智子 加藤 保彦 青木 武弘 吉田 妙	大西 信久 大西 智久 大阪能楽会館	財団法人 鎌倉能舞台 中森 晶三 中森 貫太	千248 鎌倉市長谷三十五一十三 電話(〇四六七)⑤五五五七	名古屋 修 諷 会 梅若 修一	笹月会 中 川 清 長浜市地福寺町八ノ二九 電話②〇六三〇番	高安 滋 久 郎 名古屋市中区栄五十四一四 (千460) 事務所 名古屋市中区栄五十四一四 (千460) 後藤 方	和谷 龜二 郎	藤田 六郎 兵衛 藤田 昭彦	田村 正 諷 会 大阪市東区東區合町一五七 電話大阪(七〇二) 五一五七番 徳島市吉野本町四 三谷内 電話徳島(五三三) 四七四四番	徳島 正 韻 会 徳島市吉野本町四 三谷内 電話徳島(五三三) 四七四四番	竹翠会 若 松 宏 守 (千662) 西宮市平松町四一九 電話(〇七八) 二二二〇六〇一	此水会 高野 瀬 透	水雲会 水 藤 元 三	知水会 服 部 紗 枝	久田 正 会 久 田 秀 雄	松韻会 佐 藤 太 俊 千種区猪高町藤森字石ヶ根七四一 電話(七七二) 四七四六	春融会 真 柄 米 次	金 春 欣 三 東京都中野区中央四一六一二一三三 (千164) 電話(三八四) 六七七三	伊勢 八 流 会 伊勢市宮町一四一四一七	一謡会 河村 鉦二 叶石会 河村 総一郎	高安 滋 久 郎 名古屋市中区栄五十四一四 (千460) 事務所 名古屋市中区栄五十四一四 (千460) 後藤 方	梅若 修一	玉鑾会 永 観堂西町二〇 洗心会 南 条 秀 雄 華心会 奥 村 富 久 子 電 075-771-0767	竹 韻 会 杉 村 竹 翠 名古屋市中区藤ヶ丘八三 電話七七一五〇三九番	邦 謡 会 梅 田 邦 久 名古屋市中区和区台町三丁目十六ノ五 電話(八四一) 四六三二番	嘉福会 加藤 総 兵 衛 名古屋市中区青柳町五ノ一五 電話(七四二) 四六七五番	猶忠会 熊 沢 恵 美 子 名古屋市中区猪高町高針大廻間 西一社団地 一四一五〇三	名古屋 橋 岡 会 事務所 名古屋市中区和区曙町二丁目六 加藤 良 久 方	每日婦人文化センター 謡 曲 教 室 風 韻 会 殿 島 修 二
-----------------------------	--	--------------------------	------------------------------	-----------------------------------	--------------------	--------------------------------------	--	---------	-------------------	--	---	--	------------	----------------	-------------	----------------	--	-------------	--	-------------------------	-------------------------	--	-------	--	---	--	--	---	---	---

名古屋鉄道株式会社

能樂の友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行能樂の友社

名古屋千種区吹上本町2-20

(郵便番号 464)

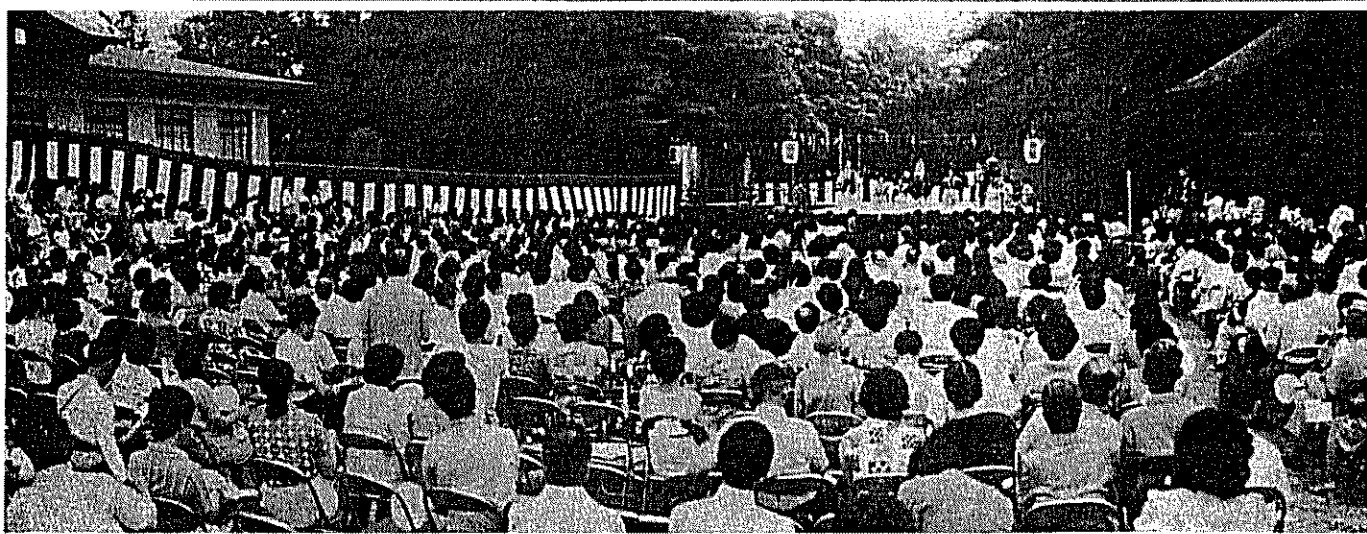
電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 400円

郵送の場合 1年 500円

一部 35円



〔写真〕 ④観客でうめた名古屋新能会場 ⑤厳かな火入れ式、聖火を点する篠田六郎兵衛氏 ⑥かがり火が映える能「半蔵」

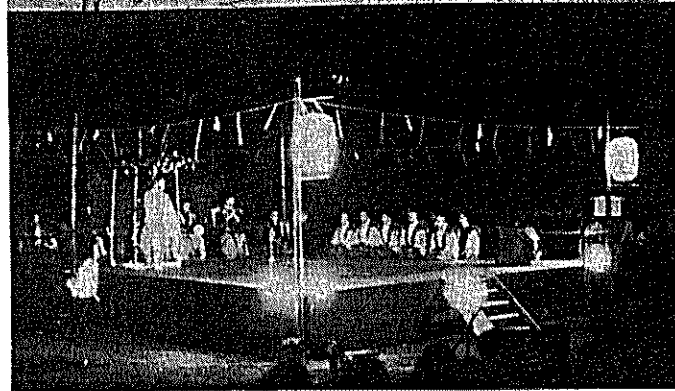
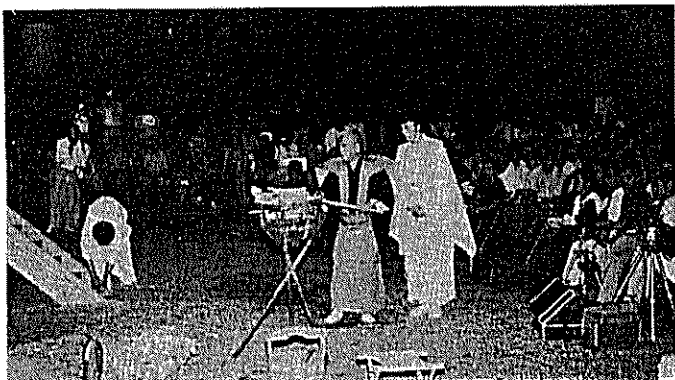
第九回 名古屋新能 熱田神宮で盛大に開催

名古屋新能は、さる三日午後五時三十分から緑につつまれた熱田神宮境内、神楽殿前特設舞台で盛大に催された。

夏の恒例行事として、名古屋新能は、熱田神宮、中部能楽師会、能楽協会名古屋支部が主催、名古屋市の後援により能楽愛好者のみでなく、広く市民の観能の機会として親しまれて、ことし第九回目、緑につつまれた熱田神宮の参道には、新能の提灯がめぐるさ、神楽殿前の会場には開演前に千五百人を越える来会者でムードを盛りあげた。

特設舞台は、ことしから能楽協会名古屋支部、熱田神宮の特別協力によって新しい能舞台で調製され、音響効果の工夫、また照明によって舞台背面の緑が映えるなど趣向がこらされた。

かがり火の映えるなか、観世流能「半蔵」の優麗な舞台、さらに和泉流狂言「種酒」の好演がくりひろげられ、ひきつづき切能は宝生流能「船弁慶」の静と動の絵巻が展開され、午後八時五十分盛會のうちに終了した。



暑中御伺い申し上げます

熱田神宮 宮司 篠田 康雄
熱田神宮 能楽 殿

熱田神宮 宮司 篠田 康雄
権宮司 長谷 晴男

地謡 廣瀬 喜久子 武藤 典子
石黒 操子 岡田 幸子
津田 文子 長谷川 千枝
加藤 文子 林 千枝
吉田 文子 岡田 幸子

御来場歓迎
後援 毎日新聞社
主催 殿 風 島 修
大槻 秀夫 地謡 泉 嘉夫
里井 次郎 水山 博

三保松原(羽衣) 清見寺(三井寺) 横津(小鍛冶) 池田の宿(熊野) 東名道路 名古屋
邦語会(梅田邦久師)の創立五周年記念能楽大会が開かれ、能「杜若」(シテ三輪久子さん)「花便・小書篋之伝」(シテ鈴木志子)「和流子」(和流子)など三十数番で

暑中御伺い申し上げます

大垣浦声会 積古場 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦田 保利	名古屋淡交会 橋岡 久 共	梅若盛義 幸謡会 近藤 幸江 岡崎市鴨田本町十一番地ノ三 電話(〇五六四) 〇二五二九	梅猶会 清岡 光会 岡田 光 絃	武田小兵庫 武田 欣司 武田 邦弘	武田詠楽会 犬飼 末吉 名古屋市中川区柳瀬町二二四〇	観世元昭 中日文化センター特別教室 昭門会 観世 元昭	観世静夫 観世 静夫	観世鏞之丞 観世 鏞之丞	山本観衛会 山本 勝一 西宮市南郷町五十二二 電話 〇七九八 〇四七七八番	壺泉会 名古屋市中区和区山里町一〇三 電話 八三一 一三一八五 西宮市甲陽園官神山町一の二七八 電話(〇七九八) 〇二四五八	社団法人観正会 上田 照也	内藤泰二会 鍵雲会	名古屋巽会 辰巳 孝	野口 久	東都港区西麻布四一八二八
---	------------------	--	------------------------	-------------------------	----------------------------------	--------------------------------------	---------------	-----------------	--	--	------------------	--------------	---------------	------	--------------

能 紀 行

(43)

扇 流 し

絵と文 二 井 栄 逸



昔、洛陽あたりに住んでいた僧が、秋の旅を思い立ち東に下った。幾夜かの旅を重なる間に、鎌倉を過ぎ、六浦の里にいた。

僧は舟で安房へ渡り、清澄へゆくと、たずねる事にす。寺にきて見ると、あたりの山々の紅葉は殊のほか美しく、それは錦をさらしたように見事であった。黄金色、鮮光色の中に常盤木の濃緑も交って、文字通り五色の糸でいろ／＼な模様を織り出した厚地の織物を見るようである。ところが、本堂の庭にある大きな楓の巨木とは青葉のまじりであった。不思議に思つて眺めていると、一人の女があらわれ、

「お僧は何をなされていられるのですか」

と、たづねる。僧は

「どうしてこの楓は紅葉しないのでしょうか」

僧は、この女のことをきいて大面白く思い、次の一首を手向けるのであった。

ふりはつるこの一本の跡を見
て袖のしぐれは山にさきだつ
た心を詠んだ歌に女は深く喜んだ。僧は、何故か、為相卿の歌によつてこの楓が紅葉しないようになつてしまつたのか理をたづねると女は、

「為相卿のお歌を承つて、つくづくと思ひますのに、このような片田舎の人も稀なお寺の庭に立っている私ですが、他に先だつて紅葉したればこそ、この譽れを得たのです。老子の句に、切成り名送けて身退くは、天の道なりといふことがありますが、それより後は堅く紅葉しないと心に定めました」

と、自分のことのように語り、私は、この楓の情であるといひ、僧に有難きお経を頂きたいと夕霧の中に消えてゆく。

三番目録、六浦の前半である。称名寺は、横浜市金沢区金沢町にある真言律宗の寺で、金沢文庫の保管所として有名である。山号は金山山(さんざんざん)といひ、

黄色地に紅葉を散らした長絹を用いた。まことにきれいなもので、一同をおどろかしたといふ。小面、黄色地に紅葉を散らした長絹、扇面流しの緋絵大口は、きつといふ絵になるに違いないと思つた。私は扇面散らしが好きである。

昔、扇流し(おんぎながし)といつて、金銀の美しい扇を用いて流す貴人の遊びがあった。京都の大堰川で行われ、室町時代にはなかなか盛んであった。川を流れる扇は、そのまゝ色々な美しい模様をつくつて流れてゆく。

門下にMさんという人がいたがその人は、扇流しをするたびに何本かの扇を持ってゆく。其の扇には色々な歌が書いてある。自分の望みを詠み込んだ歌、亡くなった人々の望みをなぐさめるような歌等がかきつけてあり、高い甲板からそれを海に投げるのだそう。ヒラヒラと舞い落ちる扇はかめめのように舞いながら波に落ちる。海は何となく久遠のいのちにつながるような気がするのだから、それとも神との対話を可能ならしめるテレパシーなのか、Mさんも夢を持った人だから、きつと、扇を流すことを楽しみにしているのだらう。

高集

演能カレンダー (熱田神宮 能楽殿)

8月	18日(日)	宝生流官庁楽団楽奏協会
9月	11日(日)	大衆能 (愛知文化講堂) (有料)
	18日(日)	世会秋式能 (番組④面掲載) (有料)
	15日(日)	観雲会定期能
	22日(日)	水会林愿蔵師追善会
	23日(祭)	中名古歴世九皇会定期能
	28日(土)	青陽会定期能
10月	6日(日)	九皇会秋の大会 (有料)
	10日(祭)	狂言会秋の大会 (有料)
	12日(日)	修風会秋の大会 (有料)
	13日(日)	梅若文会秋の大会 (有料)
	20日(日)	淡路会秋の大会 (有料)
11月	3日(祭)	幸正観会秋の大会 (有料)
	4日(休)	友風会秋の大会 (有料)
	10日(日)	世会秋の大会 (有料)

(演能変更の際はご了解下さい)

大男でしたから、同じ大男というわけで、そういう場合にはいつも引出されていま

暑中お見舞い

大阪喜多会 和島富太郎

森田光春 京都市東区八坂上町三七六

竹腰勝一

喜多流山本才

櫻月会 大倉長十郎

吉田俊彦

名古屋市千原区園山町二二三 名古屋大学 官舎

源正之助 源次郎

金剛永藏

麦の会 長田正宜

桂会 岐阜市松屋町 後藤方

金剛永謹

協方高安流 谷田宗二郎

幸友会 福井啓次郎

清風社

高安流白水会 和泉太郎

福井良久

金剛流豊星会

142 東京都品川区三葉二一八十二 電話(七八六) 四〇九二番

柳原富司忠

豊嶋弥左衛門

京都高安会 岡治郎右衛門

亀井俊一

豊嶋三千春

福王茂十郎

保忠雄

今井清隆

福王茂十郎

田鍋洋一

今井幾三郎

福王茂十郎

長生会

本田光洋

福王茂十郎

鬼頭喜太郎

林鉄郎

呉竹会 寛三男

鬼頭好信

暑中お見舞い

野村万蔵

前川善雄

明日とヒビノター

故大槻十三遺稿集

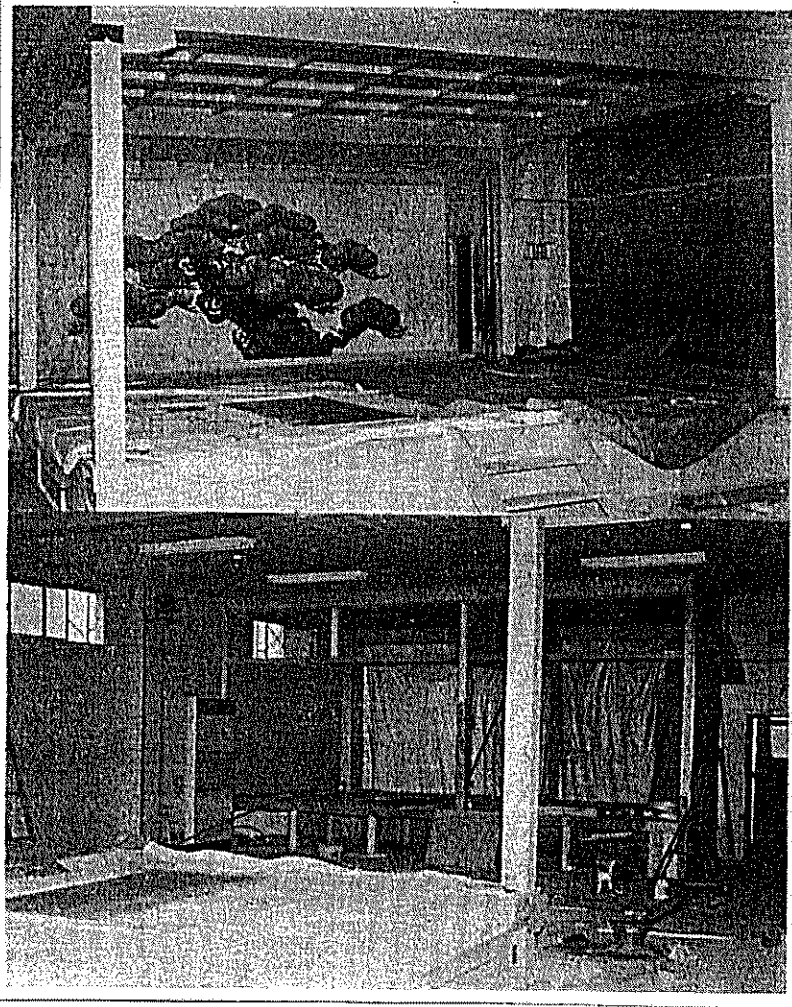
「この道六十年」

(その23)

大男 同士の安宅
私は安宅を二十二、三回動いています。先代(二十四世親世左近)と二日続きの催

先代(二十四世親世左近)と二日続きの催

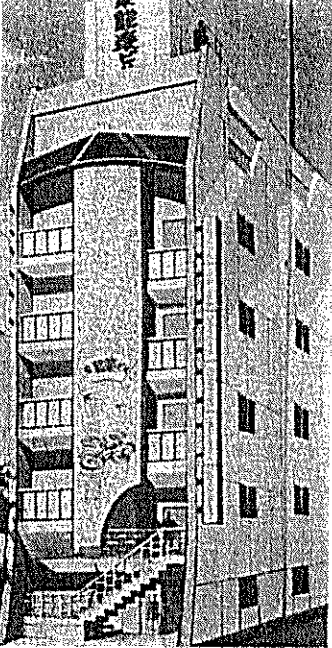
先代(二十四世親世左近)と二日続きの催



名古屋市の中心、栄五丁目にか
かく能楽舞台が誕生する。
この能舞台は、中栄五丁目四
一四に新築中の六階建「栄(さ
かえ)能楽ビル」の一環として、
能舞台が建設されるもので、建築
施主はゴトローション(株)有限会社、
後藤紙器工業株式会社(代表取締役
後藤新蔵氏)。

名古屋 栄に能楽舞台 九月十九日に竣工

建設株式会社。本舞台は三間四方
後座、地謡座は規格どおり設けら
れ、橋掛りは一間幅で落口まで約
一間二尺。鏡板の松ならびに側鏡
板の竹は本秀雄氏の画筆。
舞台の高さは見所より二尺で白
州を設け、見所は三十六畳、さら
に正面見物席についで舞台と同



じ高さで、十四畳敷の見所がつく
られていた。また控室は六畳二
間、十畳間があり、ロビーも設け
られ、冷暖房機二基が設置され
る。

栄能楽ビル・能舞台は昨年十一
月着工。建築施主の後藤社長は能
楽への造詣もふかく、名古屋親世
九郎の幹事である。栄能楽ビル
・能舞台の構想について「十年は
前、能楽堂の建設ということが
植村真太郎さんを中心に話が
出た。相当具体化したが実現しな
かっ。芸どころ名古屋の中心に能舞
台があり、能楽だけでなく、邦楽
はじめ文化、娯楽関係の発表会、
各教室、けい古場として利用して
頂くことは私の念願である。」と
語っている。ちなみに氏はロータ
リアンとしてこれまで社会福祉で
顕彰された徳徳の人柄である。

同志は、能評関係者約二十人が
同人となり、全国各地の能評を主
として、能楽の研究と評論と掲載、
同人には、草深清、沼田雨、中村
保雄、西田三好の諸氏が参加、隔
月刊、一部百五十円、年間千円、
発行船橋市前原西六一一四四一
五〇三、草深清方

師家消息

宝生流戸田和、同玉井弘子の両
師は、七月宝生流職分となり、能
楽協会名古屋支部に加入された。
戸田和氏、愛知県愛知郡東郷町
和合ヶ丘二一ノ五
玉井弘子氏、岐阜市湊町四二

林 鉄 郎	寛 鈺 一	吉 田 定 男	助 川 竜 夫	山 口 義 郎	大 蔵 狂 言 会 大 蔵 彌 太 郎 基 基 彌 太 郎 義 嗣 義	大 蔵 狂 言 会 大 蔵 彌 太 郎 基 基 彌 太 郎 義 嗣 義	狂 言 共 同 社	能 楽 の 友 社 同 人 一 同 柴 田 初 太 郎 高 安 滋 郎 殿 島 修 二 寛 三 男 杉 村 竹 翠 佐 藤 卯 三 郎 内 藤 泰 二 野 村 又 三 郎 二 井 栄 逸 加 野 昭 二 郎	朝 日 文 化 セ ン タ ー 囃 子 教 室 笛 寛 三 男 小 鼓 後 藤 孝 一 郎	鬼 頭 喜 太 郎 鬼 頭 好 信	川 晋 雄 京 都 市 右 京 区 御 室 芝 橋 町 一 〇 六
-------	-------	---------	---------	---------	--	--	-----------	---	--	----------------------	--------------------------------------

に時雨けん、山にさきたつ庭の
もみち葉々、一首の歌をよま
れたのです。その後、この頃は
紅葉しないのです。

[8月]	宝	大 観 齋 中 名 青	九 狂 修 風 梅 淡	幸 正 観
18日(日)				
[9月]				
1日(日)				
8日(日)				
15日(日)				
22日(日)				
23日(日)				
28日(土)				
29日(日)				
[10月]				
6日(日)				
10日(日)				
12日(日)				
13日(日)				
20日(日)				
27日(日)				
[11月]				
3日(日)				
4日(日)				
10日(日)				

名古屋市中村区元輪井町2-15
東京都豊島区南長崎六-15-14
京都市上京区中筋通り石薬師上ル
京都市上京区北野上七軒
電話〇七五(四六二)一三四一番
ウシマド写真工房
京都市上京区北野上七軒
電話〇七五(四六二)一三四一番

演能案内

観世会定式能
四十九年度第四回

九月八日午後一時始
熱田神宮能楽殿

能組

鞍馬天狗 河村真之介 塚本秀雄 大飼末吉
能 後藤契雲 久田秀雄 林甲子生 殿島修二
観世元正 高安滋郎 河村純一郎 大倉長十郎 藤田六郎兵衛
井筒 佐藤友彦

仕舞

藤三郎 藤井徳三
三郎 関根祥六
戸輪 久雄
狂言 久雄

雁大名

野村又三郎 佐藤秀雄 井上礼之助
小島一英 小島太俊 武田志房 武田太加志
高安勝久 西村欽也 飯富雅介 大野弘之
吉田定男 福井啓次郎 鬼藤三八郎

玄象

後見 柴田久雄 地謡 長谷川章 高野瀬三
岡取武 加藤保彦 藤井徳三
久雄 犬飼米次 関根祥六

附祝言

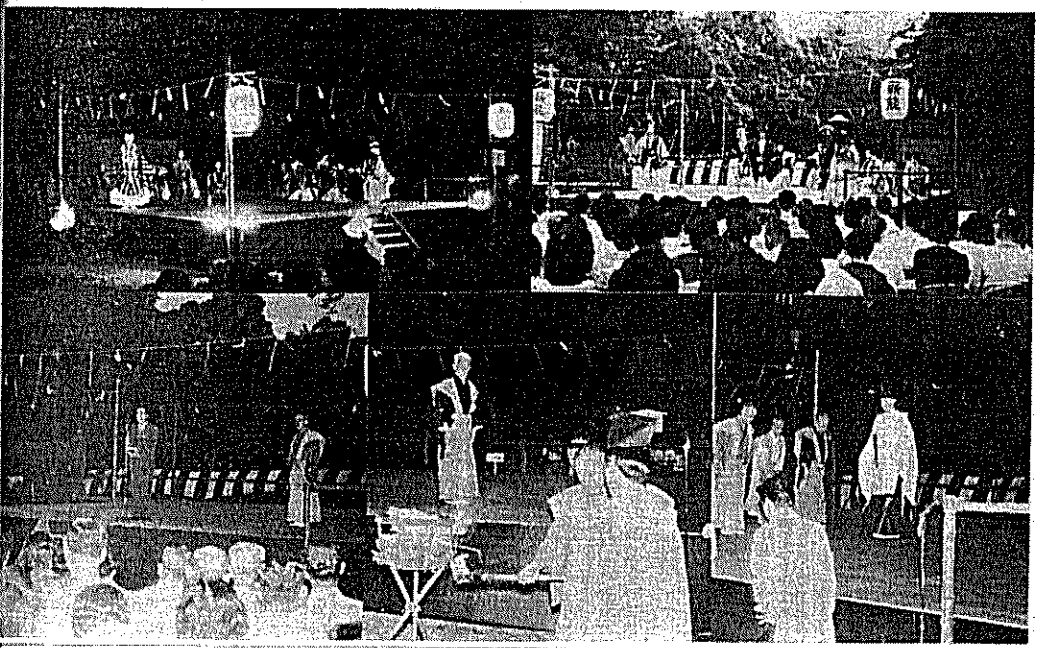
主催名古屋観世会

マラルメの半獣神の午後
能による舞台詩
泉嘉夫師が作能上演
不朽の象徴詩・マラルメの「半獣神の午後」を観世流泉嘉夫師が能的技法により舞台化し、きたる九月十二、十三、十四日、名演小

の友社
上本町2-20
464)
7984
E 36393
年 400円
年 500円
35円

各地で新能開催

名古屋新能は既報のようにきたる八月三日(土)熱田神宮・神楽殿前で開催される。観世、宝生、喜多の各流による能三番、和泉流狂言、金剛流舞囃子、金春流仕舞など。火入れ式の儀式が熱田神宮長谷権宮司によって行われ、本山



名古屋新能の
発展を祝う
名古屋清水市長挨拶
ことしの名古屋新能で本山名古屋市長の代理として、清水市民局長は次のように祝辞を述べられました。
名古屋新能はことし第九回を迎えられ、盛夏の夕べ、緑につつまれた熱田神宮境内で盛大に催されます。新能の歴史は千年ぐらいい前にこのように形が催され、新能とよばれるようになったといわれ、江戸時代に盛ん

であったと承っております。新能は、能を大衆化するということと同時に、能の魅力に夏の観光行事として意義があり、京都の新能は著名であります。当名古屋においては十年ほど前に、名古屋能楽界の能楽師田嶋一郎氏(故人)が名古屋でも新能をというこゝとで市役所にこられ、当時文化関係を担当していた関係で、その企画を承り市として賛同後援し、第一回、第二回は若宮八幡社で、第三回以降はこの熱田神宮で開催される。年々魅力を高めてこられ、名古屋市の名物行事となりました。この発展はひとえに能楽協会の皆様方

御料理
あつた
蓬菜軒

本 店 熱田区神戸町三四 電話(671)8686
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

ユニセフ新能
福岡で三万人が参観
さる七月十八日、ユニセフ新能が福岡県護国神社で開催された。この能はユニセフ九州本部主催で能組は能「俊寛」(シテ梅若六郎、ワキ高安滋郎)「船弁慶」(前シテ観世元正、後シテ上田照也、ワキ高安滋郎)狂言「附子」(茂山忠三郎ほか)で約三万人の来会者が会場をうめつくしきわめて盛大であった。

大阪新能(第十八回)は、八月十一日、十二日の二日にわたり生國魂神社境内で開催。
【第一日】能「橋弁慶」(シテ梅若盛義)「松風」(大西信久)「土蜘蛛」(大槻文蔵)
【第二日】能「経正」(シテ山本真義)「羽衣」(生一素知)「大会」(金春晃実)

駿河路を訪ねる
謡曲名所めぐり
11月3日
(文化の日) 挙行
能楽の友社では「謡曲名所めぐり」をことし11月3日(文化の日)に実施します。今回は、「羽衣」の三保の松原をはじめ「熊野」のふるさとその他駿河路の能謡史跡を訪ねることになりました。詳細は次号9月号で発表します。

宝生九郎師逝く
7月22日 宝生会葬で告別式
宝生流十七代宗家、宝生九郎師は、七月十八日午後八時三十七分国立熱海病院で急性心不全のため逝去された。享年七十四歳。告別式は社団法人宝生会葬として二十二日正午から水道橋能楽堂で厳粛に執行された。氏は明治三十三年生れ、十六歳で宗家を継ぎ、六十年間宝生流の発展と後継者の育成に身魂を注ぎ昭和二十一年能楽協会初代理事長として戦後の能楽復興に尽力、芸術院会員、日本能楽会会長、四十六年勲三等瑞宝章を受章、名古屋能楽界の発展にも大きな貢献をされた。謹んでご冥福を祈ります。

藤井 徳久 人三雄

城
割烹・小料理
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労祥地下ビル) 電話 731-1128

観世流・金剛流
宗家本発行元
檜書店
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291)2488-9
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 電話替東京3552
(231)1990
電話替京都113

楽しいお買いものはマツザカヤ



能楽の友

発行 能楽の友社
 名古屋市中千種区吹上本町2-20
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7984
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 400円
 郵送の場合 1年 500円
 一部 35円

〔9月〕	
15日(日)	観雲会秋の会 (有料)
22日(日)	濁水会林愿蔵師追善会 (有料)
23日(祭)	中部金剛会 (有料)
28日(土)	名古屋観世九草会定期能 (有料)
29日(日)	青陽会定期能 (有料)
〔10月〕	
6日(日)	九草会秋の大会 (有料)
10日(祭)	狂言やまのい会公演 (有料)
12日(土)	修風会能楽大会 (有料)
13日(日)	観世三回追善会能 (有料)
20日(日)	梅若嶺師秋の大会 (有料)
27日(日)	淡交会秋の大会 (有料)
〔11月〕	
3日(祭)	幸正親一會会 (有料)
4日(祭)	友風会秋の式能 (有料)
10日(日)	正親一會会秋の会 (有料)
16日(土)	邦和狂言會 (有料)
17日(日)	邦和狂言會 (有料)
23日(土)	和竹狂言會 (有料)
24日(日)	和竹狂言會 (有料)

定式能・社中大会 9月・10月の熱田神宮能楽殿 9月23日 中部金剛会能

中部能楽界は九月一日、能楽協
 会名古屋支部、中部能楽師会主催
 による「第十五回大衆能」(愛知
 文化講堂)が秋の催能のトップに
 各流定期能、各社中大会が盛大に
 催される。

熱田神宮能楽殿では、九月八日
 観世会定式能(本年度第四回目)
 には、観世宗家の「井筒」武田太
 加志師の「玄象」の能二番。九月
 十五日には宝生流・観雲会大会
 (内藤泰三師)は能「半部」一
 女「山姥」はじめ舞臺子、連時
 など三十数番、宝生英雄、大坪十
 喜雄、辰巳孝師らが来演、二十二

地区舞臺子の催能であった故秋
 蔵師十三回追善会で番舞子「雨
 月」はじめ楽舞「道成寺」「恋重
 荷」「求塚」など重曲をそろえる。
 二十三日は、中部金剛会による
 社中謡曲舞子会につづき午後二時
 から金剛会定式能。金剛宗家によ
 る「天鼓」、松野恭徳師「小督」
 の能二番、今井幾三郎、豊嶋三千
 春諸師らの来演で興趣がよせられ
 る。

栄能楽舞台竣工 (9月19日)

名古屋・中区・栄能楽ビル能
 楽舞台(栄五丁目六十四)は、既
 報のとおりきたる九月十九日午前
 十時竣工式ならびに舞臺披露が催
 される。

舞臺披露は、名古屋観世九草会
 伊藤次郎左衛門会長の祝辞のち
 祝賀番舞子「翁」シテ観世喜之
 三番更、井上松次郎、千歳・観世
 武雄、面箱・大野弘之、笛・寛三
 雄、地頭観世喜之。

また二十八日(土)は、名古屋
 観世九草会がことし始めて取り組
 んだ三回にわたる定期能の終会と
 して能「半部」「紅葉狩」を上演
 前後三回とも、女流師範による演
 能で、今回は高木美智子師が「半
 部」をつとめる。二十九日の青陽
 会は、能「田村」「野宮」「船弁慶」
 柴田収武、浦田保利、久田秀雄の
 三人による。

「羽衣」「熊野」を訪ねる
 謡曲名所めぐり
 11月3日(祝)挙行 会員募集
 ④面参照

演能案内

藤 戸	求 塚	道 成寺	天 鼓	俊 寛	恋 重荷	半 井	井 筒	女 郎花	葵 上	安 達原	松 虫	千 手	通 小町	善 知鳥	合 浦	林 愿蔵師十三回追善会	林 孝蔵師廿七回追善会	林 九月二十二日(日)午前八時三〇分始	熱 田 神 宮 能 楽 殿
阿 斎	阿 斎	早 川	早 川	梅 田	小 泉	加 藤	加 藤	伊 藤	尾 関	長 谷	井 野	山 田	山 田	神 谷	船 越	追善会	追善会	午前九時始	
竹 下	竹 下	早 川	早 川	梅 田	小 泉	加 藤	加 藤	伊 藤	尾 関	長 谷	井 野	山 田	山 田	神 谷	船 越	追善会	追善会	午前九時始	
長 瀬	長 瀬	木 村	木 村	吉 富	富 永	鈴 木	鈴 木	三 井	大 坪	仲 上	綿 飼	綿 飼	田 中	井 上	杉 原	追善会	追善会	午前九時始	
野 村	野 村	宮 崎	宮 崎	吉 富	富 永	鈴 木	鈴 木	三 井	大 坪	仲 上	綿 飼	綿 飼	田 中	井 上	杉 原	追善会	追善会	午前九時始	

中部金剛会会員謡曲舞子会(第一部)

主 催	後 援
林 潤	松 一
水 子	雪 謡
生 会	会 会

東京
 十月二十七日、観世樂
 堂で故大観十三師追善能
 能「焼捨」(大観秀夫)
 舞臺子「嵯峨」(観世元正)、「雨」(花
 柳 寛三)

詩集

一茶が、江戸から郷里の信州へかえる旅中の或日、早朝、宿の食...

有り明けや、浅間の霧が、緒にはう。

つづく法師が鳴き、雁来紅が深紅に色づきそめると、秋は、しのびよるよりに近づいてくる。

有明 井栄逸

能 紀 行

有明 井栄逸

(44)



より渡来した。其の内の青山は、当時、京都の仁和寺に童形として仕え...

有明の月が、夜が明けてもそしらぬ顔で、空にかかっているよ...

有り明けの、つれなく見えし別れより、暁ばかり憂きものはなし。

旅の馳走に有り明かしおくと、いった風情は今の宿では味えない。

Table with columns for dates (9月, 10月) and program details for NHK radio broadcasts.

平家物語系の修羅能の一つである。香りを放つことであらう。

Table listing names and roles for the '中 部 金剛会 定式能' (Middle Division Kongo-e Dosei Noh).

Table listing names and roles for the '名古屋観世九皇会 第三回定期能' (Nagaya Kansei Kyu-ko Kai 3rd Regular Noh).

Table listing names and roles for the '青 陽 会 能' (Aoyu Kai Noh).

Table listing names and roles for the '名古屋観世九皇会' (Nagaya Kansei Kyu-ko Kai).

名古屋観世九皇会秋季大会 十月六日(日)午前十時開曲 熱田神宮能楽殿

の錢だろうか、すわっている食膳のあたりまで這うようにして流れてくる情景をよんだ句である。

に、人によつては、有明の月が絶望につながらないともかきさらぬ。

Table with columns for dates and names, including NHK and NKK schedules.

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その24)

力強い能堂の能評 (本稿は謡曲界、昭和十四年二月号「近頃のことより」)

各地だより

日本能楽会公演

9月14日 金沢能楽文化会館 重要無形文化財能楽総合指定...

佐野 正治 殿田 保輔 飯島六乃輔 片岡 吉雄

飯島六乃輔 片岡 吉雄 飯島六乃輔 片岡 吉雄

飯島六乃輔 片岡 吉雄 飯島六乃輔 片岡 吉雄

飯島六乃輔 片岡 吉雄 飯島六乃輔 片岡 吉雄

余場は白一色となり、実になんというか感謝の念で一ハイになったものです。

願問能をしたのは名古屋が一番早いのでありまして、いつか雑誌に沼津雨さんで...

なんでも、後で聞いたのですが、「狂言は解りやすく面白」という声があった...

仕舞 五之段 大坪十喜雄 綱之段 金井 幸

中部金剛会

中部金剛会では、このたび大塚一二氏(名古屋千種区城山町)が会長に就任された。

師一周忌追善能

山本勝一師が「卒都婆小町」...

出版紹介

田鍋惣太郎追悼誌 竹尾邦太郎氏が編集発行...

呉竹離子会

呉竹離子会(寛三男師)は、八月二十五日、昭和区・東陽飯店でゆかた会を催し...

名古屋謡世九皇会秋季大会

十月六日(日)午前十時開曲 熱田神宮能楽殿

Table listing names and roles for the Nagoya Ukiyose Kyuwa Autumn Meeting.

昭和49年度名古屋市民芸術祭参加 第十六回狂言やるまい会公演

十月十日(祭)午後一時始 熱田神宮能楽殿

Table listing names and roles for the 16th Kyogen Yaru Mai Kai performance.

修風会大会

十月十二日(土)九時半始 熱田神宮能楽殿

Table listing names and roles for the Shuho Kai Taikai performance.

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社
名古屋市中区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一部 35円

20日 梅猶会別会能

善知鳥(替翔入)など能三番

名古屋まつり、市民芸術祭など秋たけなわの芸術シーズンのなかで中部能楽界は熱田神宮能楽殿を中心に各流、社中の演能が多彩に催される。

十月十日(祝)では野村又三郎師主宰第十六回を数える狂言やるまい会公演、本年名古屋市民芸術祭参加として「萩大名」「祭化」「祐善」「蝸牛」を上演、十二日(土)は名古屋修風会(梅若修一師)は前号既報のとおり、能「羽衣・和合之舞」を大島貞子さんが披く。同会は昨年十周年記念の会を催し今回は第十一回、東京修風会も去る七月東京・観世能楽堂で盛大に催された。

二十日(日)は、名古屋梅猶会(梅若盛義師)が梅若盛義師の三回忌にあたり、別会能として、初番能「郎那・小昔夢中舞舞」(シテ岡田朗詠師)「井筒・小昔物着」(シテ梅若修一師)切能には「善知鳥・小昔替翔入・外之浜風」(シテ梅若盛義師)ワキ高安流宗家、大鼓大倉七左衛門師、笛藤田流宗家をそろえての演能。

とくに「善知鳥」のカケリは、鳥を追って打ち落とすという写実的な、物真似の要素の強いもので善知鳥独特のもの。一曲中クライマックスといふべき部分を占め、

◆ 演能カレンダー ◆
(熱田神宮 能楽殿)

〔10月〕
10日(祭) 狂言 やるまい会公演 (有料)
12日(土) 修風会 秋季大会
13日(日) 風韻会 能楽大会
20日(日) 梅若盛義師三回忌追善梅猶会能 (有料)
27日(日) 秋の淡交会

〔11月〕
3日(祭) 幸友会 秋の会
4日(休) 正風会 秋の会
9日(土) 一福会・叶石会 秋の会
10日(日) 観世会 邦定式能 (有料)
17日(日) 和泉会 邦定式能 (有料)
23日(土) 竹韻会 能楽大会
24日(日) 竹韻会 能楽大会

〔12月〕
1日(日) 歳末助け合い義捐能 (有料)
8日(日) 宝生会 邦定式能 (有料)

(演能変更の節はご了解下さい)

名古屋梅猶会別会能
十月二十日(日) 午前十一時三十分始
熱田神宮 能楽殿

御来場歓迎
後援 毎日新聞社

主催 殿風島修二
後援 毎日新聞社

主 演
殿風 島修二
大 殿 文蔵
大 殿 秀夫
大 殿 修二
地 謡 三島 泉
水 井 順次
田 井 順次
博 博

風韻会秋季能楽大会
十月十三日(日) 午前九時半始
熱田神宮 能楽殿

主 演
金丸 洋子
高安 滋郎
後藤 孝一郎
吉田 定男
鬼頭 喜太郎
鬼頭 三男

三 輪 間
高安 滋郎
後藤 孝一郎
吉田 定男
鬼頭 喜太郎
鬼頭 三男

丸 間
飯富 雅也
佐藤 卯三郎
福井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

後見 殿島 修二
大 殿 秀夫
大 殿 修二
地 謡 三島 泉
水 井 順次
田 井 順次
博 博

演 能 案 内

三 輪 間
高安 滋郎
後藤 孝一郎
吉田 定男
鬼頭 喜太郎
鬼頭 三男

丸 間
飯富 雅也
佐藤 卯三郎
福井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

後見 殿島 修二
大 殿 秀夫
大 殿 修二
地 謡 三島 泉
水 井 順次
田 井 順次
博 博

附祝言

特別指定席 四千元
A席 三千元
B席 二千元
C席(学生) 一千元

主 演 名古屋梅猶会
後 援 中 日 新 聞 社

井 筒
梅若修一
西村 欽也
柳原 司忠
藤田 昭彦

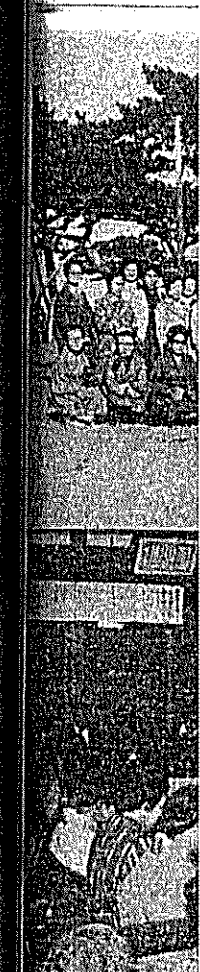
鐘之音
井上礼之助
井上松次郎

子方
橋本 雅一
岡田 朗詠
高安 滋郎
後藤 孝一郎
吉田 定男
鬼頭 喜太郎
鬼頭 三男

船辨度
能楽

子方
橋本 雅一
岡田 朗詠
高安 滋郎
後藤 孝一郎
吉田 定男
鬼頭 喜太郎
鬼頭 三男

間
飯富 雅也
佐藤 卯三郎
福井 啓次郎
藤田 六郎兵衛



このころの訪問を期して同地をあとに出発。岡崎ICを経て、東名高速道路を一路東へ。車中にて謡曲名所めぐり旅行の持ち味々々とも

二、杉村竹翠両師が同行されまし

写真①三保の松原にて記念撮影

(加野記)



高集

能 紀 行

車 争 い 行 (45) 絵と文 二 井 栄 逸



音がして、御息所が下すたれをか... 降るような月光の中に、幻の... 賀茂の祭の車争いの様子を再現する...

六条御息所は、十六歳で前坊の... 妃となり、秋好中宮を生んだが二... 十歳で夫と死別した。源氏と交渉...

或は、斎院（さいいん）に立つ... 前、斎院の一年間こもる宮殿の... ことである。斎院の野宮は京都西...

をかけた綱代張りの御息所の車が... あり、葵はその前に無理に車を... 押し入れたので、御息所の車のし...

それが能である。... 鈴虫の鳴声が少し弱くなってきた... た。そのかわり、こうろぎはとこ...

能楽協会加入

金剛流・吉川周子師（登鶴弥左衛門師取立）は九月、能楽協会へ入会された。

お知らせ

謡曲名所めぐりの募集締切り... 本紙主催の「謡曲名所めぐり」は、...

秋の淡文会番組

- 十月二十七日（日）午前十時半始
熱田 神宮 能楽殿
通小町 西村 欽也
後見 藤井千鶴子
柴田初太郎

幸友会秋の会

- 十一月三日（祝）午前十時半始
熱田 神宮 能楽殿
正風會五周年記念大會
十一月四日（休）午前九時半始
熱田 神宮 能楽殿

観世会定式能

- 十一月十日（日）午后一時始
熱田 神宮 能楽殿
番舞子 富士太鼓
龍土 蜘蛛
高安 滋郎

秋の邦謡會

- 十一月十七日（日）午前九時始
熱田 神宮 能楽殿
御来聴歓迎
主催 名古屋 淡文会

竹韻会能楽大会

- 十一月二十四日（日）午前九時始
熱田 神宮 能楽殿
醉 狂言
梅田 邦久

神歌 水野美代子 梅田 邦久

宮となった娘に対する母性的な気持ちとともに、自らも久しぶりに源氏を迎えた嵯峨野の秋の思い出にひたるのである。

其の夜廻国の僧が、森の木蔭に、何思の星を照らし、その影を、

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その25)

近年は大衆能が盛んに行なわれますが、やはりこうした催しは、大いにやるべきであらうと考えます。能というものを、見たくてもなかなかその機会のない人たちがあつたものです。それで、そういう人には、こうした催しは実によいものだと思います。見る方も大勢ですから、自然大きな場所へもつてゆきますが、椅子へ腰かけるのですから、能楽堂の見所よりはすつと楽に見ることが出来ます。

先日は日比谷で夜討をつとめました。公會堂は三階まであつて、それがすつと急な

各地だより

山本定期能

山本定期能楽会の十月演能は、大阪文化祭参加として、十月五日、山本能楽堂(大阪府東区徳井町一二〇)で行なわれた。

能は「女郎花」(シテ千鶴陸一、ツレ高橋カヨ、ワキ指原雅之助、ソレ高橋カヨ、ワキ指原雅之助、

名古屋

中日文化センターでは、豊嶋弥左衛門師が指導する「名古屋」の稽古が行なわれて、一回(全日)の稽古が行なわれて、現在観世流観世元陽師、宝生流野口久師を招き毎月一回(全日)の稽古が行なわれているが、この十月からさらに金剛宗家の賛意を得て、同流の最高職分、豊嶋弥左衛門師を迎え、金剛流特別講座を開講することになった。

中日文化センターに

十月と十二月の講座開設日は次のとおり。

△十月十三日(日)午前十時、午後六時
△十一月十日(日)午前十時、午後六時
△十二月八日(日)午前十時、午後六時

受講料 一科目二、四〇〇円、二科目四、〇〇〇円
入会金 一、〇〇〇円

中日文化センターは、名古屋市中区栄四丁目一、中日ビル四階 電話(二六二)一一一

小鼓山本敬一郎ほか「松風」(シテ山本勝一、ツレ八木康夫、ワキ岡治郎右衛門)「野守」(シテ波多野晋、ワキ福王輝幸)

なお、山本定期能は十一月二日(土)能「俊成忠度」(山本章博)として、十月五日、山本能楽堂(大阪府東区徳井町一二〇)で行なわれた。

京都 廣田後援会能

金剛流・廣田後援会主催の本年度秋期公演は、十月六日、金剛能楽堂(中京区室町四条上ル)で開催された。

10月・11月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週土曜日午後6時5分)

放送日	番組	出演者
10月19日(土)	親世流「井筒」	信重、重巖
10月26日(土)	親世流「千手」	見金剛、浅手
11月2日(土)	宝生流「葛城」	信重、重巖
11月9日(土)	親世流「清盛」	見金剛、浅手
11月16日(土)	宝生流「夷盛」	信重、重巖
11月23日(土)	親世流「谷行」	見金剛、浅手
11月30日(土)	宝生流「夷盛」	信重、重巖

NHK・FM 毎週日曜日 (午前7時15分)

放送日	番組	出演者
10月13日(日)	親世流「小堀」	信重、重巖
10月20日(日)	親世流「杜若」	見金剛、浅手
10月27日(日)	親世流「合戦」	信重、重巖
11月3日(日)	親世流「夷盛」	見金剛、浅手
11月10日(日)	親世流「清盛」	信重、重巖
11月17日(日)	親世流「千手」	見金剛、浅手
11月24日(日)	親世流「千手」	見金剛、浅手

御来聴歓迎	主催 名古屋淡文会	協賛 名古屋守山区小幡字北山二七五八二二八
御来場歓迎	主催 杉村竹韻夫	協賛 大槻文蔵
神歌	水野美代子 梅田邦久	熱田神宮 能楽殿
胡蝶	小出真佐子 中島芳子	熱田神宮 能楽殿
鞍馬天狗	鈴木茂樹 根木重男	熱田神宮 能楽殿
楊貴妃	野々山幾子 山際静子	熱田神宮 能楽殿
猿	岩田 慎之 後藤孝一郎	熱田神宮 能楽殿
源氏供養	丹羽 久子 後藤孝一郎	熱田神宮 能楽殿
松虫	三口 謙介 後藤孝一郎	熱田神宮 能楽殿
弱法師	小鷲 秀郎 都築 健二	熱田神宮 能楽殿
雲雀山	木村 ひで 後藤孝一郎	熱田神宮 能楽殿
桜川	曾我 澄子 後藤孝一郎	熱田神宮 能楽殿
融五段	別所 道雄 福井啓次郎	熱田神宮 能楽殿
通盛	遠山 巖守 井藤三穂雄	熱田神宮 能楽殿
隅田川	河合雄一 坂野 嘉子	熱田神宮 能楽殿
三輪	浅井 栄子 吉田 定男	熱田神宮 能楽殿
野宮	小林富美子 後藤孝一郎	熱田神宮 能楽殿
船弁慶	羽田 雅子 吉田 定男	熱田神宮 能楽殿
碓	牧野あいつ子 水野 光子	熱田神宮 能楽殿
那	奥村 種子 後藤孝一郎	熱田神宮 能楽殿
藤	藤口 乙子 吉田 定男	熱田神宮 能楽殿
山姥	橋本 淑子 河村総一郎	熱田神宮 能楽殿
花	佐藤 千代 有輪田朝子	熱田神宮 能楽殿
附祝言	主催 梅邦新	協賛 日田新
竹韻会能楽大会	十一月二十四日(日)午前九時始	熱田神宮 能楽殿
草紙洗小町	高安 滋郎 河村総一郎	熱田神宮 能楽殿
遊行柳	近藤 幸江 地福 大西智津子	熱田神宮 能楽殿
定家	稻垣 道雄 大西鏡八郎	熱田神宮 能楽殿
坂卒都婆小町	八神由季代 小島トミル	熱田神宮 能楽殿
後寛	成宮部 保良 康三郎	熱田神宮 能楽殿
葵上	大西鏡八郎 奥村 泰広	熱田神宮 能楽殿
藤戸	恒川 松彦 大西智津子	熱田神宮 能楽殿
安達原	八神 孝充 杉本 達之	熱田神宮 能楽殿
御来場歓迎	主催 杉村竹韻夫	協賛 大槻文蔵

観能雑感

観世会定式能(九月八日)

井筒(観世元正師)。あらかじめ謡本から全体の基調として思い描いていたのは、シテ次第に「月も心や澄ますらん」とあるようにおぼろな春の月とはちがった古寺の秋の月、澄みわたっていくような情調であった。そこでは人の直接的な感情はもとより、内なる想みも歎きも鎮まっていくなかに、重なるように旅僧の夢あるいはイメジから生れるシテがよび出され、面は女性でありながら「業平の形見の直衣」をつけて昔男に移り、舞う。時とともに消えていくこのシテの特質は、静まり澄みわたっていくなかのしみじみとした

幸謡会大会

観世流・幸謡会(近藤幸江師)は、十月六日岡崎随念寺舞台で秋の大会を催した。

能「天鼓」(シテ金井久枝さん、ワキ西村欽也師)「紅葉狩」(シテ近藤幸江師、ツレ横井紀代さん・鳥居千枝子さん、倉地幸子さん、ワキ高安滋郎師)「狂言「清水」(井上礼之助師、井上松次郎師)ほか素謡、仕舞、連吟など三十番。

和島富太郎(喜多) 合同能 嘉夫(観世)

泉 喜多流・和島富太郎、観世流・泉嘉夫師の合同能が十月二十六日大槻能楽堂で、能「井筒」(和島富太郎)「融・小書十三段之舞」(泉嘉夫)

大槻十三・十三 大槻十三・十三 回忌追善能

東京 十月二十七日、観世能楽堂で故大槻十三師追善能能「娘捨」(大槻秀夫)

友社 町2-20 984 6393 400円 500円 35円

情緒、ひとつの、淋しきもつた美しき、思い切れない果敢なきをもつた温かみであろう。そんな想定をしていた。

しかしこの日の舞台はすべて期待していたとおりではなかった。たしかに舞台はゆっくりとした調子で進行しているが、描かれる世界は全体として、生気がありすぎるにぎやかだといふと少しいすぎだが、どこか明るく影がない、深まるとか澄みわたっていく感じはないのである。シテにこれといって不足を見い出せないし見どころもなかった。またシテの姿は、備の夢あるいは心的イメジの存在としてことさらばんやりしたものがある必要はなく、そうした存在としてかえって鮮明である場合もあってよいのであるが、そこにスリとした細やかな美しさはありながら淋しさが、もの悲しい秋の夕べの感情はありながら、後に温かみが残ってこなかった。

離子方(藤田、大倉、河村師)地謡(関根、岡、藤井師他)もしっかりして見事であったが、これもシテとのかけ引きというものがなく一体化しすぎたのか舞台上に幅が生れなかったようである。

観終えたところからいえば、そうした印象は、こちらが想定していたイメジがこの曲に即していなかったためかもしれない。澄みわたって行く、うつろい行くものへの思い入れが勝ちすぎたためであって、この曲は、明るくよく清純な美しさ、秋の夕べの情緒をみてとればよいのかもしれない。いずれにせよこの曲をまたいつか観る機会があるだろう。その時にまた思い返してみたいと思う。

玄象(武田太加志師)テンポが速いところがありながら、この曲の方がまとまりがあり、離子、地謡ともとりたてるほどではないのだが、多声的でおもしろさがあるところがあったのは不思議である。シテは安定しておりなによりくせがなくよい。これが品というものののだろうか。こちらのような素人には演者の個性や表現を、すぐそれとわかるものではないが、否定的なところにかえって、ひとつひとつ間違いない演

栄能楽舞台が完成

9月19日 舞台披きと記念式典



名古屋市中区に建設中であった栄能楽ビル(栄五丁目六番四号)の能楽舞台がこのほど完工、さる九月十九日、竣工式ならびに舞台披きが行なわれた。

当日は午前十時から式典第一部として竣工式が催され、施主後藤新蔵氏のあいさつについて工事関係者、塚本秀雄氏らに感謝状の贈呈、来賓として愛知県岩田参事、名古屋市長山田民生局長、吉川正高県会議員、渡辺義信市会議員、金融関係から後藤新蔵氏の社会事業の献身と、能楽舞台の完成に祝辞がおくられた。

第二部は午前十一時半から舞台披きとして、番囃子「翁」(シテ観世喜之、干歳観世武雄、三番里井上松次郎、面箱大



係者、塚本秀雄氏らに感謝状の贈呈、来賓として愛知県岩田参事、名古屋市長山田民生局長、吉川正高県会議員、渡辺義信市会議員、金融関係から後藤新蔵氏の社会事業の献身と、能楽舞台の完成に祝辞がおくられた。

第二部は午前十一時半から舞台披きとして、番囃子「翁」(シテ観世喜之、干歳観世武雄、三番里井上松次郎、面箱大

野弘之、小鼓頭取福井啓次郎、脇後藤孝一郎、同柳原富司忠、大鼓河村総一郎、笛笠三男)素謡「高砂」(シテ後藤新蔵、ツレ後藤鈴子、ワキ五木田武計、ワキツル塚本秀雄、地頭観世喜之)長唄「鶴亀」(内田り子)で祝賀、名古屋市長から感謝状がおくられ、邦楽協会在々部総会長(名吟会会長)が祝辞をのべた。披露パーティーでは、能楽協会名古屋支部藤田六郎兵衛支部長

らが能楽舞台の落成を祝うことばをおくり、能楽関係者多数が参席名古屋市中心、栄に能楽舞台が完成したことを祝福した。

同舞台は見所は三十六畳、十四畳よりなり、約百五十人収容できる。控室六畳二間、十畳間で、冷暖房設備つき。

〔写真〕①から、栄能楽舞台の舞台披き番囃子「翁」、竣工式であいさつする後藤新蔵氏、③完成した栄能楽ビル

御料理 あつた 蓬菜軒

本店 熱田区神戸町三三四 電話(671)868618
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

飯島六乃輔氏逝去

葛野流大鼓方・飯島六乃輔師は八月二十八日膀胱ガンのため金沢大学付属病院で逝去された。享年六十三歳。

日本能楽会会員、能楽協会北陸支部長として芸道の発展にあずかって大きな力があった。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(西谷 隆)

大会 能楽殿 剛会能

白は清水会(林田子生師)が中核地区観世流の重鎮であつた故林田誠師十三回忌追善会で番囃子「雨月」はじめ素謡「道成寺」「恋重荷」「求麻」など重曲をそるえる。

詠師の意欲が期待されよう。十月は、六日九事会秋季大会、素謡「羽扇小町」「木版」はじめ番囃子など二十数番、十日(体育の日)は第十六回やるまい会(野

林 愿蔵師十三回忌 追善会番組
林 孝蔵師廿七回忌

雨 犬飼末吉 番囃子
丹羽明 佐藤大俊 河村総一郎 後藤孝一郎 鬼頭三男郎

■生きた設備を誇る日進堂
メガネ調整設備は、正しいメガネ・快適なメガネづくりの根本です。日進堂は視力測定・メガネ調整用の諸設備はもちろんのこと、必要なときには数分でピックアップできる...お客様一人一人の視力記録システムなど常に生きた設備の充実を心がけています。

■ピス一本にも全神経を集中する日進堂
メガネ店の技術をささえるもの—それは、お客様の信頼におこたえする責任感とまごころです。正しいメガネを安心してご使用いただくために、日進堂は、たとえピス一本にも全神経を傾倒しています。

■徹底した日進堂のアフターサービス
メガネをいつも正しく、最良の状態でご使用いただけるよう努めることもメガネ店のためです。日進堂は可能な限りの修理サービス、レンズ・フレームの清掃サービスを無料でやっております。いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。

正しいメガネでしあわせを.....

日進堂

名古屋市西区上島町57(円頓寺本町)
TEL (571) 6181-3

柔道着製造販売 株式会社 白虎堂

名古屋市西区笠取町
電話 (522) 6161番

かまきすなら かすが山 扇か小太郎 十松金 人ごうたの列を 買ひなす くれし 十松やで 十松金初井 (21) 三三三



名古屋・本山駅

電 762-2434

能 樂 の 友

題字は熱田神宮 榎田宮司筆

発行 能 樂 の 友 社

名古屋市中千種区吹上本町2-20

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 400円

郵送の場合 1年 500円

一部 3.5円

六	廿二日	(日)	狂言会
廿八日	(土)	和調会	
廿九日	(日)	鳳鳴会	

能 樂 の 友 義捐 三番 を 上演

12月1日 熱田神宮 能樂殿

演能カレンダー (熱田神宮 能樂殿)

11月	17日(日)	秋の邦謡会 (来場歓迎)
	23日(土)	和泉狂言会 (有料)
	24日(日)	竹韻会能楽大会 (来場歓迎)
	30日(土)	久田徹二師範独立披露能 (来場歓迎)
		久田徹二師範独立披露能 (有料)

12月	1日(日)	歳末助け合い義捐能 (有料)
	8日(日)	宝生会鑑賞能 (有料)
	13日(金)	高文月会 (高校生対象)
	15日(日)	文月会

昭和50年1月	5日(日)	藤田流初笛吹式
	7日(火)	学舎生能楽会
	15日(祭)	名古屋清韻会能
	26日(日)	観世流・喜多流・和泉流 三流合同能 (有料)

能樂協会名古屋支部(藤田六郎兵衛支部長)では、昭和四十四年から歳末助け合い運動に協賛して義捐金募集能を公演、能樂愛好者の温かい理解と協力によって盛大に開催され、愛知県、名古屋市に

それぞれ義捐金が寄附されているが、この第六回の義捐能は、きたる十二月一日(日)熱田神宮能樂殿で催される。今回は、昨年と同じく能三番、観世流能「富士太鼓」(シテ殿島修二、子方河村真之介、ワキ西村欽也)宝生流能「吉野静」(シテ鬼頭嘉男、ワキ高安滋郎)観世流能「義上」(シテ佐藤太俊、ツレ熊沢美子、ワキ高安勝久、ワキツル飯富雅介)、狂言「墨塗」(井上礼之助、井上松次郎、大野弘)

名古屋観世会 50年度定式能
名古屋観世会主催の昭和五十年定式能は、二月九日を初回として五回行なわれる。予定番組は次のとおり。

二月九日(日) 初回
老松 観世 喜之
東北 観世 元正
野守 観世 元昭
四月十三日(日) 第二回
半部 梅若万三郎
鞍馬天狗 藤井 久雄
六月八日(日) 第三回
巻網 観世 元正
花鏡 梅若 六郎
九月十四日(日) 第四回
俊寛 大槻 秀夫

名古屋宝生会 50年度定式能
名古屋宝生会主催、昭和五十年(第十九期)定式能は、二月二日を初回として三回催される。予定番組は次のとおり。

第一回 二月二日(日)
素齋熊 野戸田 和 竹内澄子
芦刈 内藤 泰二
百 辰己 孝

第二回 六月十五日(日)
巻網 倉本 雅一
野宮 観世 寿夫
海士 片山博太郎
十一月九日(日) 第五回
野宮 観世 寿夫
国栖 大西 信久

第三回 九月二十一日(日)
大原御幸 宝生 英雄
花鏡 野村 蘭作
一調 船井 辰己 孝
天鼓 野口 禄久
各回とも他に狂言・素齋・仕舞、午後一時始
年会費 一口六千円

名古屋宝生会事務所 名古屋市中区東門前町三十二
電話(九三三)一四二九番

秋の邦謡会
十一月十七日(日) 午前九時始
熱田神宮 能樂殿

水野美代子 梅田 邦久
小島 秀郎 都築 健二
河合雄一郎 二村 撰三
坂野 嘉子 杉藤 芳男
牧野あけ子 杉本 珠子
水野 光子 小野田正子
佐藤 千代 有輪田鶴子
有輪田鶴子 小野田正子

主催 梅田 邦久
主審 久 会

和泉狂言会
十一月廿三日(土) 午後一時始
熱田神宮 能樂殿

大名 井上礼之助 太郎冠者 井上 祐一
童 井上松次郎 今枝 雄婿
地謡 今枝 雄婿
今枝 雄婿 今枝 雄婿
今枝 雄婿 今枝 雄婿

久田徹二師範独立披露
十一月三十日(土)
熱田神宮 能樂殿

御来場歓迎
主審 杉村 竹韻 夫
援助 大槻 秀夫

披露能
十一月三十日(土)
熱田神宮 能樂殿

久田観正会 (御来場歓迎)
十一月三十日(土)
熱田神宮 能樂殿

素齋 竹生島 後藤はる九 伊藤 隆夫
連吟 賀 茂 破田野正徳 佐藤喜久二
仕舞 小袖曾我 神谷 功 平野 文彦
連吟 藤 野 佐竹 皓 清 経 安川 光雄
連吟 草子洗小町 河野 昌史 今井 良直
独吟 松 虫 本多 俊雄 山 純 後藤はる九
仕舞 屋 島 神谷 貞子 花 明 後藤はる九
独吟 笹之段 岡田 京子 花 明 後藤はる九
独吟 菊 童 滝 寿美子 花 明 後藤はる九
連吟 藤 野 新野 富子 馬場 信至
連吟 藤 野 新野 富子 馬場 信至
連吟 藤 野 新野 富子 馬場 信至
連吟 藤 野 新野 富子 馬場 信至

金五千円
詳細は能樂ビル(名古屋市中区栄五丁目四一四) 電話(二六二)一八三八へ

本店 熱田区神戸町三四 電話(67)8686
神宮東門前 熱田区新宮坂町一 電話(68)5598(代表)

おで 一品料

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その26)

上には木の葉にそれぞれの曲目の植物をまぜて舞く。それによって舞台は東の国の隅田川の岸となり、洛西の西行庵となり、信州の戸隠山になるのであるからヤマは、戸隠山にちなんで「戸隠」の作用を、

「石橋」を抜く。
また、当日は久田正正会の中により門出を祝う社中会が併せて開催される。

「この道六十年」は、大槻十三の遺稿集である。大槻十三は、昭和二十九年一月三日に薨逝された。享年六十七歳。大槻十三は、大槻清順の長男で、大槻清順の遺稿集「大槻清順遺稿集」の編纂者である。大槻十三は、大槻清順の遺稿集「大槻清順遺稿集」の編纂者である。大槻十三は、大槻清順の遺稿集「大槻清順遺稿集」の編纂者である。

大槻十三は、昭和二十九年一月三日に薨逝された。享年六十七歳。大槻十三は、大槻清順の長男で、大槻清順の遺稿集「大槻清順遺稿集」の編纂者である。大槻十三は、大槻清順の遺稿集「大槻清順遺稿集」の編纂者である。大槻十三は、大槻清順の遺稿集「大槻清順遺稿集」の編纂者である。

五番独演能と体力

私どもの会——大槻清順会では、毎年初会を隔日にかかわらず一月三日に催すことになっておりますが、なかなか成績がよろしいようではございません。戦中のお蔭で、年始のご祝儀に回る習慣がなくなりまして、正月も装束のつけかえに体力を消耗しますので、

大阪・演能案内

銀婚記念能

十二月十五日(日)午後一時始
大阪市東区上本町一丁目
大槻能楽堂

- 南條秀雄 奥村富久子
大槻 秀夫 佐々木勝輝
老松 生一 奈知
花松 泉 嘉夫
鴛鴦 堀谷 武治
恋重荷 小林 義明 三島 太郎
遊行柳 大西 信久
狂言福の神 茂山 千作ほか
演 沼 紳雨

- 能 草子洗小町 指吸雅之助
荒山 孝 赤井 藤男
山本 照雄 片山博太郎ほか

一般 3000円
席 5000円
特別賛助会員券

入場券申込所

- 主催 玉心会
助 華心会
後援 洗心会
協賛 華心会
- 京都市左区永観堂西町20 電話075-070767
南条 秀雄
神戸市兵庫区須佐野通2-13 電話078-1974
奥村富久子 玉心会
大阪市東区北久太郎町3-23 電話06-4297
大槻能楽堂
三重県松阪市西ノ庄1-05 電話059-82(2)7545
辻 菊蔵
名古屋市中区栄一-11-4 居東屋内
名古屋 玉心会
電話(22)1037
ほかに出演楽師方

義捐金募集能(第六回)

十二月一日(日)午前十一時始
熱田神宮 能楽殿

- 後見 久田初太郎 地謡 加藤保三 長谷川元三 塚本大樹 文雄
柴田収武 水藤三郎 塚本大樹 文雄
後見 柴田初太郎 地謡 加藤保三 長谷川元三 塚本大樹 文雄
柴田収武 水藤三郎 塚本大樹 文雄

吉野静

鬼頭 嘉男
野村又三郎 佐藤 友彦
河村総一郎 藤田 昭彦

熊坂

坂 長田 鶴
河村総一郎 池田 季信
藤田 直樹 富田 陽二
加藤 豊才 和谷 栄二
山本 和谷 栄二 衡市

塗

井上礼之助
大野弘之
井上松次郎

附祝言

- 主 能楽協会名古屋支部
後 名古屋能楽会
後見 柴田 収武 地謡 青木 保和 中村 和男 杉村 竹雄
柴田 収武 地謡 青木 保和 中村 和男 杉村 竹雄

演能たより

河村一謡会、叶石会の秋の大会
河村一謡会(河村総一郎)
叶石会(河村総一郎)

彦根新能

十月三十日彦根新能
彦根新能

北陸中日能

北陸中日能
北陸中日能

高松

高松
高松

大阪

大阪
大阪

山本定期能

山本定期能
山本定期能

南条秀雄・奥村富久子両師銀婚記念能

南条秀雄・奥村富久子
南条秀雄・奥村富久子

玉心会・関能

玉心会・関能
玉心会・関能

高松

高松
高松

大阪

大阪
大阪

山本定期能

山本定期能
山本定期能

南条秀雄・奥村富久子両師銀婚記念能

南条秀雄・奥村富久子
南条秀雄・奥村富久子

玉心会・関能

玉心会・関能
玉心会・関能

高松

高松
高松

- #### 11月・12月放送予定
- NHKラジオ第一放送 (毎週土曜日午後6時5分)
- 〔11月〕
16日(土) 喜多流「興盛」後藤得三ほか
23日(土) 観世流「桂平」藤井久雄ほか
30日(土) 下懸宝生流「谷行」松本謙三ほか
- 〔12月〕
7日(土) 宝生流「巴」野村蘭作ほか
15日(土) 観世流「朝長」梅若六郎ほか
22日(土) 金春流「朝長」梅若六郎ほか
- NHK・FM 毎週日曜日 (午前7時15分)
- 〔11月〕 源平合戦シリーズ(平家方)
17日(日) 観世流「清経」観世元昭ほか
24日(日) 金剛流「千手」金剛殿ほか
- 〔12月〕 源平合戦シリーズ(源氏方)
1日(日) 観世流「朝長」梅若六郎ほか
8日(日) 観世流「朝長」梅若六郎ほか
15日(日) 観世流「朝長」梅若六郎ほか
22日(日) 観世流「朝長」梅若六郎ほか
- NHK教育TV 11月23日9時
能「半蔵」梅若万三郎ほか

演能の記録



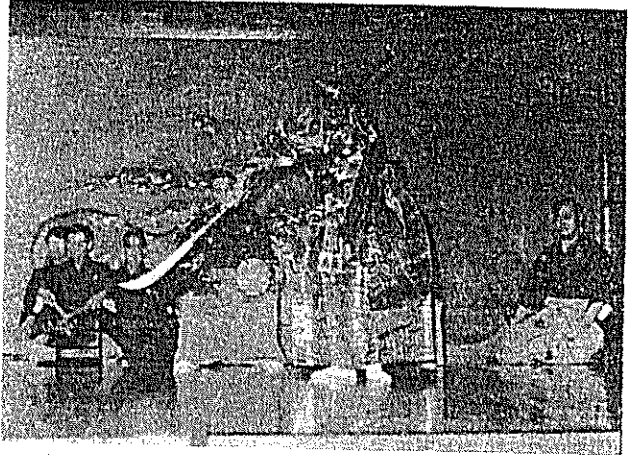
羽衣 大島貞子さん
(49・10・12 修風会能)



三輪 金丸洋子さん
(49・10・13 風韻会能)



蟬丸 セミ 水野雅子さん
サカ 渡辺節子さん
(49・10・13 風韻会能)

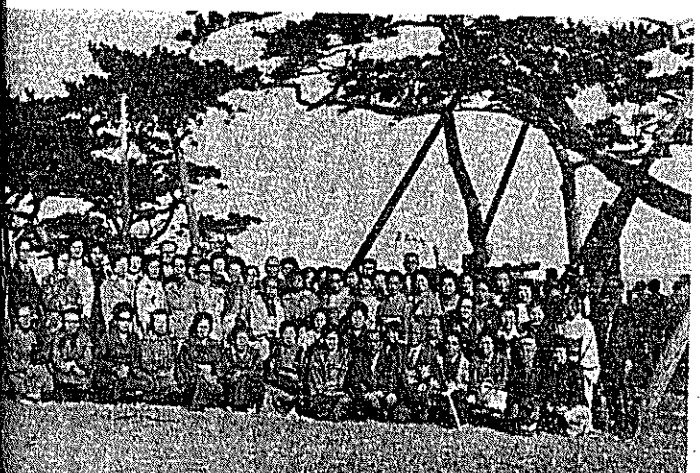


熊坂 富士道周明氏
(49・10・13 風韻会能)

遠江・駿河 謡曲名所めぐり

能楽の友社では、さる十一月三日、第六回謡曲名所めぐりとして「羽衣」「熊野」を訪ねて遠江・駿河路のバス旅行を催しました。これまで謡曲名所めぐりは、京都、奈良を中心として行ってきましたが、今回初めて、「東下り」の企画で、同好の方々六十人が参加しました。

当日は、文化の日で、小春日和を思わせる好天に恵まれ、午前八時四十分名古屋テレビ塔を出発。鳴海、有松を経て九時三十分最初の目的地、「杜若」で著名な三河八橋、無量壽寺に到着。一むらすすき、杜若池の庭園を参観、在原業平の遺蹟をしのび参拝、同乗の松本順一氏により在原寺、業平池の解説をうけ、かきつばたの盛りこのころの訪問を期して開地をあとに出発。岡崎ICを経て、東名高速道路を一路東へ。車中にて謡曲名所めぐり旅行の「持ち味」とも



若」を誦しつつ三河路をあとに、みかんの山々を縫って遠江路に入り、浜名湖サイピスエリヤで少憩。袋井、菊川、吉田ICを経て「千手」を同吟。静岡市西部の手越の里を望見し、静岡ICで東名高速道路に別れ駿河湾と白砂の海岸大浜公園、久能山を右左に「羽衣」を誦しつつ一路清水市へ。十二時五十分、松らいの音につつまれた美保園ホテルに到着、海の幸を盛りこんだ漁場焼きを囲み欲談の花を咲かせました。

昼食後、快晴に恵まれ、未だ雪を頂かない秀峰富士山を背景に記念撮影などを楽しみ約一時間休憩

午後一時五十分羽衣の松を見学。つづいて、御神神社に参拝、能楽愛好者のためとくに宝物殿を開扉して頂き、羽衣の布などを参観、記念スタンプは大賑い。清水市内を経て東へ向かい、興津にある岡東の名刹・清見寺を訪問、「三井寺」のシテ狂女の国里、また清見寺の鐘のゆかりをしのび、住職のはからいで、鐘楼に登り梵鐘を見学、名勝築山池泉廻遊の庭園を参観、午後三時半同寺をあとにバスは清水ICから再び東名ハイウェイに入り静岡、焼津を打ち過ぎ車中で「三井寺」「井筒」を誦す。名勝見学と、素謡の「温習会」というハードスケジュールにもかかわらず、マイクをとおして、役々の「名調子」に長途も忘れ、袋井ICから国道一号线に入り、磐田市を通過して「熊野の長藤」の道標にみちびかれて午後五時池田の宿行興寺（熊野寺）に到着。川口住職の案内で熊野御前の廟に参拝。本堂にて役々により「熊野」を誦す。

住職の特別のはからいで宝物殿曲「熊野」絵入りの巻物、熊野御前が愛用した調度品、硯などを参観、同好ならではのご接待を頂くうちに時も過ぎ、午後六時熊野寺に別れを告げ、天龍川を渡り浜松ICから東名高速道路へ。「小鍛冶」を同吟しつつ豊田を経て午後八時つづがなく名古屋・米に帰着しました。

今回は、とくに長途でもあり、時間的にもつめたスケジュールでまた補助席もいっぱいという満員でしたが、参加者皆様のご協力を頂きましたことを感謝致します。

また、お訪ねした知立・無量壽寺・三保・御穂神社、興津・清見寺さらに池田・行興寺の御住職、御神職、関係者の方々紙上をもつてご厚意を感謝致します。

なお能楽の友人として殿島修二、杉村竹翠両師が同行されました。

写真③三保の松原にて記念撮影 (加野記)

友社
本町2-20
4) 7984
36393
400円
500円
35円

2010月 梅猶会別会能

演能案内 風韻会秋季能楽大会

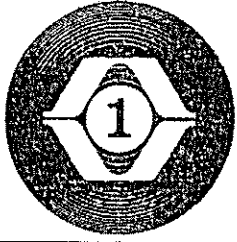
船辨慶キリ 熊沢忠美子
地謡 後藤孝一
森田味智代
梅池内一修
池内一修
三男

医療衛生用品総合商社
八神商事株式会社
取締役社長 八神 幸一
本社 〒460 名古屋市中区丸の内三丁目11ノ4
電話 052) 971-8671番 (代表)
営業所 西・熱田・東京・大和・静岡
浜松・岡崎・岐阜・津

割烹・小料理 **城**
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路 (中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル (愛労野地下ビル)
電話 731-1128

親世流・金剛流 宗家本元
檜書店
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話 (291) 2488-9
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 振替 東京 3552
電話 (231) 1990 振替 京都 113

◇あらゆる建築の設計に応じます
株式会社 小川建築設計事務所
取締役社長 小川 貞三
名古屋市昭和区長戸町6-24 電話 841-0731



現代をみつめる眼 東海テレビ

能 樂 の 友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行 能 樂 の 友 社

名古屋市中千種区吹上本町2-20

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 3 6 3 9 3

購読料 1年 400円

郵送の場合 1年 500円

一 部 35円

尾張旭市城山町三ツ池6198
電話〇五六一五〇三三〇(四)
名古屋市中区流川町三三(七)
電話二四一三三九三(七)

歳末助 義捐能盛會

12月1日 能3番を上演

能楽協会名古屋支部では、さる十二月一日、熱田神宮能楽殿で、「第六回歳末助け合い義捐金募集能」を開催した。

高安滋郎、岡野村又三郎、喜多流舞臺子「熊坂」(シテ長田鶴)狂言「墨塗」(井上礼之助、大野弘之、井上松次郎)観世流能「粟上」(シテ佐藤太俊、ツレ熊沢恵美子、ワキ高安勝久、ワキツレ飯富雅介、間 佐藤卯三郎)見所もはば満員、歳末をかざる義捐能は熱演で午後四時終了した。

宝生流新宗家 宝生英雄氏が継承

12月21、22日に披露能

宝生流第十七世宗家宝生九郎氏の逝去にともない、嗣子英雄氏が十八世宗家を継承されることになり、その「宗家継承披露能」が十二月二十一日、二十二日の両日にわたって東京・水道橋能楽堂で開催される。

五年祝言「金札」で初シテ。昭和八年「石橋・連獅子」昭和十年、「乱」昭和十四年「道成寺」を披露。昭和十六年入隊、中支へ出征、昭和二十一年復員、直ちに舞台に復帰、昭和四十六年能楽協会理事長に就任している。

神戸五流能

神戸市では、市の主催によりこのたび「神戸五流能」を明春一月十八日(主)神戸文化ホールで開催する。

演能カレンダー

(熱田神宮 能楽殿)

[12月]

15日(日) 文月会別会

[昭和50年1月]

5日(日) 藤田流初笛吹式
7日(火) 学 生 能
15日(祭) 名古屋清韻会能 (来場歓迎)
26日(日) 喜多流 和島富太郎・観世流 泉 嘉夫 合同能 (有料)

[2月]

2日(日) 宝生会定式能 (有料)
9日(日) 観世会定式能 (有料)
11日(祝) 邦 誦 会 能 (有料)
16日(日) 梅 若 実 師 追 善 会 (有料)
22日(土) 梅 若 実 会 能 (有料)
23日(日) 青 陽 会 能 (有料)

(演能変更の節はご了解下さい)

演能案内

文月会別会

十二月十五日(日) 十時半始
熱田神宮 能楽殿

能鶴 吉田 正徳
吉田 俊彦
曲入 高安 滋郎
飯富 雅介
佐藤 友彦

能大原御幸 谷野安五郎
後藤孝一郎
藤田六郎兵衛

能安宅 高安 滋郎
福井啓次郎
寛 三男

能阿漕 高安 勝久
吉田 定男
柳原富司忠
鬼頭喜太郎
藤田 昭彦

能阿漕 高安 勝久
吉田 定男
柳原富司忠
鬼頭喜太郎
藤田 昭彦

名古屋清韻会能
昭和五十年一月十五日(祭) 十時始
熱田神宮 能楽殿

神歌 長谷川 実
千歳 近藤 一清
日比大吉郎 今村 嘉男
地謡 関谷 昌三
福間 三男
水島 元三
富士道周 明

高砂 日比大吉郎 今村 嘉男
地謡 関谷 昌三
福間 三男
水島 元三
富士道周 明

Table listing names and roles for various performances, including names like 高安 滋郎, 吉田 正徳, 谷野安五郎, etc.

あなた 富 社 本 ショールーム 工

能 紀 行

(47)

聖母往来

絵と文 二 井 栄 逸

能面のような表情をしたマリヤ像をかいてほしい、と頼まれたことがあった。依頼主はカトリックの神父、スタインバックさんであった。故国のアメリカはなれて、教えを説く神父は、まことに物静かで、又、雄々しく、そして、常に揺る人達の温かい救い主であった。私がつき合っている人達の中で、最も敬慕する一人である。国の施設にも収容されないような重度の精神児を収容し、大いなる恵みの力にあえようと、カトリック育児園を建設されたのもその願望の一つであった。

国道より奥に入った静かな伊勢平野、それは、一志米(いちしまい)と言って野司米にはこれぞ、と、言われる位おいしいお米の出来る田園と点在する林の間に瀟洒なスタイルで建設された育児園は教会のようにも見えた。秋になると、こがねの波の中に白と黄土色で構成された姿がいかにもしっくりと調和して美しくかつたのである。

なぜ神父は能面のようなマリヤ像をのぞまれるのですか、と、伝道師の川口徳太郎さんにきいたら、マリヤ様は日本のマリヤ様ではないのです。日本の人々から慕われる代表的な母親のような顔がいいのである。神父様は、日本の能面の中に、日本のマリヤ様を発見されているのですよ、とのことであった。そこで、私は女面であれこれ考えた。曲見は中年で母顔を少しする女面であるが、人生苦が少し邪魔をするし、孫次郎は代表的な若い美しい女の面であるが、この面の周囲にたゞよう不可解な美しさ、マリヤには少しあてはまらないようだし、永遠の処女性を尊ぶマリヤ様なら増(ぞう)はどうかと思ったが、全く男性の存在すら知らない増女は、純潔無垢ではあるに消いかであるが、表情が直線的で情感がない。小面では少し若すぎる。結局二十四才から三十才にかけての女面、若女をかくこ

とにした。このマリヤ像は、縦三米ぐらいのステンドグラスに仕上げ、礼拝堂にセットするといふので、実物大のマリヤ像と、箆の中にねむる赤らやんのイエスをかくことにした。

私は、クリスチャンではないので分らないことは川口伝道師にきき苦勞してかき上げた。専門の能面をかくよりむしろかき上げて大苦勞をした。そして、出来上がった原稿は、海を渡り、ステンドグラス制作では世界で最優秀といわれるベルギーでステンドグラスに浸身し、日本に帰ってきたのである。そして、育児園の礼拝堂にかけられ、春面に太陽の光を受けて明るく輝いている。

なんでもないことではあるが、能面のイメージから、日本のマリヤ像が誕生したことが嬉しくこのマリヤが人種を超えて人々の心の中に灯をともしてくれるのであれば、これにこした喜びはない。

神父は、現在京都の韓国カトリックセンターで、あの物静かに

高集

はがえって気持よく舞えました。普通の能楽堂ですと、比較的舞台が暗くて見所の方が明かるいのですが、あそこはちよとそらの反対で、舞台がグッと明かるいのですから、自分たちだけが輝いていて、見物の人

追善能
五十年二月二十二日(土)十二時三十分始
熱田神宮 能楽殿



狂言方・野村万蔵氏
日本芸術院会員に
野村万蔵氏は定数二百二十人で欠員補充のため十一月十八日選出が行なわれ、狂言和泉流・野村万蔵氏が会員に選ばれた。狂言方としては初の芸術院会員である。

坂井首次郎氏
幸 円次郎氏 秋の叙勲
文化の日の秋の叙勲にあたり、能楽関係では、親世流シテ方坂井首次郎氏(勲五等旭日章)幸清流小鼓宗家・幸円次郎氏(勲四等旭日章)能楽評論家北岸佑吉氏(勲四等旭日章)がそれぞれ受賞された。

坂井首次郎氏は、明治二十六年六月一日、東京に生まれ、先代親世宗家左近師に師事、昭和四十年重要無形文化財(総合指定)に認定。社団法人能楽協会理事

幸円次郎氏は明治四十三年三月二十九日東京生まれ、大正十五年宗家(十四世)を継承。昭和三十三年重要無形文化財(総合指定)能楽協会理事を歴任。

北岸佑吉氏、明治三十六年七月二十九日滋賀県生まれ。朝日新聞記者として演劇、能楽関係を担当。朝日五流能、フニステイバル能、朝日狂言会などを手がけ文化財保護委員として

演能案内

喜多流 和島富太郎 泉 嘉夫 合 同 能	一月二十六日(日)午後一時始 熱田神宮 能楽殿
弱法師 和島富太郎 伯母ケ酒 野村又三郎	西村 欽也
杜若 名古屋喜多流鑑賞会 壺 泉 能 友 会	高安 滋郎

観世会定式能
二月九日(日)午前十一時始
熱田神宮 能楽殿

昭和50年新春テレビ番組

NHK教育テレビ 午前八時 (午後七時再放送) 二月一日(祝) 能「藤」(金春流) 金春 信高 二月二日(未) 狂言「釣針」三宅藤九郎 「三本柱」 茂山 千作 二月三日(金) 能「大江山」(喜多流) 喜多 実	NHKラジオ 午前七時 (午後五時再放送) 一月一日(祝) 新春五流謡曲 「巖宮」 信高「嵐山」宝生 英雄 「東北」親世 元正「芦刈」喜多 実 「鞍馬天狗」金剛 巖
---	--

野守
節 分
観世 元昭
高安 滋郎
黒頭 佐藤 友彦
吉田 定男
福井啓次郎
観世 元信
野 間 佐藤 友彦
藤田 昭彦

附祝言
主催 名 古 屋 親 世 会
昭和五十年年度会費 (年額五回分)
指 定 席 一四、〇〇〇円
自 由 席 一〇、〇〇〇円
お申込は名古屋親世会所属楽師又は熱田神宮能楽殿で取扱います

昭和五十年年度予定番組
二回 四月十三日(日) 四回 九月十四日(日)
半 部 梅若万三郎 俊 寛 大槻 秀夫
鞍馬天狗 藤井 久雄 海 士 片山博太郎
白頭
三回 六月八日(日) 五回 十一月九日(日)
巻 絹 観世 元正 野 宮 親世 寿夫
花 筐 梅若 六郎 国 栖 大西 信久

追善能
野村又三郎
井上松次郎
佐藤卯三郎
山本 勝一

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その27)

以前神戸に広田花月という人がありましたが、この人は大して有名ではなかったのですが、能の逸話のようなものを集めて、本を一冊出してあります。この人が大阪へ来た当時は、なんでも小言にしてしまつて、かなりイジメく、盛んにやつたものです。それから諸兵衛という名で、多分読売新聞でした。盛んに書いた人がありましたが、その後坂元雪馬氏が出たのですが、雪馬氏も初めうちははずいぶんひどく書かれていたものです。

近年は能が盛んに行なわれますが、やはりこういふ催は、大いにやるべきであらうと考えます。能といふものを、見たくてもなかなかその機会のない人たちがいるのです。それで、そういう人には、こうした催は実によいものだと思ひます。見方も大勢ですから、自然大きな場所へもつてゆきますが、椅子へ腰かけるのではありません。能楽堂の見所よりは、ずっと楽に見ることが出来ます。先日は日比谷で夜討を勧めました。公会堂は三階まであって、それがずっと急な坂になっていて、ちょうど谷底で演つていふような形になります。その上妙なところからライトを当てられるので、まるで能楽堂とは調子が違います。ライトは光ばかりでなく、ずいぶん熱をおくるものですから、舞つていて、顔などはなかなかあたたいものです。そんなこんなでどうもあそこは舞にくい、工合が悪いという人があります。

初舞台、最後の舞台

左近 追憶

不思議な縁だ。私は何か強く感じさせられるものがあります。それは、明治三十三年五月、京都で家元(二十四世家元観世左近)が初舞台に「花位」の子方を勧められた当日、私も同じ舞台で「船弁慶」の子方を勧めました。これがまた私の初舞台であったのであります。

そしてこの(昭和十四年)三月十二日、京都丸太町の舞台においては、宗家の「卒都婆小町」に役見をさせて頂いたのです。これが一緒に舞台に出る最後になるうとは、なんとしても考えられないことです。実は再三宗家から「卒都婆を勧めてみよ」とおっしゃって頂いたのです。それでいよいよ私も次の機会には勧めようと思ひましたので、今度は役見としてよく拝見させて頂くことにしたのでした。……私の卒都婆を見て頂けないうちにこういふことが起こるとは、こうなるとなると心残りでした。……

その夜の芸上のお話を一つ記しておきたいと存じます。あの卒都婆では、石王の姥をかけていられたのでしたが、あの面の眼の感じが石王のようだと申しましたら、「そうだね、作者が同じだから、どこか一味通じる味があるのだろう」と語っていました。

本紙第七十号(昭和四十七年十月号)より二十七回にわたって連載させて頂きました「大槻十三遺稿集」は本号をもって終回と致します。掲載にあたりましてご理解を賜りました大槻清親会、大槻秀夫師にあらためて厚くお礼申し上げます。……私の卒都婆を見て頂けないうちにこういふことが起こるとは、こうなるとなると心残りでした。……

12月・1月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週土曜日午後6時5分)

(12月)

- 15日(土) 観世流「朝長」梅若六郎ほか
- 22日(土) 喜多流「調伏曾我」喜多 長生ほか
- 28日(土) 観世流「御膳曾我」大江又三郎ほか

(1月) 新春番組別掲(②面)

- 4日(土) 金春流「小袖曾我」桜間金太郎ほか
- 11日(土) 宝生流「夜討曾我」武田 喜永ほか
- 18日(土) 観世流「七騎落」岡 久雄ほか
- 25日(土) 観世流「歌占」上野朝太郎ほか

NHK・FM 毎週日曜日 (午前7時15分)

(12月) 源平合戦シリーズ(源氏方)

- 15日(日) 宝生流「巴」野村蘭作ほか
- 22日(日) 観世流「兼平」藤井久雄ほか
- 29日(日) 観世流「七騎落」岡 久雄ほか

(1月) 曾我ものシリーズ

- 5日(日) 喜多流「調伏曾我」喜多 長生ほか
- 12日(日) 金春流「小袖曾我」桜間金太郎ほか
- 19日(日) 宝生流「夜討曾我」武田 喜永ほか
- 26日(日) 観世流「御膳曾我」大江又三郎ほか

NHK教育TV

- ・12月31日(火) 午前8時~9時 宝生流「善知鳥」高橋 進ほか
- ・同日 午後7時~8時 喜多流「大江山」喜多 実ほか

昭和三十三年重要無形文化財(総合指定) 能楽協会理事を歴任。北岸祐吉氏、明治三十六年七月二十九日没。賀原生れ。朝日新聞記者として演劇、能楽関係を担当。朝日五流能、フニステイパル能、朝日狂言会などを手がけ文化財保護委員として活動。

東 北 元正 岡治郎右衛門 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛 井上松次郎

追善能

五十年二月二十二日(土) 十二時三十分始

熱田神宮 能楽殿

追見 柴田収武 藤田六郎兵衛

能組 高橋 甫治 山崎英太郎 土田 修仙

通小町 仕舞 田中 武 水藤 元三 加藤総兵衛 杉村 竹翠 柴田 収武 塚本 秀雄 河村 一雄

江口 梅若 六郎 高安 滋郎 河村総一郎 藤田六郎兵衛

野宮 合掌留 佐藤 秀雄 田中 武 高橋 甫治 山崎英太郎

後見 柴田 収武 地蔵 土田 修仙 梅若 景英

昭和五十年 名古屋観世九臈会定式能

会場 熱田神宮 能楽殿

初回 五月十日(土曜日) 午後一時始

佐々木勝郎 観世 喜之

能放下僧 高安 滋郎 河村総一郎 藤田六郎兵衛

狂言 文山賊 井上松次郎 友彦 弘之

能蟬 吉田 芳雄 高安 滋郎 御原富司忠 鬼頭 季信

替之型 佐藤 卯三郎 笹之段 塚本 秀雄 井 高 長谷川 章 部 野 観世 武雄 高木美智子 西村 欽也 吉田 定男 鬼頭 三男 大和舞 井上礼之助

能葛 附祝言 井上礼之助

第二回 七月二十六日(土曜日) 午後一時始

素盞 実 盛 観世 喜之 長谷川 章 加藤 保彦 有賀 滋子 西村 欽也 河村総一郎 藤田 昭夫 和合之舞 井上松次郎 佐藤 友彦 狂言 伯母ヶ酒

追加

梅若 景英 西村 欽也 後藤孝一郎 鬼頭 喜太郎 黒頭 井上礼之助 藤田 昭夫

宗 論 野村又三郎 佐藤 卯三郎

安達原 梅若 景英 西村 欽也 後藤孝一郎 鬼頭 喜太郎 黒頭 井上礼之助 藤田 昭夫

後見 梅若 景英 地蔵 水藤 元三 加藤 総兵衛 杉村 竹翠 塚本 秀雄 土田 修仙

連絡所 尾張旭市城山町三ツ池6198 (電話) 〇五六一五 〇三三〇四 近 藤 敏治 (名古屋市中区流川町3の12) (電話) 二四一三九三

追加 主催 名古屋梅若会 後援 中日新聞

会費 会員 三、五〇〇円 一般 二、五〇〇円 (自由席) 二、五〇〇円

終回 九月二十日(土曜日) 午後一時始

素盞 千手 長谷川 章 五木田 武計 加藤 保彦 塚本 秀雄 青木 武弘

能清 高安 滋郎 河村総一郎 鬼頭 季信 替之型 御原富司忠

狂言 栗 焼 佐藤 卯三郎 佐藤 秀雄 仕舞 小 銀 治 吉田 妙 籠 太 田 切 有賀 滋子 高木美智子 能天 観世 喜之 高木美智子 鬼頭 喜太郎 附祝言 野村又三郎

名古屋市中区栄五丁目四一十四 主催事務所 後藤能楽ビル五階 観世 九 臈 会 電話(〇五二) 二五一二四四〇番

◎会費 後援会指定席(三回分) 七千円 一般 会員席(右) 五千円 ◎御申込みは各出演諸師並びに当会事務所へ御申出下さい。

